

埼玉県本庄市

旭・小島古墳群

開拓1号墳発掘調査報告書

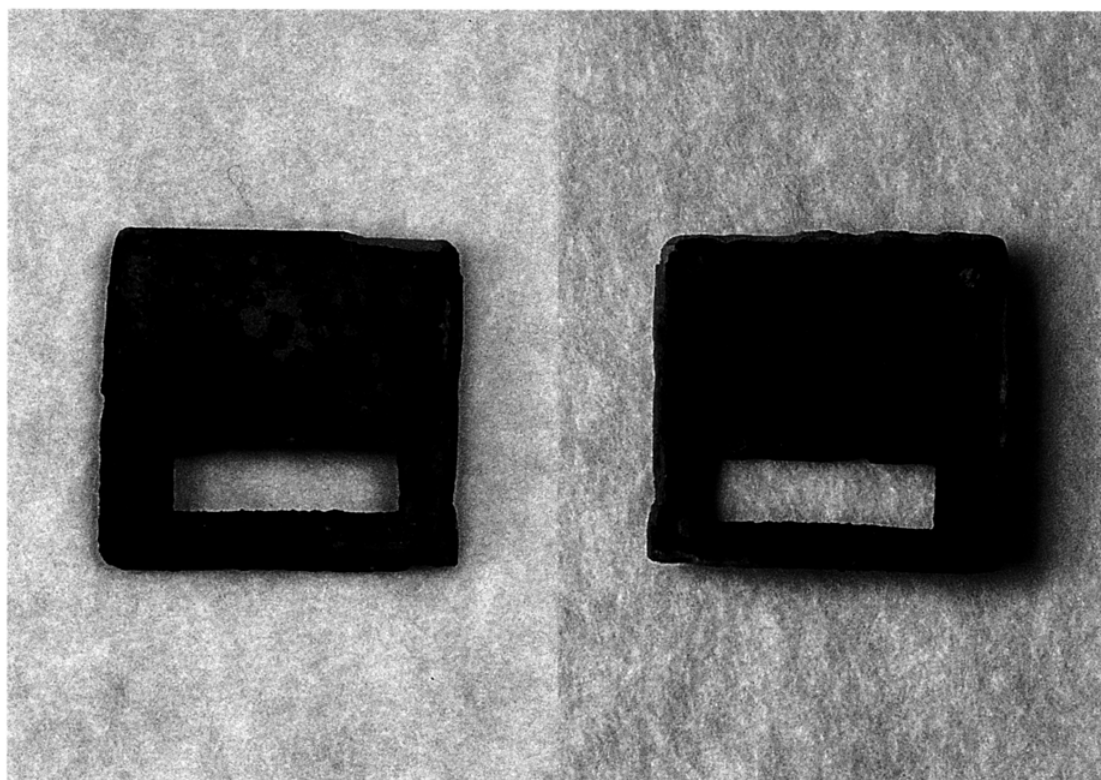
本庄市遺跡調査会

埼玉県本庄市

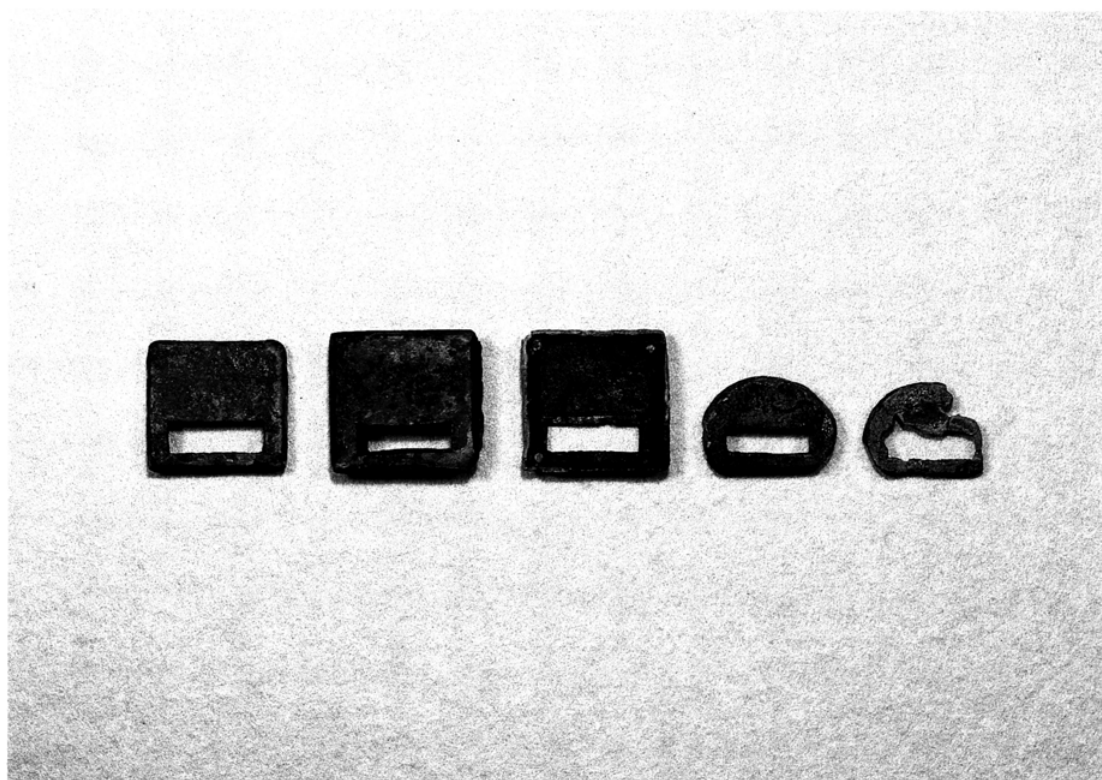
あさひ おしま
旭・小島古墳群

かいたく
開拓1号墳発掘調査報告書

本庄市遺跡調査会



「大」字銘鍔帯金具



鍔 帶 金 具



巡方表面の研磨痕と黒色物質



巡方裏金具と足金具との固定

序

本庄市の所在する児玉地域は古代より交通、文化の拠点として繁栄してきた地域であり、埼玉県内においても、埋蔵文化財の宝庫として注目される所でもあります。

当市におきましても、現在178の遺跡を数え、その保護には努力を重ねてまいりましたが、近年の都市化の波は埋蔵文化財の存在すら危ういものとしています。

今回の発掘調査も、民間開発に伴う事前の記録保存として実施されたものでありますが、その結果、当時の役人が身に着けていた、全国においても極めてめずらしい、文字の刻まれた帯金具が出土いたしました。これらは新聞紙上においても大きく取上げられ、多くの関心を集めるところとなりました。改めて、文化財保護の重要性を痛感いたしました。今後とも文化財の保護については一層の努力を払っていく必要があるとともに、それらが有効に活用されるようにしていかなければなりません。

最後に、常日頃御指導をいただいている埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の皆様をはじめ、調査に対しご配慮をいただいた株式会社コーエー建設の方々、また、限られたなかで直接現地において精一杯の調査に当られた作業員の諸氏に心より感謝申し上げます。

平成9年3月24日

本庄市遺跡調査会
会 長

塩 原 暁

例 言

- 1 本報告書は、埼玉県本庄市大字下野堂字開拓611に所在する旭・小島古墳群開拓1号墳の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、コーエー建設株式会社の宅地造成計画に伴い、本庄市遺跡調査会が同社の委託を受けて実施したものである。
- 3 発掘調査は平成2年度に行った試掘調査の結果をもとに、開発予定範囲のうち遺構の確認された約1600㎡を対象として行った。
- 4 発掘調査は、本庄市遺跡調査会主任調査員柳田敏司の指導のもと、同幹事長谷川勇、同調査担当者佐藤好司が担当した。
- 5 発掘調査は平成3年8月1日～平成4年3月31日にかけて行い、整理作業は平成4年4月～平成6年1月にかけて実施し、報告書作成は平成8年4月～平成9年3月にかけて実施した。
- 6 実測は株式会社パスコに委託して主に写真測量により行い、土層断面図および一部の図面については国家座標による簡易遣り方を設定して手作業により行った。水準は、本庄市道路台帳にもとづく成果によるベンチマークからレベル（測機舎 B-2）を用いて移動し使用した。
- 7 遺物・発掘調査における写真は佐藤・川辺悦代が撮影した。
- 8 出土品の整理・実測・遺物の観察は主に佐藤が行い、川辺、埋蔵文化財センター諸氏の補助を受けた。また、図版のトレース及び図版の作成は主に武井ユカが行った。
- 9 本書の執筆、編集は佐藤が行った。
- 10 本書に掲載した遺構実測図・写真・出土遺物は本庄市埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 文化庁長官に提出した「埋蔵文化財発掘調査通知」および文化庁受理番号は以下のとおりである。
遺跡名 旭・小島古墳群開拓1号墳(53-128)、所在地 本庄市下野堂字開拓611、面積 1600㎡、
通知番号本遺会発第1号 平3・6・20付、文化庁受理番号 委保記第5の1336号 平成3年8月22日
- 12 本書における実測図、および観察表は以下の凡例による。
 - 1) 遺構・遺物の縮尺は原則として次のとおりである。また平面図の北は座標北である。
古墳平面図 1:100 住居平面図 1:60 土層図 1:60、1:40 土器 1:4
金属製品 1:2
 - 2) 遺構実測図のスクリーントーンは、斜線が遺構基盤層(旧表土層・ローム層)を表現している。
 - 3) 土器実測図中の矢印は調整の方向を表し、断面側のヒゲは土師器の場合はヨコナダの範囲を、須恵器の場合にはケズリの範囲を表す。
 - 4) 遺物の観察項目については『旭・小島古墳群発掘調査報告書Ⅰ』に準拠したが、観察表の表記を改めた。また、断面のベタ塗りは須恵器を表す。
- 13 発掘調査、整理、報告書の作成にあたり、次の方々から御教示、御指導をいただいた。記して感謝いたします。(敬称略・五十音順)

阿部義平	新井端	市川修	岩本克昌	岡本幸男	金子彰男
恋河内昭彦	栗原文蔵	小久保徹	駒宮史朗	坂本和俊	篠崎潔
鈴木徳雄	外尾常人	高橋一夫	田中広明	田村誠	徳山寿樹
中島利治	長滝歳康	野中仁	平田重之	増田逸朗	丸山修
丸山陽一	矢内勲	山崎武	吉川国男		

14 発掘調査、整理および報告書の作成の組織は下記のとおりである。

主体者 本庄市遺跡調査会

発掘調査（平成3年度）

会 長	坂本敬信（本庄市教育委員会教育長・平成3年9月31日まで） 塩原 暁（本庄市教育委員会教育長・平成3年10月1日より）
会長代理	金井善一（本庄市教育委員会事務局長）
理 事	柳田敏司（埼玉県文化財保護審議委員） 後藤秀雄（本庄市文化財保護審議委員） 石橋桂一（熊谷市立女子高等学校教諭） 坂上英夫（本庄市教育委員会社会教育課長） 門倉正峯（本庄市総務部企画課長） 川端勝治（本庄市都市整備部都市計画課長） 富田 喬（本庄市都市整備部区画整理課長） 小林金重（本庄市経済環境部土地改良課長）
監 事	岡芹 巖（本庄市行政委員会事務局長） 黒沢雅志（本庄市会計課長）

《事務局》

事務局長	坂上英夫（本庄市教育委員会社会教育課課長）
幹 事	吉田敬一（本庄市教育委員会社会教育課課長補佐） 長谷川 勇（本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係係長） 増田一裕（本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係主任）
事務員	赤尾直行（本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係主事）

《調査団》

主任調査担当者	柳田敏司（理事兼務）
調査担当者	長谷川 勇（本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係係長） 佐藤好司（本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係主事補）
調査員	川辺悦代
作業員	木村三好 福島清治 斎藤金三郎 関和五郎 山田高次 高田和正 木村タツ

整理作業

会 長	塩 原 暁 (本庄市教育委員会教育長)
会 長 代 理	金 井 善 一 (本庄市教育委員会事務局長)
理 事	柳 田 敏 司 (埼玉県文化財保護審議委員)
	後 藤 秀 雄 (本庄市文化財保護審議委員)
	石 橋 桂 一 (熊谷市立女子高等学校教諭)
	坂 上 英 夫 (本庄市教育委員会社会教育課長)
	門 倉 正 峯 (本庄市総務部企画課長・平成4年3月31日まで)
	五十嵐信弘 (本庄市総務部企画課長・平成4年4月1日から)
	川 端 勝 治 (本庄市都市整備部都市計画課長)
	新 井 克 易 (本庄市都市整備部区画整理課長)
	渡 辺 道 夫 (本庄市経済環境部農村総合整備課長)
監 事	岡 芹 巖 (本庄市行政委員会事務局長)
	黒 沢 雅 志 (本庄市会計課長・平成4年3月31日まで)
	門 倉 正 峯 (本庄市会計課長・平成4年4月1日から)
《事 務 局》	
事 務 局 長	坂 上 英 夫 (本庄市教育委員会社会教育課課長)
幹 事	吉 田 敬 一 (本庄市教育委員会社会教育課課長補佐)
	長 谷 川 勇 (本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係係長)
	増 田 一 裕 (本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係主任)
事 務 員	遠 藤 優 子 (本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係主事補)
《調 査 団》	
主任調査担当者	柳 田 敏 司 (理事兼務)
調査担当者	長 谷 川 勇 (本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係係長)
	佐 藤 好 司 (本庄市教育委員会社会教育課文化財保護係主事)
調 査 員	川 辺 悦 代
作 業 員	関 根 典 子 久保田かづ子 日向みどり 我妻きよみ
	滝沢美知子

目 次

巻頭図版

序

例 言

目 次

I 発掘調査の契機と経過

1. 本庄市遺跡調査会発足の経緯…………… 1
2. 調査に至る経過…………… 2

II 遺跡をとりまく環境

1. 歴史的環境…………… 4

III 調査の経過

1. 調査の経過…………… 7

IV 調査の成果

1. 発掘区の設定と調査の方法…………… 8
2. 墳丘の構造…………… 9
 - (1) 調査前の状況…………… 9
 - (2) 墳 丘…………… 9
 - (3) 周 溝…………… 11
3. 埋葬施設の構造…………… 27
 - (1) 横穴式石室…………… 27
 - (2) 前庭部の遺物出土状況…………… 28
4. その他の遺構…………… 44
 - (1) 第1号住居址…………… 44
 - (2) 墳丘下土器群…………… 44
 - (3) 溝…………… 44
 - (4) 土 壙…………… 44

V ま と め

1. 開拓古墳をめぐる問題…………… 53

写真図版

挿図目次

第1図	遺跡の位置図	3
第2図	周辺の主要古墳分布図	6
第3図	調査区設定図	8
第4図	基準土層図	8
第5図	開拓1号墳調査前墳丘測量図	10
第6図	開拓1号墳土層図(1)	12
第7図	開拓1号墳土層図(2)	13、14
第8図	開拓1号墳横穴式石室	29
第9図	開拓1号墳横穴式石室棺床面下	30
第10図	開拓1号墳横穴式石室掘方	31
第11図	開拓1号墳横穴式石室遺物出土状況図	32
第12図	開拓1号墳旧表土面	33
第13図	開拓1号墳出土遺物(1)	34
第14図	開拓1号墳出土遺物(2)	35
第15図	開拓1号墳出土遺物(3)	36
第16図	開拓1号墳出土遺物(4)	37
第17図	開拓1号墳出土遺物(5)	38
第18図	第1号住居址	45
第19図	第1号住居址出土遺物(1)	46
第20図	第1号住居址出土遺物(2)	47
第21図	旧表土中出土遺物	51
付図1	開拓1号墳全体図	
付図2	開拓1号墳土層図(3)	
付図3	開拓1号墳前庭部遺物出土状況図	

図版目次

- 写真図版 1 調査前の状況（東より） 調査前の状況（北より）
- 写真図版 2 前庭部の石材出土状況（西より） 前庭部の石材出土状況（南より）
- 写真図版 3 前庭部遺物出土状況（南より） 前庭部遺物出土状況（北より）
- 写真図版 4 銚帯金具出土状況（東より） 銚帯金具出土状況（南より）
- 写真図版 5 前庭部の状況（南より） 前庭部西壁の状況（西より）
- 写真図版 6 前庭部西壁の状況（東より） 前庭部石組み断ち割状況（南より）
- 写真図版 7 横穴式石室の状況（南より） 横穴式石室西壁の状況（東より）
- 写真図版 8 横穴式石室遺物出土状況（北より） 横穴式石室遺物出土状況（東より）
- 写真図版 9 横穴式石室床面の状況（南より） 横穴式石室壁体と床面の状況（南より）
- 写真図版 10 横穴式石室根石の状況（北より） 横穴式石室床面下の状況（北より）
- 写真図版 11 横穴式石室掘方の状況（南より） 横穴式石室掘方の掘削具の痕跡（南より）
- 写真図版 12 墳丘盛土の状況（西より） 墳丘盛土の状況（南より）
- 写真図版 13 第1号住居址の状況（東より） 第1号住居址の竈の状況（東より）
- 写真図版 14 空中写真 調査風景
- 写真図版 15 出土遺物
- 写真図版 16 出土遺物

I 発掘調査の契機と経過

1. 本庄市遺跡調査会発足の経緯

昭和40年代の高度経済成長に伴い、全国的な発掘ブームがおこった。本庄市においても大規模な発掘調査がこのころより開始され、以降、文化財保護係の設置や諸文化財の保存施設の拡充を目標に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターを設置し今日に至っている。

当初は1名であった文化財保護係も現在は5名体制でその保存事業を鋭意実行しているが、この内、埋蔵文化財担当の専門職員の採用は、あくまでも公共事業にかかる保護措置並びに市内の文化財全般の保護に対応する目的であった。したがって、民間開発に対しては、周知の徹底並びに保護の指導と助言をその責務としていた。

昭和50～60年代に入ると公共事業はますます大規模化、多様化の傾向をたどり、このような中で本来は市の文化財全般に対して業務を行うはずの文化財保護係の職務は、その大半が埋蔵文化財を中心に取り扱わなければならない状況となっていくのである。

特に平成元年度前後から日本の経済事情は、バブル経済の名で著しい開発の嵐が吹き荒れたのは記憶に新しい。本庄市においても交通網や市街地が整備されたことや、首都圏に近接することから、民間の諸開発行為が急増した時期である。

178箇所の周知の遺跡をもつ本庄市にとって、当然のことながら急増する諸開発行為で埋蔵文化財が当該地にかかる率は多かった。こうした場合、発掘調査による記録保存はやむを得ない措置であるが、最も問題となったのは、原因者負担による歳出入の方法や管理、公務員たる職員の民間営利に伴う事実上の出向調査体制をどのように位置づけるかであった。

平成元年度にはいと、上記の危惧していたことが現実の問題点となった。すなわち、民間による大規模開発行為に対する事前の問い合せが殺到したのである。このときに、市では回答並びに指導、助言をおこなったが、埋蔵文化財の保存の目的を達成する上で、これらに対処すべく実務的な体制づくりの必要にせまられた。

諸協議の結果、原因者負担の原則のもとに民間より歳入を得て市が直営で発掘調査を行うことは、問題を生じるので、諸市町村の凡例を参考に遺跡調査会を設立して稼働することとなった。本庄市において過去にも遺跡調査会を設立して対応した実績はあったものの、これらは単発的でその都度、その事情において結成されたものであり、事業の完了とともに解消していたものであった。しかし、今回のようなケースが、今後ますます増加することが懸念されたため、長期的な保存事業にそぐう確固たる体制づくりが望まれた。組織は、市管理職、文化財保護に精通している識者の委嘱を行い、また、規約については、市の条例に準じる内容とした。

こうして、新たな本庄市遺跡調査会は平成3年4月1日に設立され、民間の営利目的による開発行為に対する埋蔵文化財保存事業の窓口として稼働する運びとなった。

(社会教育課)

2. 調査に至る経過

本庄市は古来より交通網の中継点に所在している。江戸時代には中山道の宿場町として、ここより間道にいたる分岐点であった。このため、現在でも周辺市町村の中核都市として機能している。一方、J R高崎線や関越自動車道、国道17号線など列島の経済動脈が通過し、首都圏の通勤圏にあたることから、道路網や市街地の整備の進展とともに、開発が激増する状況となっている。これらにともない、埋蔵文化財の発掘調査が増加していることは言うまでもない。

こうした中で、平成元年前後よりはじまったいわゆるバブル経済の余波を受け、市内においても民間の開発行為が急増した。その一つである本書の発掘調査地点は、埼玉県選定重要遺跡旭・小島古墳群が存在する地域内で、その西南端に位置していた。

当該地の開発にかかる埋蔵文化財の問合せについては、10数回にわたり個々の事業予定者より相次いできており、また、近接して都市計画道路の建設計画があることから開発は充分予測される状況であった。このようななかで、コーエー建設株式会社により宅地造成が計画され平成2年9月17日付で『埋蔵文化財の取扱いについて』の協議書が、正式に本庄市へ提出された。

当該地は旭・小島古墳群の中でも本庄53-128号遺跡として単独に遺跡地図に登録されている箇所でもとより畑地の状態とはいえ、マウンド状の高まりが明瞭に観察されたため、埋蔵文化財の存在は明白であった。このため、平成2年9月21日付本教社発第274号で『埋蔵文化財の所在について』の回答を送付し、事業者には現状保存が望ましいことを伝え、やむを得ない場合には事前の試掘調査による範囲確認を必要とすることを指導した。また、埼玉県選定重要遺跡の範囲内にかかるため、平成2年10月30日付本教社発第303号で『埼玉県選定重要遺跡内にかかる埋蔵文化財の取扱いについて』の照会文書を本庄市教育委員会より埼玉県教育委員会に提出し、指導助言を仰ぐこととなった。

この間、試掘調査は国庫補助金を充て平成2年11月12日から11月16日の間に実施し、保存事業に必要な範囲、期間、予算の算定根拠を得た。しかし、なによりも問題となったことは、民間開発の受入れ体制で、このことについては前章でふれたとおり、やむを得ず本庄市遺跡調査会を設立して対処することとなった。こうして、調査体制の確立とともに本庄市遺跡調査会と事業者において、平成3年6月11日に『下野堂開拓古墳保存事業委託』を締結するに至った。

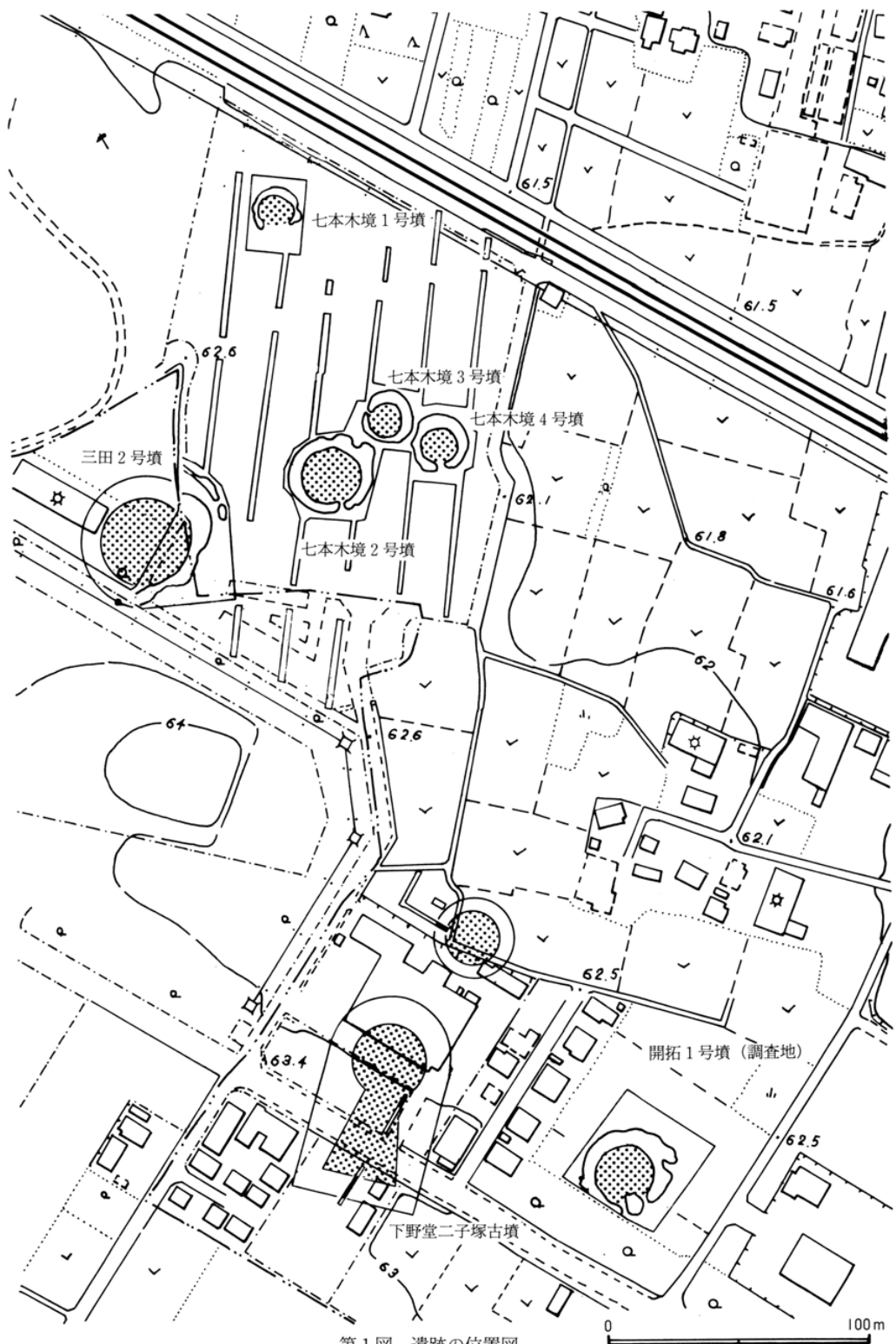
発掘調査にかかる諸手続きは以下のとおりである。

平成3年6月20日付け本遺会発第1号で文化財保護法第57条第1項にかかる『埋蔵文化財発掘調査の届出について』を本庄市教育委員会・埼玉県教育委員会を経由して文化庁長官宛てに提出。

これに対し、埼玉県教育委員会より平成3年7月9日付け教文第3-116号で『周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について』が本庄市教育委員会に通知される。

平成3年8月22日付け委保記第5の1336号で『埋蔵文化財の発掘について』の通知が文化庁より埼玉県教育委員会を経由し、平成3年9月5日付け教文第5-58号で『文化財保護法第57条第1項の規定に基づく埋蔵文化財の発掘調査について』として本庄市教育委員会に経由通知された。

(社会教育課)



第1図 遺跡の位置図

II 遺跡をとりまく環境

1. 歴史的環境

旭・小島古墳群は本庄台地の北縁部すなわち神流川扇状地の扇端部に位置し、本庄市小島から上里町神保原にかけて分布している。神流川扇状地の扇端部は上里町神保原から金久保付近では比較的緩やかに沖積低地である妻沼低地へと移行していくが、本庄市小島以東では段丘崖を呈し比高4～12mを測る。この段丘崖が旭・小島古墳群の分布の北限を規定しているが、西限は御陣場川、東限は律令期の児玉郡と賀美郡との郡境と推定されるいわゆる仕切沢に一応求めることができる。

さて、開拓1号墳の存在する児玉地域は、古墳時代においては北武蔵でも卓越した地域の一つであり、古墳時代の遺跡も数多く存在する。ここでは古墳の変遷を主として取上げていくこととする。

児玉地域における古墳の造営は全長60mの前方後方墳である鷺山古墳が最初であり、他地域同様古墳の造営は前方後方墳を初現とする。出土した底部穿孔壺から4世紀中葉の時期が想定されている。鷺山古墳に続く時期と想定されるものに生野山物見塚古墳が存在する。未調査であることから墳丘の形状は不明確であるが、前方後方墳になる可能性が極めて高い。

生野山物見塚古墳の次に造営されるのは長坂聖天塚古墳（径60m）であるが、志戸川流域であり、系譜を異にすると考えられる。志戸川流域では、長坂聖天塚古墳に先んじて、南志渡川遺跡、村後遺跡、石蒔B遺跡で前方後方形周溝墓を含む方形周溝墓群が形成される。この地域では、長坂聖天塚古墳以後も、道灌山古墳（径40m）、勝丸稲荷神社古墳（径30m）、川輪聖天塚古墳（径40m）、志渡川古墳（径40m）、諏訪山2号墳（径34m）、諏訪山古墳（全長39m）などが継続的に築造される。川輪聖天塚古墳には壺形埴輪の樹立が認められ、志渡川古墳・諏訪山古墳にはB種ヨコハケ調整の円筒埴輪の樹立が認められる。また諏訪山古墳は墳形に例外的に帆立貝型を採用しており注目される。他に、壺型埴輪の樹立が認められるのは白石古墳群中の中道1号墳である。一方、本庄台地縁辺部では、旭・小島古墳群において、石釧を出した方形周溝墓をもつ下野堂遺跡を中心とする地域に、箱式石棺を主体部にもつ八幡山古墳（径40m）や、三壺山2号墳（径22m）、上前原5号墳（径25m）など5世紀代の古墳が存在し、方形周溝墓からの系譜を想定することができる。

女堀川中流域では、前山2号墳が最初に出現する。前山2号墳は径28mの円墳であり、粘土槨から直刃鎌を出しており5世紀前葉の時期が与えられる。近接して前山1号墳（径50m）が存在しており前山2号墳と近い時期のものと推定される。墳形については検討の余地を残すが、帆立貝型ないしは小規模な突出をもつ可能性が示唆される。これらに続く古墳としては公卿塚古墳（径65m）が考えられるが、立地は丘陵上から台地上へと変化する。公卿塚古墳には埴輪の樹立が認められているが、児玉地域において定型化した埴輪の樹立が認められるのは5世紀第II四半期の段階であり、公卿塚古墳以外には志渡川古墳、長沖34号墳、長沖105号墳、金鑽神社古墳、生野山將軍塚古墳などが存在する。このうち、金鑽神社古墳、生野山將軍塚古墳、公卿塚古墳の埴輪のなかには格子目タタキ成形で野焼き焼成による円筒埴輪が認められる。また、志渡川古墳、長沖105号墳からはB種ヨコハケを主体とす

る埴輪が確認されており埴輪導入にあたって一元的な影響によるものではなかったことが示唆される。これらに続いて、生野山9号・10号・14号墳、諏訪山古墳、長沖14号墳（径34m）、三空山古墳、熊谷後5号墳（径15m）、塚本山73号墳（径12m）・77号墳（径14m）、東小学校1号墳（径20m）などが造営される。これらの古墳の埴輪は、窖窯焼成でB種ヨコハケ調整を主体とするものであり、5世紀後半の築造と推定される。

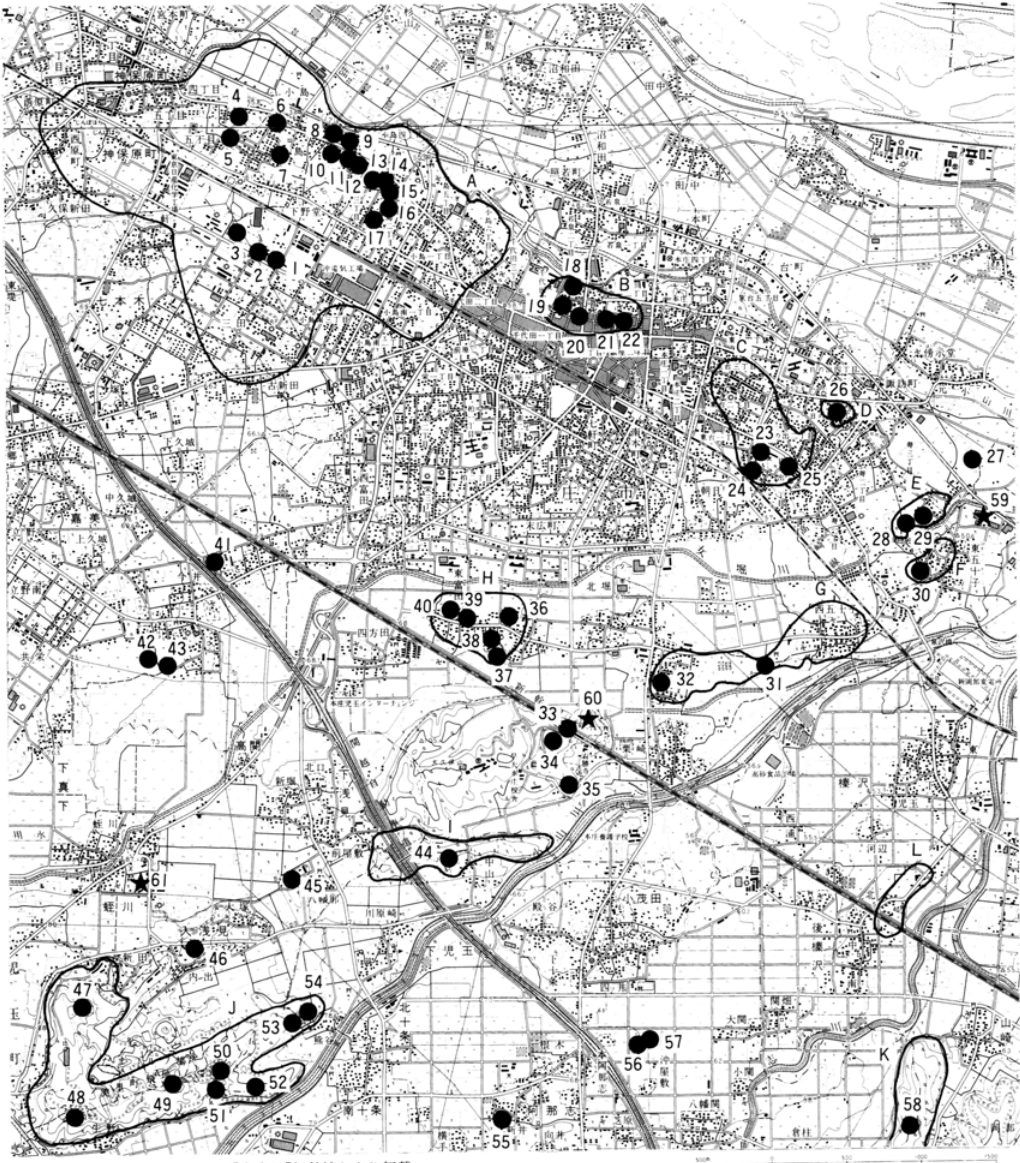
このように、4・5世紀代には、児玉地域においては前方後方墳である鷲山古墳の出現以降、首長墓が一貫して大型円墳を主体とする系譜をたどり前方後円墳が築造されない点が注目される。

さて、6世紀代に入ると、児玉地域においても前方後円墳の出現を認めることができる。生野山銚子塚古墳（全長58m）、生野山16号墳（全長58m）、秋山諏訪山古墳（全長60m）など6世紀初頭～前半にかけての築造と推定される。特に生野山銚子塚古墳では朱彩された主体部の存在が伝えられており、竪穴式石室か初期の横穴式石室の存在が推定される。また、生野山16号墳や秋山諏訪山古墳では主体部にそれぞれ片袖型、袖無型の横穴式石室を有している。初期の横穴式石室を持つものは、小古墳においても認められており、神流川沿に分布する青柳古墳群中の北塚原2号墳や北塚原7号墳、城戸野1号墳・2号墳、大御堂稻荷塚古墳、などでは狭長な袖無型横穴式石室が検出されている。現在のところ竪穴式石室に小規模な羨道部を付設した形状の初現的な横穴式石室は確認されていないが、5世紀後半の古墳のなかでその痕跡から従来、竪穴式石室や礫櫛と認識されていたもののなかはこのようなのが含まれている可能性は充分考えられよう。

ところで、これら60m級の前方後円墳は、規模としては小型の部類に属し墳形は旧来の円墳から変化したものの、広大な地域を統轄した首長の墳墓ではなく、一古墳群に相当する狭い地域の首長墓なのであろう。これら、前方後円墳の終焉は埴輪祭祀の終焉とほぼ期を同じくするものと考えられ、相い前後して消滅するものと推定される。

前方後円墳の消滅後も古墳の造営は続けられるが、以後の墳形は円墳となるようであり確実な方墳は現在のところ確認されていない。小島御手長山古墳は径47mを測る6世紀末葉の有力な大型円墳であり、上里浅間山古墳（径30m）からは銅鏡が出土しており7世紀中葉の築造とされる。また7世紀の築造とされる大塚稻荷古墳も径40mの大型円墳であるが銅鏡の出土が伝承されている。また、本報告の開拓1号墳も円墳である。これらのように、終末期の古墳が存在する古墳群は児玉地域における造営期間の長い代表的な古墳群であるが、前方後円墳終焉以後の首長墓においては大型円墳を採用している。今後の調査によって、終末期の方墳の存在が確認される可能性もあるが、終末期においても首長墓級の古墳に円墳の造営が主であることに児玉地域の特徴があるのではないだろうか。

児玉地域における古墳の終末がいつであるのかは明らかにし得ないが、古墳の造営そのものは7世紀代において終焉するものと思われる。旭・小島古墳群においては7世紀後半の小石櫛が検出されおりその終焉の形は様々であったようである。しかし、古墳の築造終焉後も、追葬は行われていたようであり、少なくとも8世紀前半までは古墳が墳墓として機能していたものと推定される。本報告の開拓1号墳においても8世紀前半の銚帯金具が出土しており、前庭部の一部に修復ないしは付設の可能性が認められていることから、墳墓としての古墳の機能は造営終焉後もしばらくは残っていたのであろう。



国土地理院発行2万5千分の1「本庄」伊勢崎より転載

- | | | | | |
|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 1. 開拓1号墳 | 16. 小島御手長山古墳 | 31. 西五十子2号墳 | 46. 金鑽神社古墳 | 61. 蛭川小学校遺輪窓址 |
| 2. 下野堂二子塚古墳 | 17. 坊主山古墳 | 32. 若泉稲荷神社古墳 | 47. 生野山鏡子塚古墳 | A. 旭・小島古墳群 |
| 3. 三田2号墳 | 18. 阿夫利天神社古墳 | 33. 前山2号墳 | 48. 物見塚古墳 | B. 北原古墳群 |
| 4. 浅間山古墳 | 19. 安養院開山塔古墳 | 34. 前山1号墳 | 49. 生野山將軍塚古墳 | C. 塚合古墳群 |
| 5. 上里No5遺跡 | 20. せきね古墳 | 35. 東谷古墳 | 50. 生野山9号墳 | D. 御堂塚古墳群 |
| 6. 御嶽塚古墳 | 21. 小笠原信嶺公廟所古墳 | 36. 公御塚古墳 | 51. 生野山10号墳 | E. 鶴森古墳群 |
| 7. 小島八幡山古墳 | 22. 愛宕山古墳 | 37. 西原古墳 | 52. 生野山16号墳 | F. 東五十子古墳群 |
| 8. 三笠山1号墳 | 23. 東小学校1号墳 | 38. 稲荷塚古墳 | 53. 熊谷後5号墳 | G. 西五十子古墳群 |
| 9. 三笠山2号墳 | 24. 本庄No143遺跡 | 39. 熊野十二社神社古墳 | 54. 熊谷後1号墳 | H. 久下塚古墳群 |
| 10. 三笠山古墳 | 25. 大林二子山古墳 | 40. 稲荷山古墳 | 55. 堂山古墳 | I. 塚本山古墳群 |
| 11. 三笠山7号墳 | 26. 御堂坂2号墳 | 41. 寒念仏供養塔古墳 | 56. 日の森1号墳 | J. 生野山古墳群 |
| 12. 三笠山9号墳 | 27. 鶴森浅間神社古墳 | 42. 薬師堂古墳 | 57. 日の森2号墳 | K. 西山古墳群 |
| 13. 本庄No135遺跡 | 28. オトーカ塚古墳 | 43. 本庄No126遺跡 | 58. 西山5号墳 | L. 後糠沢古墳群 |
| 14. 御蚕山古墳 | 29. 鶴森5号墳 | 44. 塚本山73号墳 | 59. 赤坂遺輪窓址 | |
| 15. 山の神古墳 | 30. 若電神社古墳 | 45. 鷲山古墳 | 60. 宍勝寺北裏遺輪窓址 | |

第2図 周辺の主要古墳分布図

III 調査の経過

1. 調査の経過

開拓1号墳の調査は平成3年8月1日から平成4年2月10日にかけて行った。以下、調査日誌に基づき記述することとする。

8月 1日に器材を搬入し調査の準備を行う。6日から重機を導入し表土の除去作業を行う。墳丘が残存していると推定される地膨れ状の部分については手作業とし、慎重に行う。表土除去後、ボーリング探査によって推定された内部主体の主軸線に沿って墳丘部に1mのグリットを設定し開掘を開始する。その結果、想定された主軸線にそって落込みが認められ内部主体を反映しているものと推定された。

9月 グリットの開掘を続ける。南側からは多量の石材が認められ、それらに混ざって土器破片も数多く認められるようになった。石材の分布する範囲の外側には、部分的に石垣状に積み上げられた箇所も認められ前庭部の構造が遺存している可能性が考えられ、当初の予測に反し遺存状況が良好である。後半、埋葬施設の主軸が当初予測した向きとほぼ一致することが判明したため、当初設定した土層ベルトをそのまま活かし前庭部の開掘を進める。併せて、石室内の開掘を行うが、内部が狭いため担当者1名と作業員1名の計2名で作業を進める。石室内には墳丘の崩落土であるローム土と黒色土が堆積しており、それらに混ざって副葬品と思われる遺物の出土が認められた。

10月 石室内と前庭部の開掘を進める。石室内は覆土の除去が進み棺床面が表れはじめる。棺床面は通例である砂利敷のみでなく、角閃石安山岩の転石を敷き詰めた構造をもつことが明らかとなった。前庭部は石材の出土が著しく、以下の開掘が困難なため現状での写真撮影と図化作業をおこなう。前庭部の平面構造は凸字状を呈することが判明した。石材、遺物の取上げをおこない、下層の開掘を進めるが、土器破片の出土量は多く第2面の遺物出土状況図を作成し遺物の取上げを行う。平行して、周溝の開掘作業を進める。

11月 周溝の開掘を進める。周溝3区より確認された1号住の開掘も行う。前庭部の開掘を進めるが、堆積土に混ざって銚帯金具3点が確認され、さらに精査を進めたところ2点が出土し計5点となった。

12月 前庭部の精査を進める。前庭部の石組みの全容もほぼ明らかとなり凸字状の前部と後部とでは石材の組方が異なり、修復や追補の可能性も考えられた。24日には全体及び石室・前庭部の写真測量を行う。南側に隣接する防風林の影響でほぼ1日陽が当たらず、寒さと霜とに悩まされながらの調査を進める。

1月 石室および前庭部の解体を記録写真、詳細図を作成しながらとり行う。棺床面下を断割ったところ掘り方の存在が明らかとなったので開掘を進める。平行して旧表土面まで墳丘の掘下げを行う。また、銚帯金具のクリーニング作業中に1点より「大」の文字が確認され、本庄市歴史民俗資料館で開催中の埋蔵文化財センター巡回展において急遽特別展示する。

2月 墳丘土層ベルトの取り外しと旧表土の開掘を行う。旧表土中より土師器の集中箇所を検出するが1号住居址と同時期のものであると判明する。10日には全ての現地作業を終了し、現地を撤収した。

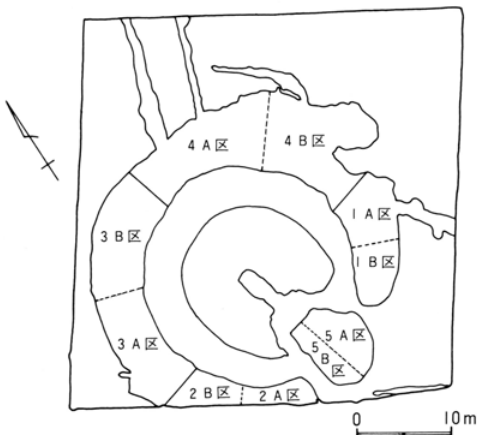
IV 調査の成果

1. 発掘区の設定と調査の方法

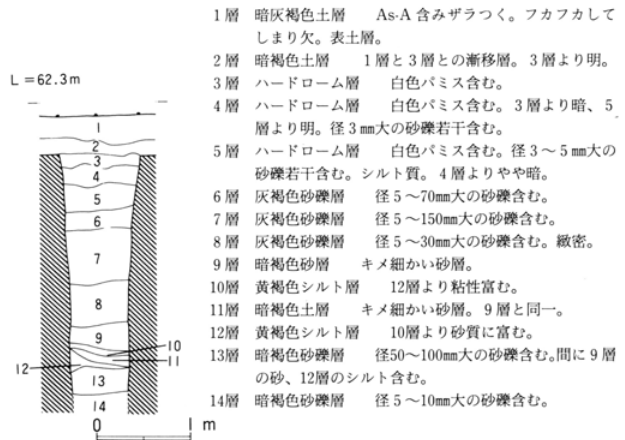
試掘調査の結果、開発予定面積のうち発掘調査の必要性が認められたのは約1,600㎡であった。調査に先立ち墳丘部を1m毎にボーリング棒により探査したところ、現存する墳頂部を中心として幅2m、長さ6mにわたって墳丘盛土の落込みが確認され、その内部には多量の石材の反応が認められた。この落込みの位置を参考に、現存する墳丘の中心部を基点とした1mのグリットを設定するとともに、グリットに合わせて十字形に4本の土層ベルトを設定した。結果的には、グリットの方向と主体部の方向とは一致し良好な状態での土層観察をすることができた。周溝は墳丘の土層ベルトを延長したものの他に補助土層ベルトを設定し、計8本の土層ベルトを設定した。周溝は西側から時計周りに1区、2区～5区と呼称し、補助土層ベルトによって各区をA、Bに細区分した。また、墳丘部分は十字形に設定した土層ベルトによって南側から時計周りに1～4区と呼称した。

調査は表土層より手掘りを原則としたが、墳丘部以外の箇所については重機(0.4型ユンボ)を導入して表土の除去にあたった。表土層下の遺物については極力その出土位置を実体視で記録することにつとめたが、前庭部の遺物のうち一部のものについては調査の課程で図化せずに取上げてしまったものもある。また、旧表土中より出土した遺物については、調査日程の関係でドットで取上げている。

遺構の図化に当っては、国家座標を用い写真測量を主としたが、遺構の上端・下端線の他に主曲線10cmのコンタを加え、一部に補助的に5cmのコンタを加えた。また、写真測量のデータについては、デジタルマッピングによる数値データとし、データの汎用性を考慮し標準的なファイルフォーマットであるDXFファイル型式に変換しCADソフト上で取り扱えるようにした。本報告書に掲載した遺構図面の大半は数値データをAutoCAD(オートデスク社)上に読み込み、XYプロッターで出力し整図したものである。



第3図 調査区設定図



第4図 基準土層図

- 1層 暗灰褐色土層 As-A 含みザラつく。フカフカしてしまり穴。表土層。
- 2層 暗褐色土層 1層と3層との漸移層。3層より明。
- 3層 ハードローム層 白色バミス含む。
- 4層 ハードローム層 白色バミス含む。3層より暗、5層より明。径3mm大の砂礫若干含む。
- 5層 ハードローム層 白色バミス含む。径3～5mm大の砂礫若干含む。シルト質。4層よりやや暗。
- 6層 灰褐色砂礫層 径5～70mm大の砂礫含む。
- 7層 灰褐色砂礫層 径5～150mm大の砂礫含む。
- 8層 灰褐色砂礫層 径5～30mm大の砂礫含む。緻密。
- 9層 暗褐色砂層 キメ細かい砂層。
- 10層 黄褐色シルト層 12層より粘性富む。
- 11層 暗褐色土層 キメ細かい砂層。9層と同一。
- 12層 黄褐色シルト層 10層より砂質に富む。
- 13層 暗褐色砂礫層 径50～100mm大の砂礫含む。間に9層の砂、12層のシルト含む。
- 14層 暗褐色砂礫層 径5～10mm大の砂礫含む。

2. 墳丘の構造

(1) 調査前の状況

開拓1号墳は、本庄台地上の標高62.5m附近に立地する。旭・小島古墳群の中では南限に近い位置に存在し、同古墳群の北側を画する本庄台地の段丘崖線からは直線距離で約1.5kmを測る。古墳の西側約150mには地形図にも反映されているように、旭・小島古墳群を大きく東西に2分している埋没谷が北東方向に走り、その影響を受けて遺構基盤面である関東ローム層やローム層下の礫層の堆積も一定ではない。

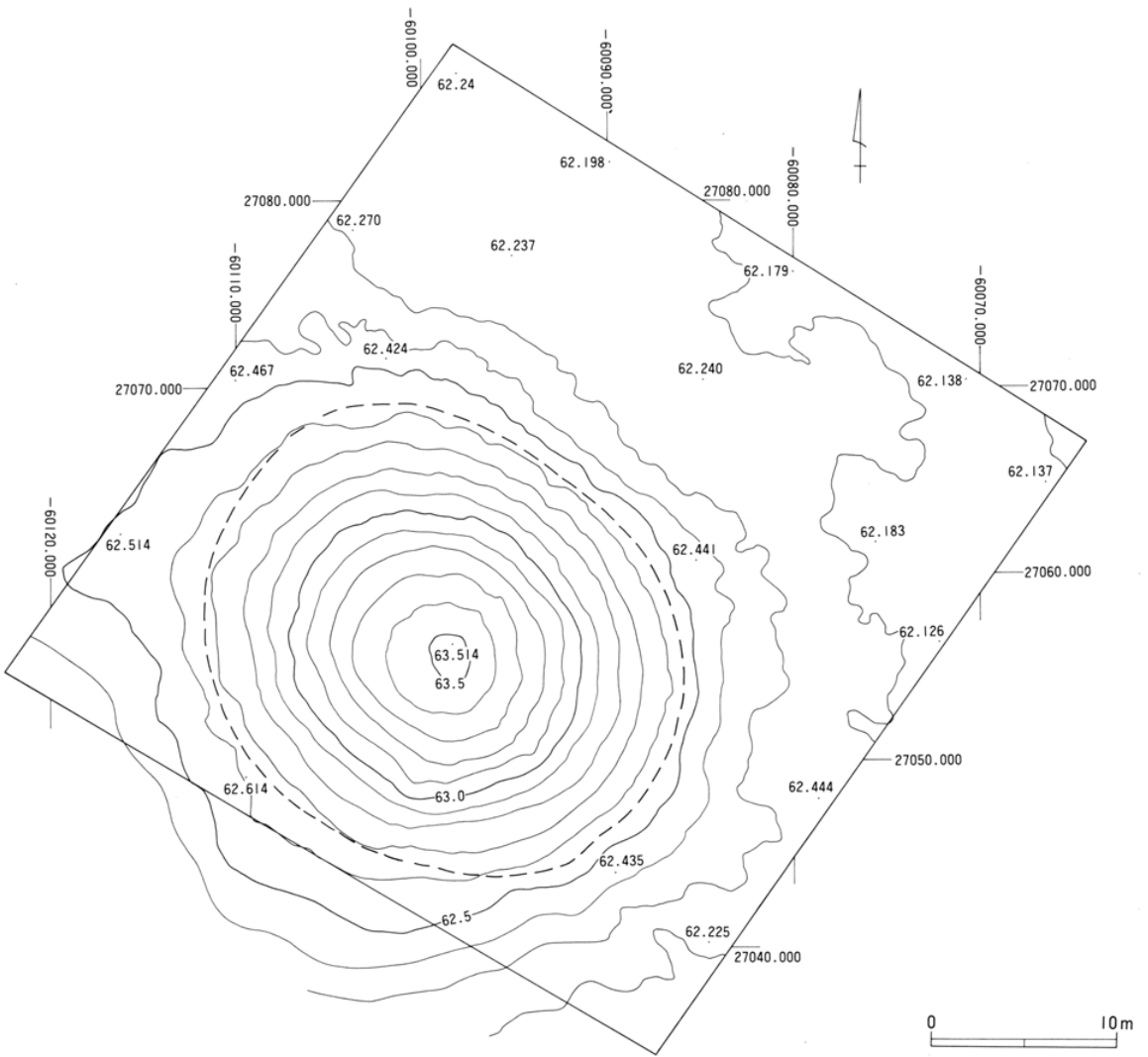
調査地内は、墳丘上まで畑地として耕作されていたため盛土の流出が著しく、僅かに高さ1m程の円形の地膨れとして残存していたにすぎず、その破壊は相当進んでいるものと思われた。発掘調査に先立ち10cmコンタによる現況図を作成したところ、コンタラインは比較的整った同心円状に巡っており、あるいは墳丘裾部が比較的良好に遺存している可能性も推定された。みかけの墳丘の規模は直径31mを測る。

調査前から墳丘上に角閃石安山岩の転石や若干の垂円礫の分布が認められたことから、埋葬施設は横穴式石室の可能性が考えられたが、石室用材である角閃石安山岩の散布や墳丘の残存高が僅か1m足らずということから、埋葬施設の遺存状況には憂慮すべきものがあり、その上部構造や前庭部は既に消失しているものと予想された。

(2) 墳 丘

耕作土である表土層を除去するとローム土、黒色土による墳丘が現われた。表土層の堆積は墳丘裾部になるほど厚く、墳丘頂部では僅か20cmであった。墳丘部は推定された主体部の軸に合わせて4本の土層ベルトを十字形に設定し、主体部の調査に並行し墳丘の構造の解明にあたったが、その結果、ローム土と黒色土とを互層に積み上げた状況が観取できた。墳丘は古墳築造時の表土層である80層から盛土されているが、後にも触れるように石室構築部に掘り方を掘削し、石室基盤面を成形した後に石室壁体の積み上げに沿って墳丘も構築される。石室壁体外側には礫等による裏込めによる被覆は存在せず直接黒色土とローム土との盛土層に接している。石室壁体の積み上げと墳丘の構築との関係は盛土中に残された角閃石安山岩削片層によって把握することができるが、明瞭に確認することができたのは168層と172層の間、172層と287層の間、287層と289層の間、311層と162層の間、162層と217層の間、317層と326層の間である。この角閃石安山岩の削片層は石室壁体を構築時に用材加工する際に生じる削り屑であり、この層の存在する面がその段における作業単位に相当することになり、この層を鍵層にして盛土と石室壁体との関係を把握することができる。石室の壁体は最高でも根石を含めて3段であったため厳密な対応関係はつかめないが、概ね壁体2段分と盛土1層分とが対応する関係にあるようである。これらの盛土は極めて堅緻に構築されており、石室側に低く、外側に高いすりばち状の盛土状況をとる。ただし、奥壁側はほぼ水平に盛土される傾向にあり側壁部分とは異なる。

墳丘の構築については、旭・小島古墳群においては、小島御手長山古墳や下野堂御手長山古墳などで石室を被覆する小マウンドを構築した後に最終的な墳丘部分の構築を行う方法が解明されているが、本古墳においては、石室を被覆する小マウンドと最終的な墳丘部分との間に明瞭な分化は認められず、



第5図 開拓1号墳調査前墳丘測量図

石室構築の過程で墳丘を成形しながら盛土されていったようである。ただし奥壁側である北側の墳丘部分では他の部分とはやや異なるようで、旧表土層の消失する奥壁から6m地点において墳丘盛土が分化できる箇所が認められ、あるいは北側部分のみそのような構築方法がとられている可能性がある。

墳丘が段築構造であったか否かは墳丘が削平されている現状では確認することはできない。しかし北側で認められた墳丘の分化が段築に関連するものであるとすると、少なくとも2段構成であった可能性が考えられる。葦石については不明確であるが、周溝内における礫の検出状況が南側に集中する傾向にあり、南側のごく限られた部分にしか存在しなかったものと推定される。

墳丘の裾部については攪乱箇所もあり周溝内端部との関係が不明瞭であるが、調査時の状況でその間に幅1m程の平坦面が全周している。墳丘裾部の攪乱による可能性も否定できないが、墳丘を全て除去した状態で旧表土端部の位置を確認したところ、墳丘の中心である石室奥壁部から正円を描いた範囲にほぼ取っておりこの部分に本来平坦面が存在した可能性が考えられる。したがって、墳丘裾部の攪乱を考慮しても幅0.7m程のテラス面が存在していた可能性が考えられる。ただし、このテラス面に盛土が存在したか、ローム面が直接露出していたかは不明である。

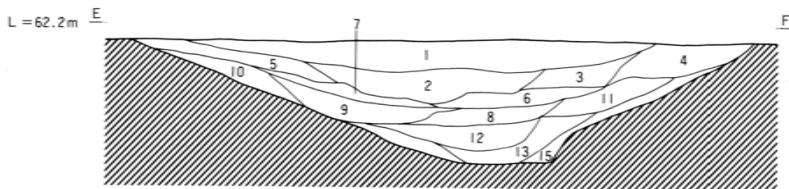
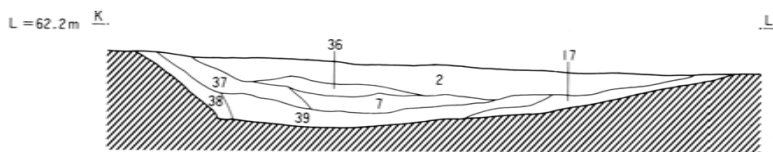
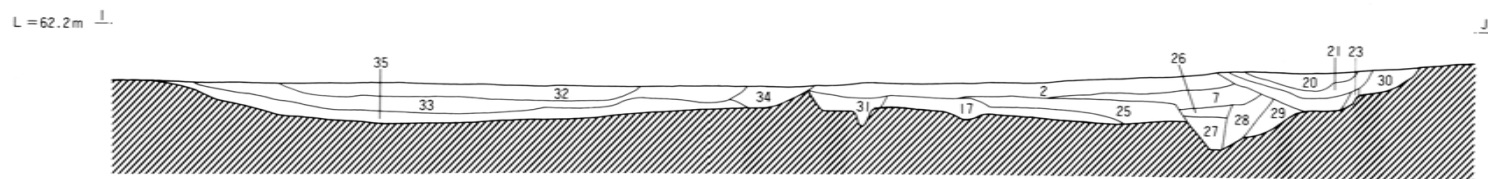
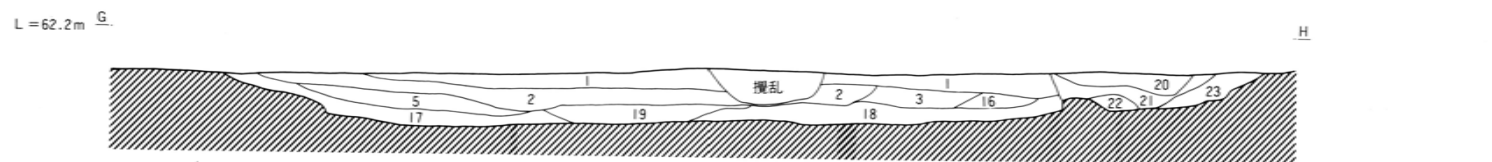
(3) 周 溝

周溝は南東側の一部を除きほぼ完掘することができた。石室開口部にあたる南側がブリッジ状にとぎれる部分以外は全周し円形に比較的整った形状をとる。周溝の深さは一定しないが、概ね石室の主軸線を境として西側が深く、東側に浅い傾向が認められ、西側の最深部で確認面より1m、東側の最浅部で0.3mを測る。この周溝の深さの違いは基盤層であるローム層に関係するようで、東側では周溝底面で礫層に一部到達しているのに対し西側ではローム層の堆積が深く礫層まで到達していない。このことは、墳丘を構築するのに必要な土量を確保するために周溝が掘削されたと考え、掘削に困難な礫混じり土は掘削せず、ローム土の豊富な部分の周溝を深く掘削した結果と想定される。周溝東側の外端部の形状は整った形状をとらず、一部外側に張り出した形状をとる。この部分は土層観察によれば、周溝の覆土を切っており、後に掘削されたものと思われる。

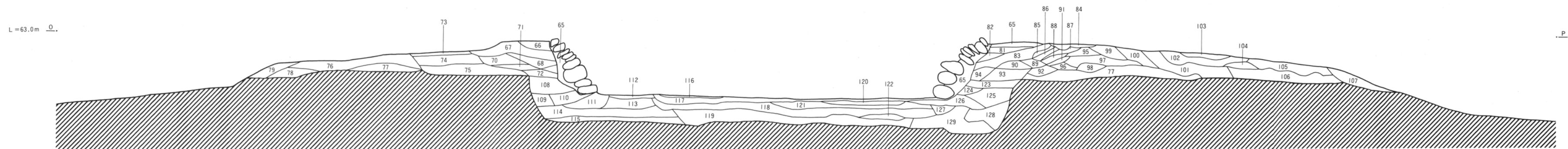
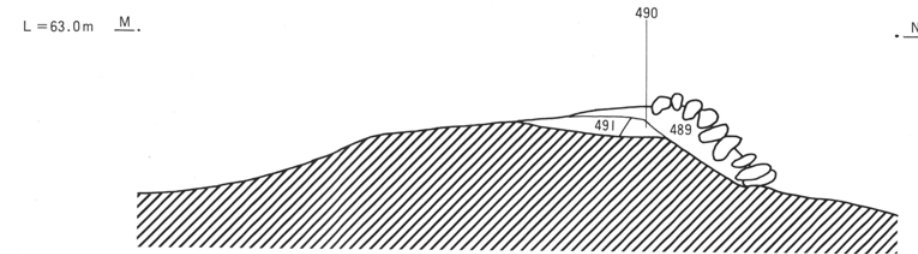
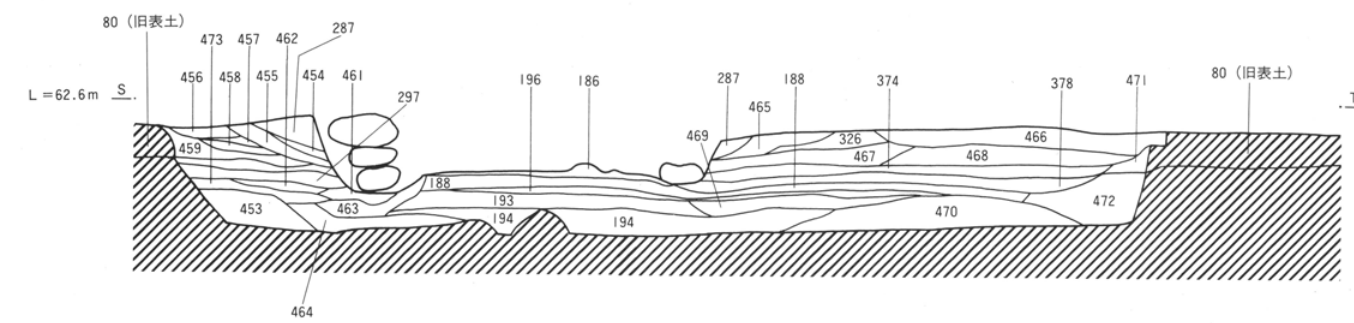
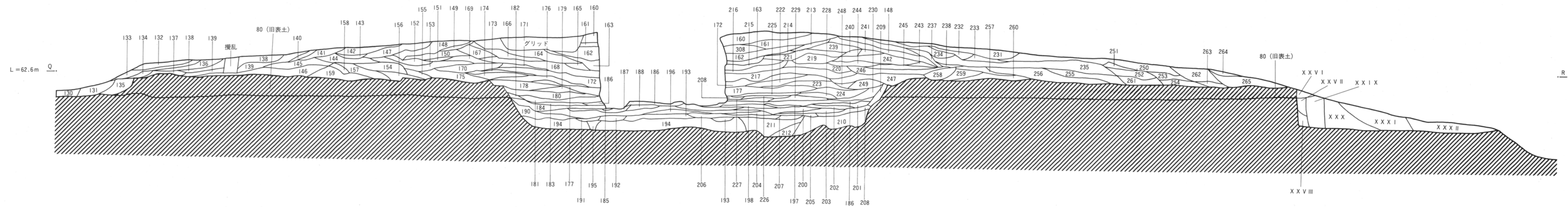
周溝の立ち上がりは墳丘側では急峻で外側では緩やかな傾向が認められる。特に西側においてはこの傾向は顕著であり、周溝最深部が周溝内端部下端にあり、周溝外端部に向かって緩やかに傾斜している状況を示す。

周溝は下層にローム土を含む黄褐色土を主体とし上層に黒色土が堆積する自然堆積状況をしめすが、黒色土のうち上層にあたる2層にはAs-Bが含まれており、平安時代終頃にはほぼ周溝が埋没していたことを示唆している。

周溝がブリッジ状に途切れる部分には最大幅7m、長さ8.7mの亜円形の土壌が認められた。この土壌中には前庭部より落下したと思われる大量の土器や石材が含まれていた。前庭部前面に存在することから埋め戻されている可能性も考え堆積状況を観察したが、自然堆積状況を示しており、オープンな状態であったようである。この土壌が築造当初のものか否かは検討を要するところではあるが、他の周溝の床面が比較的平らに仕上げられているのに対し、この土壌の床面は凹凸が著しく、形態も不整形であることから、あるいは、後にも触れるように前庭部の石垣を修復ないしは付加した際に土量の不足を補うために掘削されたものである可能性も考えられよう。



第6图 阡陌1号墳土層図(1)



第7図 開拓1号墳土層図(2)

開拓1号墳土層註記

- 1層 暗灰褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック含む。スコリアを含み全体にザラザラする。
- 2層 黒灰褐色土層 As-B多量に含みザラつく。ローム粒子・ロームブロック若干含む。6層より暗。
- 3層 暗灰褐色土層 As-B多量に含みザラつく。2層より明、1層より暗。
- 4層 暗褐色土層 As-B含みザラつく。黒色土ブロック混じる。径2～10mm大砂礫含む。3層より明。
- 5層 暗灰褐色土層 As-B含みザラつく。黒色土ブロック含む。1層より暗、2層より明。
- 6層 暗褐色土層 As-B含みザラつく。ロームブロック若干含む。3層より明、8層より暗。
- 7層 黒灰褐色土層 小型ロームブロック若干含む(As-Bは含まず)。2層より明、5層より暗。
- 8層 暗黄褐色土層 ローム土多量に含み、黒色土小型ブロック混じる。9層より明、12層より暗。
- 9層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。10層より暗、8層より明。
- 10層 暗褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。9層より明、12層より暗。
- 11層 暗褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。10層より明、12層より暗。
- 12層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土斑状に若干含む。13層よりやや明。
- 13層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体にやや黒味がかかる。12層よりやや暗。
- 14層 暗黄褐色土層 青灰色砂を主体とし、砂礫若干含む。周溝肩部崩落土。12層より明。
- 15層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、周溝肩部崩落土。12層より明。
- 16層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック含む。3層より明、19層より暗。
- 17層 暗黄褐色土層 中～大型ロームブロック多量に含む。黒色土含む。18層よりやや暗、19層より明。
- 18層 暗黄褐色土層 ロームブロック多量に含む。17層より明。
- 19層 暗褐色土層 小型ロームブロック含む。全体に黄味がかかる。径5～20mm大砂礫含む。17層より暗、2層より明。
- 20層 明灰白色土層 As-A純層。SD1覆土。
- 21層 暗灰褐色土層 As-A含みザラつく。ローム粒子若干含む。全体に軟質。SD1覆土。
- 22層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。21層より明。全体に軟質。SD1覆土。
- 23層 暗褐色土層 ローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に含む。全体に軟質。SD1覆土。
- 24層 暗灰褐色土層 As-A含みザラつく。ローム粒子含む。21層よりやや暗。SD1覆土。
- 25層 暗褐色土層 黒褐色土をベースに、小～大型ロームブロック多量に含む。径5～20mm大砂礫含む。17層より暗。
- 26層 暗灰褐色土層 全体に黒味がかかる。27層より暗、7層より明。土壌覆土。
- 27層 暗灰褐色土層 26層より明、28層より暗。土壌覆土。
- 28層 暗灰褐色土層 径10～20mm大砂礫若干含む。ローム粒子若干含む。29層より暗、27層より明。土壌覆土。
- 29層 暗褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。28層より明。土壌覆土。
- 30層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。
- 31層 暗褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック含む。
- 32層 黒褐色土層 As-B含みザラつく。33層より暗。
- 33層 暗灰褐色土層 白色パミス含む。ローム粒子・ロームブロック若干含む。径2～20mm大砂礫含む。32層より明、35層より暗。
- 34層 暗褐色土層 白色パミス含む。ローム粒子含む。径2～10mm大砂礫含む。35層より暗、33層より明。
- 35層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土含む。径5mm大砂礫含む。
- 36層 黒褐色土層 As-B含みザラザラする。2層より暗。
- 37層 黒褐色土層 暗褐色土ブロック斑状に含む。2層より明、39層より暗。
- 38層 暗黄褐色土層 小～大型ロームブロック霜降り状に含む。39層より明。
- 39層 暗褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。径2～5mm大砂礫含む。17層より暗、7層より明。
- 40層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。
- 41層 暗灰褐色土層 フカフカとしてしまり欠。As-A含みザラつく。ローム粒子若干含む。42層より暗。現表土。
- 42層 暗灰褐色土層 As-A含みザラつく。41層より明、43層より暗。
- 43層 明灰褐色土層 As-A多量に含みザラつく。42層より明。
- 44層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。黒色土斑状に含む。2層より明、47層より暗。
- 45層 暗褐色土層 暗褐色土をベースに、ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。2層より明、46層より暗。
- 46層 暗褐色土層 暗褐色土ブロック斑状に含む。黒色土ベース。45層より明。
- 47層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、やや黒味がかかる。ローム層との漸移層。
- 48層 暗褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック多量に含む。49層より暗。
- 49層 暗黄褐色土層 ローム質土を主体とし、全体に黒味がかかる。48層より明。
- 50層 暗褐色土層 暗灰褐色土をベースに、小～中型ロームブロック霜降り状に含む。49層より暗。
- 51層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。全体に黒味がかかる。52層より暗。
- 52層 暗灰褐色土層 ローム粒子含み、小型ロームブロック霜降り状に若干含む。51層より明。
- 53層 暗灰褐色土層 As-A含みややザラつく。ローム粒子霜降り状に含む。41層より明。
- 54層 黒灰褐色土層 暗褐色土ブロック若干含む。53層より暗。
- 55層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック含む。暗褐色土ブロック霜降り状に含む。

- 56層 黒灰褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。
- 57層 明灰褐色土層 As-A 多量に含みザラつく。固くしまる。42層より明。
- 58層 黒灰褐色土層 As-B 多量に含みザラつく。43層の影響受けやや明。2層より明。
- 59層 黒褐色土層 As-B 多量に含みザラザラする。2層より暗。
- 60層 黒灰褐色土層 As-B 含まず。暗褐色土ブロック斑状に含む。58層より明。
- 61層 暗褐色土層 ロームブロック多量に含む。黒色土混じり、住居址の炭化物・焼土含む。土器片含む。49層より明。
- 62層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。やや黒味がかかる。45層より暗、63層より明。
- 63層 黒灰褐色土層 As-B 含みザラつく。暗褐色土含む。2層より明、64層より暗。
- 64層 暗灰褐色土層 暗褐色土多量に含む。黒色土含み黒味がかかる。63層より明、45層より暗。
- 65層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック若干含む。あまりしまらない。前庭部石垣裏込め土。
- 66層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、67層より暗。固くしまる。
- 67層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。66層より明。固くしまる。
- 68層 黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。70層より暗、80層より明。
- 69層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。72層より明。
- 70層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。67層より暗、71層より明。やや固くしまる。
- 71層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。72層より明。
- 72層 黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。小型ロームブロック若干含む。黒色土ブロック含む。68層より暗。
- 73層 黒灰褐色土層 白色パミス含む。ローム粒子若干含む。74層より暗。
- 74層 黒灰褐色土層 白色パミス含む。炭化物微量含む。73層より明、75層より暗。
- 75層 黒灰褐色土層 小～中型ロームブロック若干含む。74層より明。
- 76層 暗黄褐色土層 黒色土をベースに小～中型ロームブロック多量に含む。
- 77層 黒灰褐色土層 黒色土をベースに暗褐色土ブロック斑状に含む。
- 78層 黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子含む。暗褐色土ブロック斑状に含む。77層よりやや明。
- 79層 暗褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。76層より暗、78層より明。
- 80層 黒褐色土層 白色パミス含む。旧表土層。
- 81層 暗黄褐色土層 ローム粒子・微小ロームブロック霜降り状に含む。黒色土若干含む。65層より暗。固くしまる。
- 82層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、やや黒味がかかる。83層より暗、81層より明。固くしまる。
- 83層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土微量含む。82層より明。固くしまる。
- 84層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含み黒味がかかる。65層より暗、87層より明。固くしまる。
- 85層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。83層より暗、87層より明。固くしまる。
- 86層 黄褐色土層 ローム土（下層の黄白色ローム）を主体とし、88層より明。固くしまる。
- 87層 黒灰褐色土層 ローム粒子若干含む。85層より暗、91層より明。固くしまる。
- 88層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。86層より暗、91層より明。固くしまる。
- 89層 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロック多量に含む。黒色土含む。83層より暗、85層より明。固くしまる。
- 90層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック若干含む。83層より明。固くしまる。
- 91層 黒灰褐色土層 ロームブロック微量含む。固くしまる。
- 92層 暗黄褐色土層 小～中型ロームブロックを主体とし、黒色土若干含む。固くしまる。
- 93層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。92層より暗、94層より明。
- 94層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック含む。93層より暗。固くしまる。
- 95層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。黒色土小型ブロック含む。固くしまる。
- 96層 黒灰褐色土層 暗褐色土ブロック含む。91層より明、97層より暗。やや固くしまる。
- 97層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック含む。98層より暗、95層より明。固くしまる。
- 98層 黄褐色土層 ロームの純層。固くしまる。
- 99層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。100層より暗、95層より明。固くしまる。
- 100層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。99層より明、101層より暗。固くしまる。
- 101層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック含む。102層より暗、99層より明。固くしまる。
- 102層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、101層より明。固くしまる。
- 103層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒味がかかる。102層より暗。固くしまる。
- 104層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。105層より明。固くしまる。
- 105層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。104層より暗、106層より明。
- 106層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に含む。80層より明、107層より暗。
- 107層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体的に黒味がかかる。105層より暗。
- 108層 暗褐色土層 ローム粒子・中型ロームブロック霜降り状に含む。72層より明、109層より暗。固くしまる。
- 109層 暗褐色土層 ローム粒子・大型ロームブロック霜降り状に含む。108層より明。

110層	暗褐色土層	ローム粒子・中型ロームブロック霜降り状に含む。黒褐色土ベース。108層より暗、114層より明。	ク霜降り状に含む。134層より暗、80層より明。固くしまる。
111層	暗褐色土層	ローム質土全体に含む。黒味強い。114層より明。固くしまる。	136層 暗褐色土層
112層	暗褐色土層	ローム粒子霜降り状に含む。111層より暗、113層より明。	ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。132層より暗。固くしまる。
113層	暗褐色土層	ローム粒子霜降り状に含む。黒色土ブロック若干含む。114層より明、112層より暗。固くしまる。	137層 暗褐色土層
114層	暗褐色土層	ローム粒子霜降り状に若干含む。113層より暗。	ローム粒子多量に含み、ロームブロック若干含む。136層より明、138層より暗。固くしまる。
115層	暗褐色土層	ローム粒子・ロームブロック含む。114層より明。	138層 暗黄褐色土層
116層	暗褐色土層	ローム粒子霜降り状に含む。112層より暗。	小～中型ロームブロックを主体とし、小型黒色土ブロック含む。145層より明。固くしまる。
117層	黄褐色土層	ローム土を主体とし、固くしまる。	139層 黒灰褐色土層
118層	暗褐色土層	ローム粒子・小型ロームブロック・小型黒色土ブロック霜降り状に含む。113層より暗。固くしまる。	ローム粒子・小型ロームブロック含む。146層より暗。固くしまる。
119層	暗褐色土層	ローム粒子含み、大型ロームブロック若干含む。118層より明。	140層 暗褐色土層
120層	暗褐色土層	小～中型ロームブロック・黒色土ブロック霜降り状に含む。117層より暗、118層より明。固くしまる。	ローム粒子・小型ロームブロック含む。145層より暗、141層より明。固くしまる。
121層	暗褐色土層	ローム粒子多量に含み、小～中型ロームブロック若干含む。120層より暗、118層より明。固くしまる。	141層 暗褐色土層
122層	暗灰褐色土層	ローム粒子霜降り状に含む。黒色土混じる。固くしまる。	ローム粒子霜降り状に多量に含む。140層より暗、139層より明。固くしまる。
123層	暗黄褐色土層	ローム粒子・小～中型ロームブロック多量に含む。93層より明。固くしまる。	142層 暗黄褐色土層
124層	暗褐色土層	ローム質土を主体的に含み黒味がかかる。123層より暗、125層より明。固くしまる。	ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。143層より暗、141層より明。固くしまる。
125層	暗灰褐色土層	ローム粒子霜降り状に含む。小型ロームブロック若干含む。黒色土ベース。124層より暗。	143層 暗黄褐色土層
126層	暗褐色土層	ローム粒子霜降り状に含む。暗褐色土ベース。125層より明、121層より暗。固くしまる。	ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に多量に含む。142層より明、144層より暗。固くしまる。
127層	暗灰褐色土層	ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に若干含む。黒色土ベース。	144層 暗黄褐色土層
128層	暗褐色土層	ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。129層より暗、125層より明。(風倒木)	ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土ブロック含む。138層より暗。固くしまる。
129層	黄褐色土層	ロームの純層。(風倒木)	146層 暗黄褐色土層
130層	暗灰褐色土層	ローム粒子霜降り状に含み、小型ロームブロック若干含む。131層より暗。	ローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土ブロック含む。145層より暗。固くしまる。
131層	暗褐色土層	ローム粒子・ロームブロックを主体とし全体に黒味がかかる。134層より明。	147層 黒褐色土層
132層	暗褐色土層	ローム粒子・ロームブロックを主体とし黒色土ブロック含む。134層より暗、133層より明。固くしまる。	ローム粒子・ロームブロック若干含む。159層より暗。固くしまる。
133層	暗灰褐色土層	ローム粒子霜降り状に含む。137層より暗。固くしまる。	148層 黄褐色土層
134層	暗褐色土層	ローム粒子・小～中型ロームブロック含む。黒色土ベース。137層より明、134層より暗。固くしまる。	小～大型ロームブロックを主体とし、黒色土ブロック若干含む。152層より明。固くしまる。
135層	暗灰褐色土層	ローム粒子・小型ロームブロッ	149層 暗褐色土層
			ローム粒子・中型ロームブロック若干含む。黒色土ブロック含む。150層より暗。固くしまる。
			150層 暗褐色土層
			暗褐色土をベースに、ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。固くしまる。
			151層 暗褐色土層
			暗褐色土をベースに、ローム粒子若干含む。黒色土含む。149層より暗。固くしまる。
			152層 黄褐色土層
			小～大型ロームブロックを主体とし、黒色土ブロック混じる。148層より暗、150層より明。固くしまる。
			153層 暗褐色土層
			ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状含み、黒色土小型ブロック混じる。151層より明。固くしまる。
			154層 暗黄褐色土層
			ローム質土を主体とし、黒色土混じる。153層よりやや暗、144層より明。固くしまる。
			155層 黒灰褐色土層
			中型ロームブロック霜降り状に含む。157層より暗、80層より明。固くしまる。
			156層 暗黄褐色土層
			154層に類似するも154層よりやや明るい。固くしまる。
			157層 暗灰褐色土層
			小～中型ロームブロック霜降り状に含む。固くしまる。

- 158層 暗黄褐色土層 中型ロームブロックを主体的に含む。黒色土ベース。145層より明。固くしまる。
- 159層 暗灰褐色土層 暗褐色ブロック斑状に含み、ローム粒子若干含む。158層より暗、80層より明。
- 160層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、161層との間に角閃石安山岩チップ含む。161層より明。固くしまる。
- 161層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック含む。160層より暗。固くしまる。
- 162層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、164層よりやや明。固くしまる。
- 163層 暗黄褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～大型ロームブロック多量に含む。161層より暗。固くしまる。
- 164層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。162層より暗、166層より明。固くしまる。
- 165層 暗黄褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～大型ロームブロック多量に含む。163層よりやや明。固くしまる。
- 166層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。167層より暗。固くしまる。
- 167層 暗黄褐色土層 ローム粒子含み小～大型ロームブロック霜降り状に含む。166層より明、169層より暗。固くしまる。
- 168層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、172層との間に角閃石安山岩チップ若干含む。172層よりやや明。固くしまる。
- 169層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に多量に含む。167層より明、168層より暗。固くしまる。
- 170層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土ブロック混じる。173層より明。固くしまる。
- 171層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。黒色土含む。170層より明、168層より暗。固くしまる。
- 172層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、168層よりやや暗、176層より明。固くしまる。
- 173層 黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。174層より暗。固くしまる。
- 174層 暗褐色土層 ローム質土を主体とし、黒色土含む。175層より暗、170層より明。固くしまる。
- 175層 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを主体とし、黒色土含む。170層より明。固くしまる。
- 176層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、172層との間に各閃石安山岩チップ若干含む。172層より明。固くしまる。
- 177層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック霜降り状に含む。172層より暗、179層より明。固くしまる。
- 178層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック含む。黒色土混じる。179層より暗、180層より明。固くしまる。
- 179層 暗黄褐色土層 ローム粒子・中型ロームブロック多量に含む。黒色土含む。177層より暗、178層より明。固くしまる。
- 180層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。179層より暗。固くしまる。掘方埋土。
- 181層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含み、小型ロームブロック含む。180層より暗。固くしまる。掘方埋土。
- 182層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子霜降り状に含む。小型ロームブロック・中型黒色土ブロック含む。181層より明、180層より暗。固くしまる。掘方埋土。
- 183層 暗黄褐色土層 小～中型ロームブロックを主体的に含む。黒色土ブロック含む。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 184層 暗黄褐色土層 小～大型ロームブロックを主体的に含む。ローム粒子・黒色土ブロック含む。183層より暗、189層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 185層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、根石のをせ非常に固くしまる。186層より暗。掘方埋土。
- 186層 黄褐色土層 ローム土・小型黒色土ブロック若干含む。非常に固くしまる。棺床構成土（直上に角閃石安山岩チップ層をのせる）。199層より明。掘方埋土。
- 187層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。188層より暗。
- 188層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。187層より明。
- 189層 暗褐色土層 ローム粒子多量に含み、小型ロームブロック・黒色土霜降り状に含む。190層より明、184層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 190層 暗褐色土層 ローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に含む。189層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 191層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック含む。192層より明、194層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 192層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。189層より明、195層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 193層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。194層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 194層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。211層より明。固くしまる。掘方埋土。
- 195層 暗灰褐色土層 小型ロームブロック・ローム粒子霜降り状に含む。191層より暗。固くしまる。掘方埋土。
- 196層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。189層より明、193層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 197層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。ロームブロック若干含む。200層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 198層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに小型ロームブロック霜降り状に多量に含む。黒色土多量に含む。ローム粒子含む。186層より暗、197層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 199層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。198層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 200層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型黒色土ブロッ

- ク霜降り状に含む。小～大型ロームブロック含む。199層より明、204層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 201層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に多量に含む。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 202層 暗黄褐色土層 ロームブロックを主体とし、黒色土含む。186層より暗、201層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 203層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。やや黒味がかかる。200層より暗。掘方埋土。
- 204層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。小型黒色土ブロック霜降り状に含む。205層より暗、211層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 205層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。204層より明、186層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 206層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む、小型ロームブロック含む。189層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 207層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。206層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 208層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。201層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 209層 黒灰褐色土層 ローム粒子若干含む。230層よりやや明。
- 210層 暗黄褐色土層 小～大型ロームブロック・黒色土ブロック・暗褐色土の混合土。208層より暗、203層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 211層 暗黄褐色土層 小～大型ロームブロック・黒色土ブロック・暗褐色土の混合土。固くしまる。掘方埋土。
- 212層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック霜降り状に含む。211層より明。
- 213層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土ベース。161層より暗。固くしまる。
- 214層 黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。213層より暗。固くしまる。
- 215層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック若干含む。162層よりやや暗、163層より明。固くしまる。
- 216層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土霜降り状に多量に含む。217層より明、215層より暗。固くしまる。
- 217層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、216層より黒色土多量に含む。216層より暗。
- 218層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。226層より暗、227層より明。非常に固くしまる。
- 219層 暗黄褐色土層 小～大型ロームブロック多量に含む。黒色土混じる。216層より明。220層より暗。固くしまる。
- 220層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。221層より明。固くしまる。
- 221層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック含む。220層より暗、163層より明。固くしまる。
- 222層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。217層より明、172層より暗。固くしまる。
- 223層 暗褐色土層 暗灰褐色土をベースに、ローム粒子含む。小～大型ロームブロック含む。224層より明、223層より暗。固くしまる。
- 224層 暗灰褐色土層 ローム粒子若干含む。229層よりやや明、223層より暗。固くしまる。
- 225層 暗黄褐色土層 小型ロームブロック多量に含む。黒色土含む。226層より明、177層より暗。非常に固くしまる。
- 226層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック(225層より少)多量に含む。黒色土含む。225層より暗、227層より明。非常に固くしまる。
- 227層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。220層より暗。
- 228層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。229層より明、177層より暗。非常に固くしまる。
- 229層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。228層よりやや暗、220層より明。非常に固くしまる。
- 230層 黒灰褐色土層 ローム粒子若干含む。209層よりやや暗。
- 231層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。234層より明。固くしまる。
- 232層 黒灰褐色土層 ローム粒子・ロームブロック含む。233層より暗。固くしまる。
- 233層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。黒色土ベース。232層より明、235層より暗。固くしまる。
- 234層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。235層より明、232層より明。固くしまる。
- 235層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・黒色土ブロック含む。暗褐色土ベース。234層より暗、237層より明。固くしまる。
- 236層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。235層より明、148層より暗。固くしまる。
- 237層 黒灰褐色土層 不純物含まず。235層より暗。固くしまる。
- 238層 暗褐色土層 黒色土をベースに小～中型ロームブロック霜降り状に含む。148層より暗、234層より明。固くしまる。
- 239層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。221層より明。固くしまる。
- 240層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子多量に含む。241層より暗、242層より明。固くしまる。
- 241層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土含む。148層より暗。固くしまる。
- 242層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む、小型ロームブロック含む。245層より明、244層より暗。固くしまる。
- 243層 黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。237層より暗。固くしまる。
- 244層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土含む。220層より暗。固くしまる。
- 245層 黒灰褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロッ

	ク霜降り状に含む。243層より明、246層より暗。固くしまる。	268層	黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック霜降り状に含む。267層より暗、160層より明。固くしまる。
246層	暗褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。245層より明。固くしまる。	269層	暗黄褐色土層 小型ロームブロック多量に含む。黒色土混じる。(ロームは271層に含まれるのと同質の明黄褐色粘質ローム)271層より暗。固くしまる。
247層	暗褐色土層 黒色土をベースに小型ロームブロック霜降り状に含む。246層より暗。固くしまる。	270層	黄褐色土層 ローム土を主体とし、中型黒色土ブロック若干含む。269層より明。固くしまる。
248層	黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。247層より暗、224層より明。固くしまる。	271層	黄褐色土層 中型ロームブロックを主体とし、(ロームは明黄褐色粘質ローム)269層より明。固くしまる。
249層	暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。223層より暗、247層より明。固くしまる。	272層	暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに小～中型ロームブロック・黒色土ブロック含む。142層より明、269層より暗。固くしまる。
250層	黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック若干含む。231層より暗、235層より明。固くしまる。	273層	暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに小～中型ロームブロック霜降り状に含む。272層より明、固くしまる。
251層	暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロックを主体とし、黒色土混じる。250層より暗、252層より明。固くしまる。	274層	暗褐色土層 黒灰褐色土をベースに小～大型ロームブロック霜降り状に含む。147層より明。固くしまる。
252層	暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロックを主体とし、暗褐色土ベース。251層より暗、261層より明。固くしまる。	275層	暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに小～中型ロームブロック霜降り状に含む。276層より明。固くしまる。
253層	黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。262層より暗。固くしまる。	276層	暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック・小型黒色土ブロック霜降り状に含む。275層より暗、151層より明。固くしまる。
254層	暗黄褐色土層 ローム質土を主体とし、黒色土ブロック含む。252層より明、263層より暗。固くしまる。	277層	黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。282層より暗、157層より明。固くしまる。
255層	暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。235層より暗。固くしまる。	278層	暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック含む。全体に黒味がかかる。146層よりやや明、270層より暗。固くしまる。
256層	暗黄褐色土層 ローム土を主体とし黒色土混じる。235層より暗、255層より明。固くしまる。	279層	暗黄褐色土層 小型黒色土ブロック含む。270層より明、278層より暗。固くしまる。
257層	暗褐色土層 黒色土をベースに暗褐色土ブロック多量に含む。259層より明、260層より暗。固くしまる。	280層	暗褐色土層 小型ロームブロック・黒色土含む。175層より明、273層より暗。固くしまる。
258層	黒灰褐色土層 ローム粒子若干含む。259層より暗。固くしまる。	281層	黒灰褐色土層 ロームブロック若干含む。283層より暗。固くしまる。
259層	暗褐色土層 黒色土をベースに暗褐色土ブロック多量に含む。257層より暗、258層より明。固くしまる。	282層	黄褐色土層 大型ロームブロック多量に含む。283層より明、270層より暗。固くしまる。
260層	暗黄褐色土層 ローム質土を主体とし、全体に黒味がかかる。259層より明、231層より暗。固くしまる。	283層	暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。小型黒色土ブロック混じる。282層より暗、281層より明。固くしまる。
261層	暗褐色土層 暗褐色土をベースに、ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土混じる。252層より暗、255層より明。固くしまる。	284層	暗黄褐色土層 中型ロームブロックを主体に黒色土混じる。270層より暗、285層より明。固くしまる。
262層	暗褐色土層 暗褐色土をベースに、ローム粒子・小型ロームブロック多量に霜降り状に含む。黒色土ブロック混じる。	285層	暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック含む。146層より暗、281層より明。固くしまる。
263層	黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。固くしまる。	286層	暗褐色土層 暗褐色土ブロック多量に含む。80層より明。
264層	暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック含む。黒色土混じる。263層より暗、262層より明。固くしまる。	287層	黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック若干含む。角閃石安山岩チップ含む。172層より暗。固くしまる。
265層	暗灰褐色土層 ローム粒子多量に含む。262層より暗、253層より明。固くしまる。	288層	暗黄褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック多量に霜降り状に含む。287層より暗、289層より明。非常に固くしまる。
266層	黄褐色土層 ローム土を主体とし、267層より明。固くしまる。	289層	暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック多量に霜降り状に含む。
267層	黄褐色土層 小～大型ロームブロック多量に含む黒色土ブロック霜降り状に含む。160層より明、266層より暗。固くしまる。		

- 288層より暗。非常に固くしまる。
- 290層 黄褐色土層 小～中型ロームブロックを主体とし、黒色土若干混じる。287層より暗、288層より明。非常に固くしまる。
- 291層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにロームブロック含む。小型黒色土ブロック含む。292層より明、290層より暗。非常に固くしまる。
- 292層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに291層より黒味がかかる。ロームブロック含む。291層より暗、294層より明。非常に固くしまる。
- 293層 暗黄褐色土層 小型ロームブロック多量に含む。289層より明、287層より暗。非常に固くしまる。
- 294層 黒灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。80層より明。固くしまる。
- 295層 暗褐色土層 小型ロームブロック霜降り状に含む。293層より暗、297層より明。固くしまる。
- 296層 暗黄褐色土層 小～大型ロームブロック含む。暗褐色土ベース、黒色土混じる。183層より暗、295層より明。ゴツゴツした感じ。固くしまる。
- 297層 暗灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒・小型ロームブロック含む。295層より暗、294層より明。非常に固くしまる。
- 298層 暗灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒・小型ロームブロック含む。297層より明、306層より暗。非常に固くしまる。
- 299層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒・ロームブロック含む。305層より暗、80層より明。
- 300層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。非常に固くしまる。
- 301層 黒灰褐色土層 黒色土を主体とし、ローム粒子含む。298層より暗。非常に固くしまる。
- 302層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小～中型黒色土ブロック含む。190層より明、300層より暗。非常に固くしまる。
- 303層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック含む。302層より明、193層より暗。非常に固くしまる。
- 304層 暗黄褐色土層 ローム質土（暗褐色土に近い）をベースに黒色土ブロック・ローム粒子含む。303層より暗、190層より明。非常に固くしまる。
- 305層 暗褐色土層 暗褐色土をベースに黒色土混じる。299層より明。
- 306層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～大型ロームブロック多量に含む。黒色土若干含む。160層より暗。固くしまる。
- 307層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、161層より暗。固くしまる。
- 308層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。160層より暗、161層より明。固くしまる。
- 309層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック含む。角閃石安山岩チップ含む。310層より暗。固くしまる。
- 310層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土若干含む。角閃石安山岩チップ含む。162層より明。固くしまる。
- 311層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、310層との境界に角閃石安山岩チップ多量に含む。固くしまる。
- 312層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～大型ロームブロック多量に霜降り状に含む。黒色土ブロック混じる。313層より明、161層より暗。固くしまる。
- 313層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に多量に含む。黒色土ブロック混じる。312層より暗。
- 314層 黄褐色土層 ロームの純層。角閃石安山岩チップ多量に含む。317より明。固くしまる。
- 315層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。172層より暗。固くしまる。
- 316層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、314層よりやや暗。固くしまる。
- 317層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。313層より明、316層より暗。固くしまる。
- 318層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに黒色土混じる。319層より暗。固くしまる。
- 319層 暗黄褐色土層 ローム質土を主体に黒色土混じる。318層より明、320層より暗。固くしまる。
- 320層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック混じる。321層より明、312層より暗。固くしまる。
- 321層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。320層より明、312層より暗。固くしまる。
- 322層 暗黄褐色土層 小～中型ロームブロックを主体とし、小型黒色土ブロック含む。317層より暗、320層より明。固くしまる。
- 323層 黒灰褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。224層より暗、80層より明。固くしまる。
- 324層 暗黄褐色土層 中型ロームブロック多量に含み黒色土混じる。326層より暗、325層より明。固くしまる。
- 325層 暗褐色土層 ローム質土を多量に含む。黒色土混じる。323層より明。固くしまる。
- 326層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック若干含む。317層より明。固くしまる。
- 327層 暗褐色土層 ローム質土を主体とし、黒色土混じる。323層より明、325層より暗。固くしまる。
- 328層 黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック含む。固くしまる。
- 329層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック若干含む。312層よりやや暗、330層より明。固くしまる。
- 330層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック多量に含む。329層より暗。固くしまる。
- 331層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子多量に含む。小型黒色土ブロック含む。330層より暗、333層より明。固くしまる。
- 332層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、334層より暗、331層より明。固くしまる。
- 333層 黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子含む。331層より暗。やや固くしまる。
- 334層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体にゴツゴツした観あり。329層より明。固くしまる。
- 335層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック含む。341層より暗。固くしまる。
- 336層 黄褐色土層 ロームの純層。固くしまる。
- 337層 暗黄褐色土層 ローム質土をベースに黒色土混じる。255層より明、334層より暗。固くしまる。
- 338層 黒灰褐色土層 黒色土をベースにロームブロッ

	ク若干含む。323層より明、255層より暗。固くしまる。		分紋状に含み非常に固くしまる。SD覆土。
339層	暗黄褐色土層 小〜大型ロームブロックを主体とし、黒色土含む。318層より暗、341層より明。固くしまる。	364層	明褐色土層 As-A 多量に含みザラつく。80層より As-A 少ない。SD覆土。
340層	暗黄褐色土層 中型ロームブロック多量に含み黒色土混じる。255層より明、337層より暗。固くしまる。	365層	暗褐色土層 As-A 含まず。ロームブロック若干含む。366層より明。SD覆土。
341層	黄褐色土層 ローム土を主体とし、暗褐色土混じる。固くしまる。	366層	暗褐色土層 径2mm大砂礫含み部分的に As-A の差込み認められる。365層より暗。SD覆土。
342層	暗褐色土層 暗褐色土をベースに小型ロームブロック霜降り状に含む。固くしまる。	367層	暗褐色土層 41層とロームとの中間層。As-A 含む。
343層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子霜降り状に含む。342層より明、344層より暗。非常に固くしまる。	368層	暗黄褐色土層 中型ロームブロックを主体とし、中型黒色土ブロック混じる。371層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
344層	暗黄褐色土層 小〜中型ロームブロック多量に含む。343層より明。非常に固くしまる。	369層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック含む。372層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
345層	黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小〜中型ロームブロック霜降り状に含む。348層より明、351層より暗。固くしまる。	370層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにロームブロック・黒色土若干含む。369層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
346層	暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土含む。344層よりやや暗、349層より明。固くしまる。	371層	暗黄褐色土層 ローム粒子・小〜中型ロームブロック霜降り状に含む。暗褐色土ベース。306層より暗、370層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
347層	黄褐色土層 ロームの純層。(ゴツゴツした粘質ローム) 固くしまる。	372層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小〜中型ロームブロック霜降り状に含む。369層より明、186層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
348層	黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子含む。345層より暗。固くしまる。	373層	黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子含む。372層より暗、224層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
349層	暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、暗褐色土・黒色土含む。346層より暗、353層より明。固くしまる。	374層	暗黄褐色土層 小〜中型ロームブロック多量に含む。黒色土ブロック混じる。非常に固くしまる。186層より明。掘方埋土。
350層	暗黄褐色土層 ローム粒子・小〜大型ロームブロック含む。黒色土混じる。349層より暗、353層より明。固くしまる。	375層	暗褐色土層 暗褐色土をベースに小〜大型ロームブロック混じる。黒色土ブロック若干含む。374層より暗、376層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
351層	暗褐色土層 ローム粒子含む。	376層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。375層より暗、176層よりやや明。非常に固くしまる。掘方埋土。
352層	暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土混じる。全体に黒味がかかる。346層より暗、353層より明。固くしまる。	377層	黒灰褐色土層 黒色土をベースに小型ロームブロック若干含む。224層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
353層	暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・ロームブロック含む。351層より明、352層より暗。固くしまる。	378層	暗褐色土層 暗褐色土をベースに小〜中型ロームブロック・ローム粒子多量に含む。黒色土ブロック混じる。379層より暗、377層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
354層	暗黄褐色土層 ローム質土均一に含む。径20mm大砂礫若干含む。345層より明。固くしまる。	379層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土ブロック混じる。378層より明、193層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
355層	灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子含む。358層より明。やや固くしまる。	380層	暗褐色土層 大型ロームブロックを主体とし、暗褐色土混じる。381層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
356層	暗褐色土層 353層と355層との中間的層。やや固くしまる。	381層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにロームブロック若干含む。380層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
357層	暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子含む。径10〜30mm大砂礫若干含む。固くしまる。	382層	黒灰褐色土層 黒色土をベースにロームブロック混じる。224層より明、327層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
358層	黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・ロームブロック若干含む。80層より明。355層より明。	383層	暗黄褐色土層 小〜中型ロームブロック多量に
359層	暗灰褐色土層 ローム粒子若干含む。355層より暗、358層より明。固くしまる。		
360層	暗褐色土層 灰褐色土をベースにロームブロック混じる。径5〜10mm大砂礫含む。25層より暗。		
361層	暗灰褐色土層 スコリア含みザラつく。径5mm大砂礫混じる。43層より暗、1層より明。		
362層	黒褐色土層 As-A 多量に含みザラつく。非常に固くしまる。旧道路床面。SD覆土。		
363層	明青灰色土層 As-A 多量に含みザラつく。鉄		

- 含み、小～大型黒色土ブロック霜降り状に含む。ローム粒子含む。160層より暗。固くしまる。
- 384層 暗黄褐色土層 小～中型ロームブロックを主体とし、黒色土混じる。383層より暗、401層より明。固くしまる。
- 385層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土小型ブロック若干含む。388層より明、160層より暗。固くしまる。
- 386層 暗黄褐色土層 小～中型ロームブロックを主体。小型黒色土ブロック霜降り状に含む。384層より明、385層より暗。固くしまる。
- 387層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、暗褐色土混じる。ローム粒子含む。386層より明、385層より暗。固くしまる。
- 388層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック多量に含む。小～大型黒色土ブロック霜降り状に(383層より多い)含む。383層より暗、390層より明。固くしまる。
- 389層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック若干含む。393層より明。固くしまる。
- 390層 暗褐色土層 黒色土をベースに中～大型ロームブロック多量に含む。388層より暗。固くしまる。
- 391層 暗黄褐色土層 ローム粒子多量に含み小型ロームブロック霜降り状に含む。388層より明、393層より暗。固くしまる。
- 392層 黒灰褐色土層 黒色土をベースにロームブロック含む。391層より暗。
- 393層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロックを主体とし、小型黒色土ブロック若干含む。391層より明、389層より暗。固くしまる。
- 394層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。小型黒色土ブロック霜降り状に含む。393層より暗。固くしまる。
- 395層 黄褐色土層 ロームの純層。389層より明。固くしまる。
- 396層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。黒色土混じる。397層より暗。固くしまる。
- 397層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック含む。396層より明、399層より暗。固くしまる。
- 398層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含み、黒色土混じる。全体に黒味がかかる。397層より暗、396層より明。固くしまる。
- 399層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、微小～小型黒色土ブロック若干含む。径5～10mm大砂礫若干含む。397層より明。固くしまる。
- 400層 暗黄褐色土層 ローム土を主体に黒色土ブロック混じる。399層より暗、396層より明。固くしまる。
- 401層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック・黒色土ブロック霜降り状に含む。404層より明、385層より暗。固くしまる。
- 402層 暗灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック含む。404層より暗。固くしまる。
- 403層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロックを主体に黒色土ブロック若干含む。401層より明。固くしまる。
- 404層 暗褐色土層 暗灰褐色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に多量に含む。黒色土ブロック混じる。402層より明、401層より暗。固くしまる。
- 405層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック若干含む。389層よりやや暗。固くしまる。
- 406層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に含む。404層より暗、410層より明。固くしまる。
- 407層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型黒色土ブロック含む。405層より暗、408層より明。固くしまる。
- 408層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに小～中型ロームブロック・ローム粒子多量に含む。409層より暗、404層より明。固くしまる。
- 409層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土紋状に含む。408層よりやや明、407層より暗。固くしまる。
- 410層 黒灰褐色土層 黒色土をベースに小～中型ロームブロック斑状に含む。417層より明、406層より暗。固くしまる。
- 411層 暗褐色土層 暗灰褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。413層よりやや暗、412層より明。固くしまる。
- 412層 暗褐色土層 ローム粒子含み、黒色土ブロック若干含む。411層より暗、414層より明。固くしまる。
- 413層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に含む。411層より明、403層より暗。固くしまる。
- 414層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。415層より明、412層より暗。固くしまる。
- 415層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。414層より暗、417層より明。固くしまる。
- 416層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子多量に含む。410層より明、415層より暗。固くしまる。
- 417層 黒灰褐色土層 暗褐色土ブロック斑状に含む。80層より明、415層より暗。固くしまる。
- 418層 暗褐色土層 黒色土をベースに中型ロームブロック多量に含む。412層より暗、419層より明。固くしまる。
- 419層 暗灰褐色土層 中型ロームブロック斑状に含む。ローム粒子含む。418層より暗、417層より明。固くしまる。
- 420層 暗黄褐色土層 小型ロームブロック多量に含み中型ロームブロック若干含む。ローム粒子含む。径5mm大砂礫含む。421層より明。固くしまる。
- 421層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック多量に含む。420層より暗、422層よりやや明。固くしまる。
- 422層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック多量に含む。421層よりやや暗。固くしまる。
- 423層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～大型ロームブロック多量に含む。422層より明。固くしまる。
- 424層 暗黄褐色土層 暗灰褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に多量に含む。

- 423層より暗。固くしまる。
- 425層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。径5mm大砂礫含む。426層より暗。固くしまる。
- 426層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにロームブロック多量に含む。径5mm大砂礫含む。428層より明。固くしまる。
- 427層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、全体に黒味がかかる。径5mm大砂礫含む。420層より暗、425層より明。固くしまる。
- 428層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースに小～大型ロームブロック霜降り状に含む。427層より暗、431層より明。固くしまる。
- 429層 暗黄褐色土層 ローム粒子多量に含みロームブロック若干含む。430層より明、427層より暗。固くしまる。
- 430層 暗褐色土層 ローム質土を主体とし、全体に黒味がかかる。433層より明、429層より暗。固くしまる。
- 431層 暗褐色土層 暗褐色土をベースに中型ロームブロック霜降り状に含む。430層より暗。固くしまる。
- 432層 暗褐色土層 As-A 含む。径2～30mm大砂礫含む。全体に黄味がかかる。41層より明、427層より暗。
- 433層 暗灰褐色土層 ローム粒子・As-A 若干含む。全体に黒味がかかる。42層より明、434層より暗。
- 434層 暗灰褐色土層 ローム粒子・ロームブロック若干含む。全体に黒味がかかる。433層より暗。
- 435層 暗灰褐色土層 As-B 多量に含みザラつく。2層より明、43層より暗。
- 436層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。13層より暗、3層より明。
- 437層 黒灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック含む。5層より明、440層より暗。
- 438層 暗褐色土層 黒色土をベースにロームブロック霜降り状に含む。437層より明、15層より暗。
- 439層 暗褐色土層 暗褐色土をベースに黒色土含む。15層より暗、438層より明。
- 440層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒味がかかる。15層より明。
- 441層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロックを主体とし、小型黒色土ブロック混じる。400層より明、444層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 442層 黄褐色土層 ロームの純層。(下層の砂礫含んだ暗褐色土ローム土)444層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 443層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～大型ロームブロック霜降り状に含む。400層より暗、447層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 444層 黄褐色土層 ローム純層。黒色土粒子・小型ブロック霜降り状に含む。441層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 445層 黄褐色土層 小型ロームブロックを主体とし、暗褐色土若干含む。444層より暗、441層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 446層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・ロームブロック霜降り状に含む。443層より明、450層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 447層 暗褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。443層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 448層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。452層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 449層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子霜降り状に含む。452層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 450層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土含む。452層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 451層 暗黄褐色土層 ローム粒子・中～大型ロームブロック多量に含む。194層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 452層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子霜降り状に含む。450層より明、448層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 453層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。302層より明。固くしまる。掘方埋土。
- 454層 黄褐色土層 ロームの純層。287層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 455層 黒灰褐色土層 黒色土をベースに小～大型ロームブロック霜降り状に含む。457層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 456層 黄褐色土層 ロームの純層。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 457層 暗黄褐色土層 暗褐色土ベース。黒色土混じる。458層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 458層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小～大型ロームブロックを主体とし、黒色土混じる。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 459層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土混じる。460層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 460層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。黒色土混じる。459層より暗、297層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 461層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。462層より明、463層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 462層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。461層より暗、473層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 463層 暗黄褐色土層 ローム粒子多量に含み、小～中型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土ブロック含む。193層より明、453層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 464層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック・小型黒色土ブロック含む。473層より明、193層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 465層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、小型ロームブロック霜降り状に含む。287層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 466層 黒灰褐色土層 ローム粒子若干含む。非常に固

- くしまる。掘方埋土。
- 467層 暗黄褐色土層 暗褐色土ベース。小型ロームブロック多量に霜降り状に含む。468層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 468層 暗黄褐色土層 ローム粒子多量に含み、小型ロームブロック霜降り状に含む。黒色土ブロック含む。467層より明、374層より暗。掘方埋土。
- 469層 暗黄褐色土層 ローム粒子多量に含み微小ロームブロック含む。193層より暗、196層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 470層 暗黄褐色土層 小～大型ロームブロックを主体とし、中型黒色土ブロック混じる。194層より暗。掘方埋土。
- 471層 暗黄褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。掘方埋土。
- 472層 暗黄褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・ロームブロック多量に含む。470層より暗、378層より明。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 473層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにローム粒子多量に含む。黒色土混じる。463層より暗。非常に固くしまる。掘方埋土。
- 474層 暗褐色土層 暗褐色土をベースに小型ロームブロック霜降り状に含む。475層より暗、80層より明。
- 475層 暗黄褐色土層 80層とローム土との中間層。80層より明。
- 476層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。119層より明。
- 477層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック・黒色土ブロック含む。476層より暗。
- 478層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック含む。476層より明。
- 479層 暗褐色土層 ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。479層より明。
- 480層 暗褐色土層 ローム粒子を主体とし、188層より明。
- 481層 暗灰褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。482層より明。
- 482層 黒灰褐色土層 ローム粒子・中型ロームブロック霜降り状に含む。483層より暗。
- 483層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。484層より暗、482層より明。
- 484層 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロック多量に含む。483層より明。
- 485層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。482層より明、484層より暗。
- 486層 暗褐色土層 ローム粒子多量に含む。186層より明。
- 487層 暗黄褐色土層 小～中型ロームブロック多量に含む。160層より暗。
- 488層 暗褐色土層 ローム土と80層との中間層。80層より明。
- 489層 暗褐色土層 サラサラと軟質。後込め土。
- 490層 黒褐色土層 暗褐色土ブロック霜降り状に含む。80層より明、489層より暗。
- 491層 暗褐色土層 暗褐色土ブロック含む。80層より明、489層より暗。
- I層 暗灰褐色土層 As-A 含みザラつく。ローム粒子・小型ロームブロック若干含む。III層より暗。
- II層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロックを主体とし、黒色土混じる。IV層より明。固くしまる。
- III層 暗灰褐色土層 As-A 含みザラつく。小～中型ロームブロック含む。I層より明。
- IV層 暗灰褐色土層 As-A 含みザラつく。ローム粒子・小～中型ロームブロック霜降り状に含む。II層より暗、III層より明。
- V層 暗灰褐色土層 As-A 含みザラつく。ローム粒子・小型ロームブロック若干含む。I層より暗、VII層より明。
- VI層 暗灰褐色土層 As-A 含みザラつく。全体に黒味強い。VII層より暗。
- VII層 暗灰褐色土層 As-A 若干含み、ローム粒子・微小ロームブロック多量に含む。全体に黒味強い。VI層より明、V層より暗。
- VIII層 暗灰褐色土層 As-A 含み、ロームブロック若干含む。VII層より明、V層より暗。
- IX層 暗灰褐色土層 黒色土をベースにローム粒子・小型ロームブロック霜降り状に含む。VII層より明。
- X層 暗褐色土層 暗褐色土をベースにロームブロック・黒色土混じる。XI層より暗。
- XI層 暗黄褐色土層 中型ロームブロックを主体とし、黒色土混じる。X層より明、XII層より暗。
- XII層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、XI層より明。
- XIII層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロック含む。XI層より暗、XVII層より明。
- XIV層 黒灰褐色土層 ローム粒子含む。XVI層より明、XV層より暗。
- XV層 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロック霜降り状に含む。XI層より暗。
- XVI層 黒灰褐色土層 ローム粒子含む。80層より明。
- XVII層 灰褐色土層 径10mm大砂礫含む。XVIII層より明。
- XVIII層 黒褐色土層 径2～5mm大砂礫含む。
- XIX層 灰褐色土層 ローム粒子含む。XVIII層より明、XX層より暗。
- XX層 暗黄褐色土層 径2mm大砂礫若干含み、小～大型ロームブロック含む。暗灰褐色土ベース。
- XI層 灰褐色土層 ローム粒子・白色パミス含む。径5mm大の砂礫含む。XIX層より暗。
- XII層 灰褐色土層 白色パミス含む。全体に黄味がかかる。XXIV層より明、XXV層より暗。固くしまる。
- XXIII層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、黒色土ブロック混じる。
- XXIV層 黒灰褐色土層 ローム粒子含む。XXII層より暗。固くしまる。
- XXV層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、暗褐色土含む。XVII層より明。
- XXVI層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。
- XXVII層 黄褐色土層 ロームの純層。XXX層より明。
- XXVIII層 暗褐色土層 ローム粒子霜降り状に含む。XXVI層より暗。
- XXIX層 黄褐色土層 ロームの純層。XXVI層より暗。砂礫含む。
- XXX層 黄褐色土層 ロームの純層。下層のローム土。砂礫混じり、径5～10mm大砂礫含む。
- XXXI層 黄褐色土層 ロームの純層。XXX層より明。
- XXXII層 灰褐色土層 白色パミス含む。黒色ハードブロック含む。

第1号住居址土層注記

- I層 暗灰褐色土層 黒色土ブロック霜降り状に含む。焼土粒若干含む。
- II層 暗褐色土層 カマド壁体ブロック霜降り状に含む。焼土粒含む。
- III層 赤褐色土層 火床面、焼土層固くしまる。
- IV層 暗灰褐色土層 焼土粒・炭化物霜降り状に含む。I層より暗。
- V層 黄褐色土層 ローム土を主体とし、焼土粒含む。
- VI層 暗褐色土層 焼土粒・炭化物霜降り状に含む。
- VII層 暗褐色土層 焼土粒・炭化物含む。
- VIII層 暗褐色土層 焼土ブロック・炭化物霜降り状に含む。
- IX層 明灰褐色土層 焼土粒若干含む。ローム粒子・中型ロームブロック霜降り状に含む。X層より暗。
- X層 暗褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック含む。全体にローム質。焼土ブロック若干含む。XI層より暗。

- XI層 暗褐色土層 小型ロームブロック霜降り状に含む。焼土ブロック含む。
- XII層 暗黄褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック多量に含む。
- XIII層 暗灰褐色土層 ローム粒子・小型ロームブロック・焼土粒・炭化物含む。XII層より暗。
- XIV層 暗灰褐色土層 焼土粒・炭化物多量に含む。XIII層より暗。
- XV層 暗灰褐色土層 焼土粒多量含む。XIV層より明。
- XVI層 暗褐色土層 ローム粒子・微小～小型ロームブロック多量に含む。XV層より明。
- XVII層 暗黄褐色土層 ローム土を主体とし、焼土粒・炭化物若干含む。
- XVIII層 暗灰褐色土層 焼土粒・炭化物多量に含む、ローム粒子含む。XVII層より暗。

3. 埋葬施設の構造

(1) 横穴式石室

石室の位置 墳丘上の表土層を除去したところ、墳丘頂部から南側にかけて長方形の落込みが確認されたが、その位置や方向から埋葬施設の位置を反映していると推定されたのでグリットを設定して掘り下げを行った。その結果、崩落した石室用材である角閃石安山岩や副葬品の一部が検出されたため慎重に開掘を進めたところ、横穴式石室の存在が明らかとなった。その位置は、発掘調査によって判明した墳丘のほぼ中心に奥壁をおきN-17°-Wに主軸をもつ。石室の基底面である根石は墳丘構築面である旧表土層より66cm程下がった標高61.9mの位置におくが、石室は後に触れるとおり掘方内を版築し断面凸字状に基底面を整形した上に構築している。

平面形態 石室は玄室と羨道からなる両袖式の横穴式石室で前庭部を付設している。玄室はごく緩やかな膨張りを呈しているが、隅丸長方形に近い玄室形態をとる。玄門部は不明瞭であるが、羨門部より1.7mほど入ったあたりの根石が10cmほど突出していることや、床面のレベルがその当りを境に羨道部側が玄室側に比し10cmほど高くなっていることから、この部分において区別されるものと考えられる。したがって石室長5.1m、玄室長3.4m、同最大幅1.4m、羨道長1.7m、同幅0.9mの規模を測る。

壁の構造 壁材は榛名山二ツ岳噴出の浮石質角閃石安山岩であり、棺床面や前庭部の石組みにも用いられている。壁体は全体に遺存状況が悪く、最も残っていたところで根石を含めて3段で、奥壁部や羨道右壁は根石すら抜き取られている状態であった。根石は33個残存していたが、抜き取り痕跡などを勘案すると当初は石室全体で60個以上存在していたものと推定される。遺存していた壁体は根石も含めて壁面部分が加工されているものはなく、石材の自然面がそのまま残されていた。加工されているのは上下左右の石材と当る僅かな面だけであり、その必要がない場合には加工が施されていないものも存在した。壁の積み上げはいわゆる互目積みであり下段の左右の石材の接合面に上面の石材を載せた状態となる。壁体は墳丘土層中に観察された角閃石安山岩の削片の状況から少なくとも9段は存在していたものと推定され墳丘の削平を考慮すると、本来は15段程存在していたものと思われる。

石室床面の構造 床面は角閃石安山岩が敷き詰められていたが、玄室部の床面のみでなく羨道部の床面も同様な構造であった。先にも触れたとおり羨道部と玄室部の床面では玄門部を境に10cm程羨道部の方が高い。使用されていた角閃石安山岩は石室の壁体で使用されているものと同様なものであるが、一部の接合面と根石に接する部分を除くとそのほとんどが自然面のまま利用されていた。この床面のレベルは石室根石の上部レベルとほぼ同様で床面が完成すると根石は完全に隠れる状態となる。しかし、この角閃石による床面が最終的な床面ではなかったようであり、床面は一部が抜き取られるなど随所で攪乱を受けていたが、人骨や遺物がまとまって遺存していた奥壁近くの部分では、角閃石安山岩の床面を覆うように径5～10cm程の小石が密に敷き詰められており、この面が床面として機能していたものと推定される。角閃石安山岩と小石によるいわば2重構造の床面のありかたは追送時による床面の再構築による所産とも理解されるが、攪乱を受けていたとはいえ小石による床面下からは遺物の出土は皆無であり、築造当初よりこのような構造であったと推定される。

角閃石安山岩による床面を取り除くと版築面が現れたが、随所に角閃石安山岩の削片の堆積が認め

られた。この削片は、石室を構築する過程で石材の加工作業により生じたものと思われ、意図的に敷かれたものではないようである。したがって床面の構築は石室構築過程の最終段階におこなわれたものと推定される。

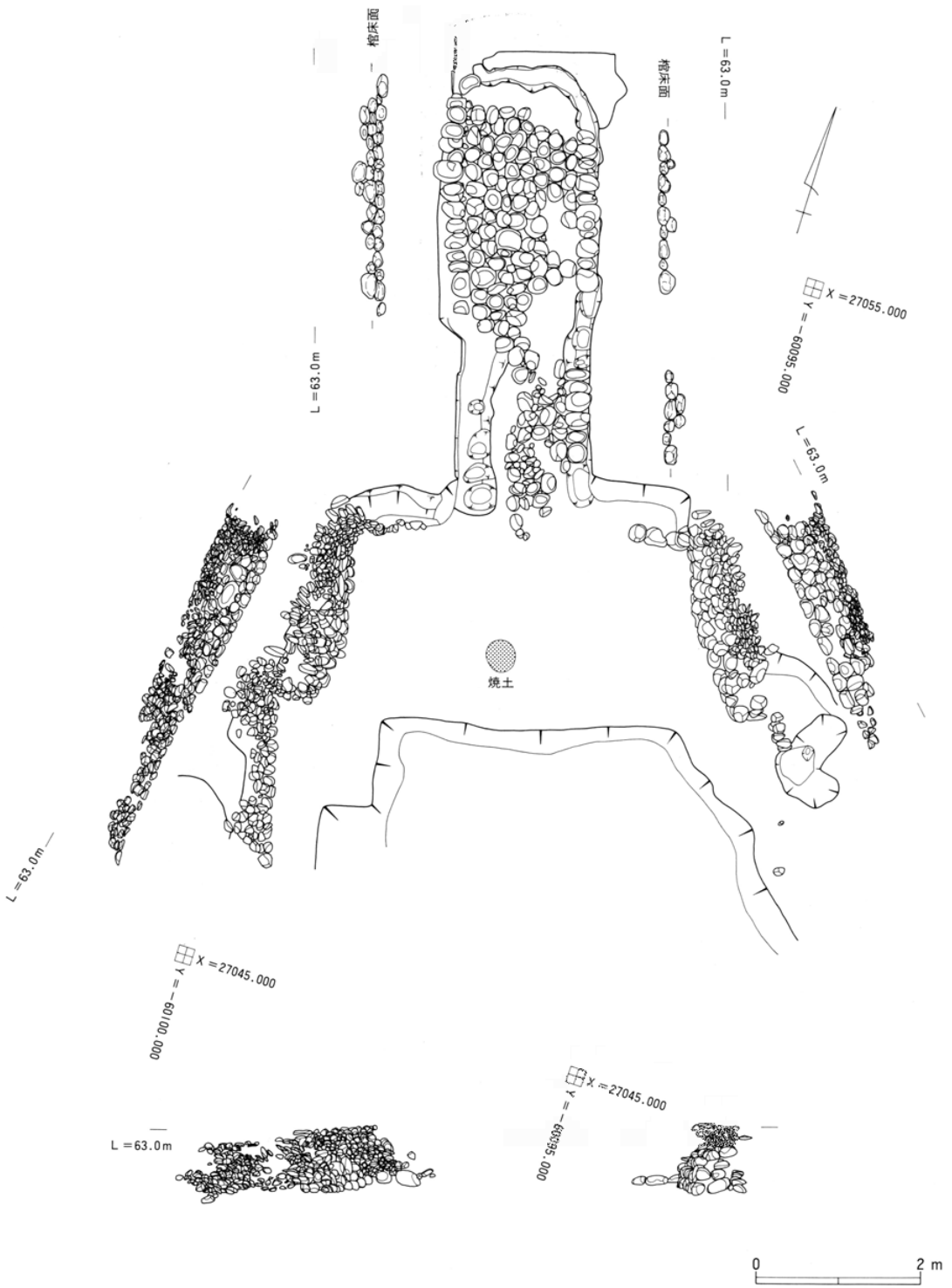
前庭部の構造 羨道部前面には前庭部が取り付くが、前庭部の平坦面のレベルは羨道部の床面のレベルとほぼ同じである。その壁面は葺石状の石垣で被覆されており、本墳ではその構造が比較的良好に保存していた。その平面形態は凸字状を呈するが、羨門部と前庭部との取り付けは、その部分が消失しており不明である。前庭部の石垣は大半が垂円礫を積み上げたものであるが、根石や石垣の一部には角閃石安山岩が使用されている。石材の積み上げは、断面観察によれば、扁平な垂円礫を小口積み状に外側に高く、墳丘側に低くなるように密接に積み上げており、墳丘部と石垣の間には裏込め状に比較的軟質な暗褐色土（65層）が詰められていた。この石垣は外見上は目地の通る部分などは認められず、下段より比較的ランダムに積み上げられている。前庭部が途中で屈曲する部分から先では連続して石垣が構築されておらず、解体時の所見によれば、屈曲部の石垣の上に被せるように取り付けられていた。この部分は他の部分に比し積み方も乱雑で、水平にしかも粗く積み上げられており、角閃石安山岩による根石をもたないなど構造的な差異を指摘できる。したがって、この部分は築造当初からのものではなく、追葬等による後の段階で付加された可能性が高いものと推定される。

掘方 石室床面下を断割ったところ、掘方の存在が明らかとなった。掘方は9m×5mの長方形で、その範囲は石室のみならず前庭部も含まれている。掘方は旧表土面から60cm程掘削した後に、大きく2回に分けて約半分程埋め戻した後（193層、194層）に細かく丁寧に版築を加えながら石室の基盤層としている。しかし、石室の主軸線と掘方の掘削範囲の主軸線とは全く一致せず、石室は掘方の西側に偏して構築されている。これは単に施工ミスによるものか、構造上の何等かの理由があるのかは不明であるが、掘方は前庭部の形状もある程度考慮されたうえで掘削されており、単純な施工ミスとは考え難い。石室を構築する基盤面は床面となる部分をかまぼこ状に高く盛り上げた状態で作られており、その周囲に根石を設置し石室を構築する。根石の設置レベルは標高61.7m程で、旧表土面より40cm程下部に存在する。なお、掘方の北側立上りのほぼ中央部にピットが1基検出された。掘方とともに埋戻されており、築造時の設計区割りに関わるものと推定される。

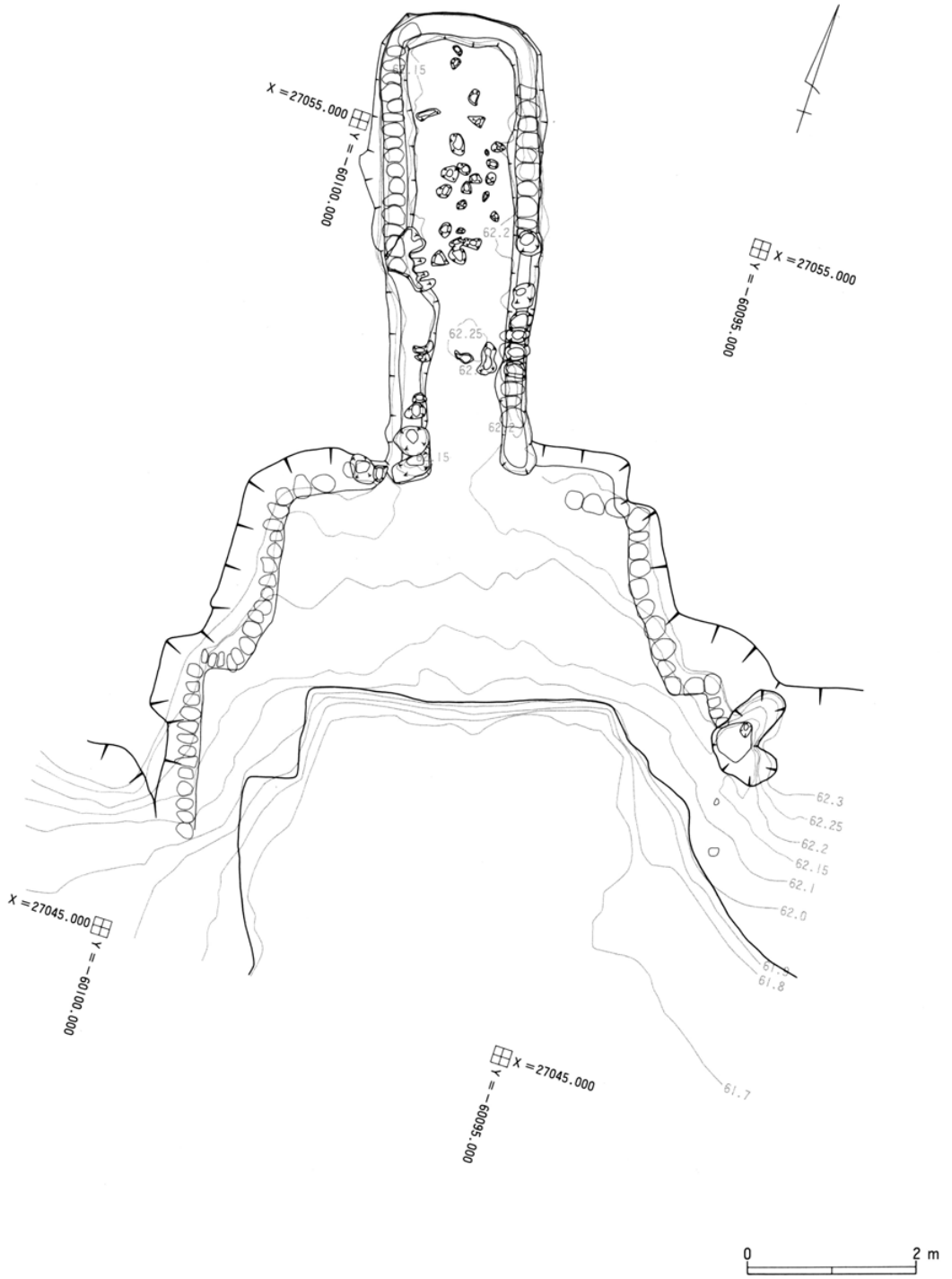
(2) 前庭部の遺物出土状況

前庭部およびその前面の垂円形土壌からは多量の土器が出土したが、その多くが2次的に移動したものであった。また、形状を留めていたものはほとんど皆無でありいずれも細片となっていたものばかりである。前庭部では多量の石材に混じって19層を中心に出土しており、この部分の破壊にともなって2次的に移動したものと思われる。ただし、前庭部の床面直上に散乱している破片も多数あり、土器を使用した墓前祭等の際に土器を破碎するような行為が行われた可能性も否定できない。

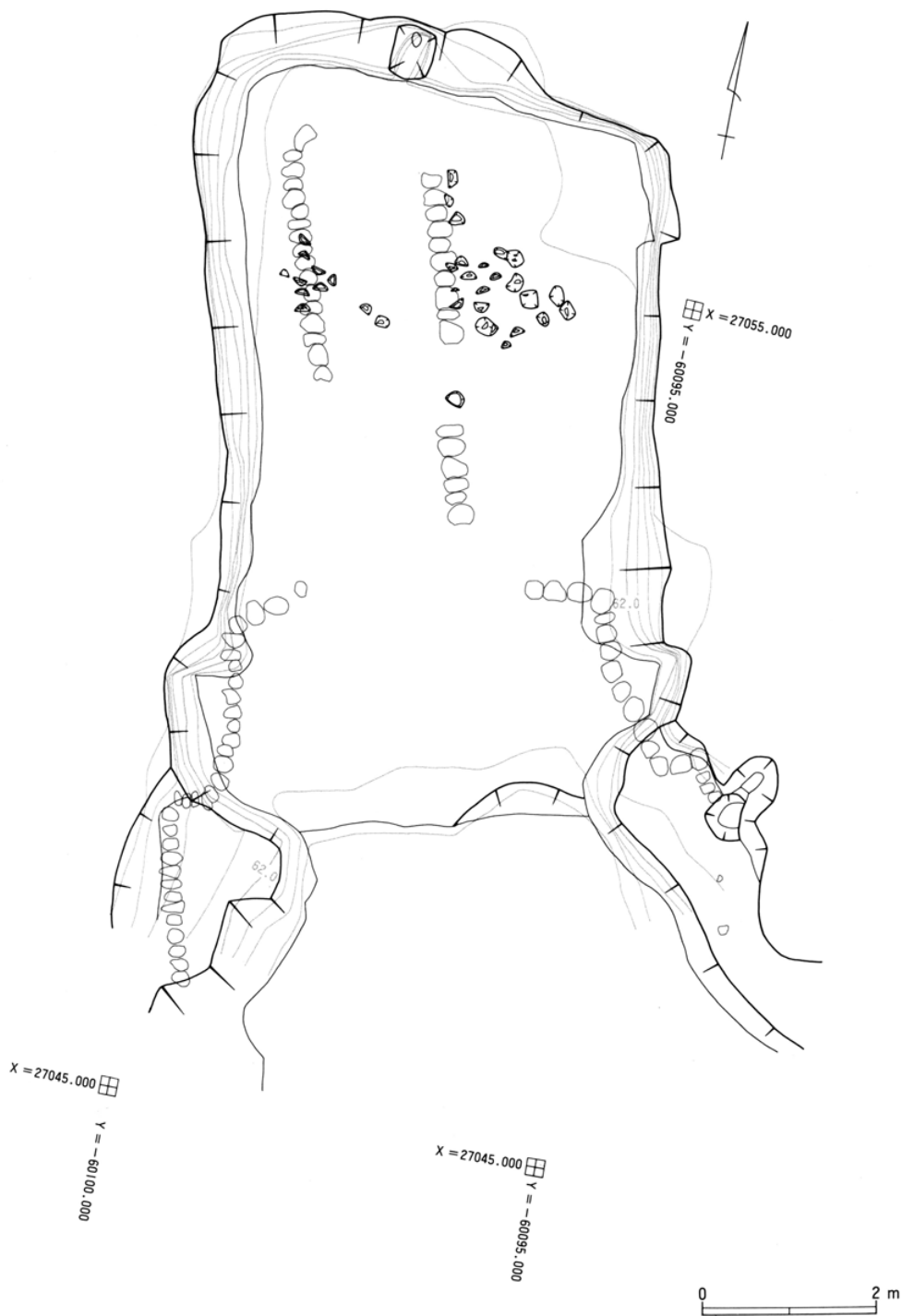
前庭部の遺物のなかで特筆すべきものとして銚帯金具が出土しているが、半径85cm程の範囲に床面より10cmほど浮いて5点が確認されたが、出土した点数や、鉸具や鉈尾が伴わないこと、19層中に含まれていることなどから、本来石室内に副葬されたものが2次的に移動したものと考えられる。



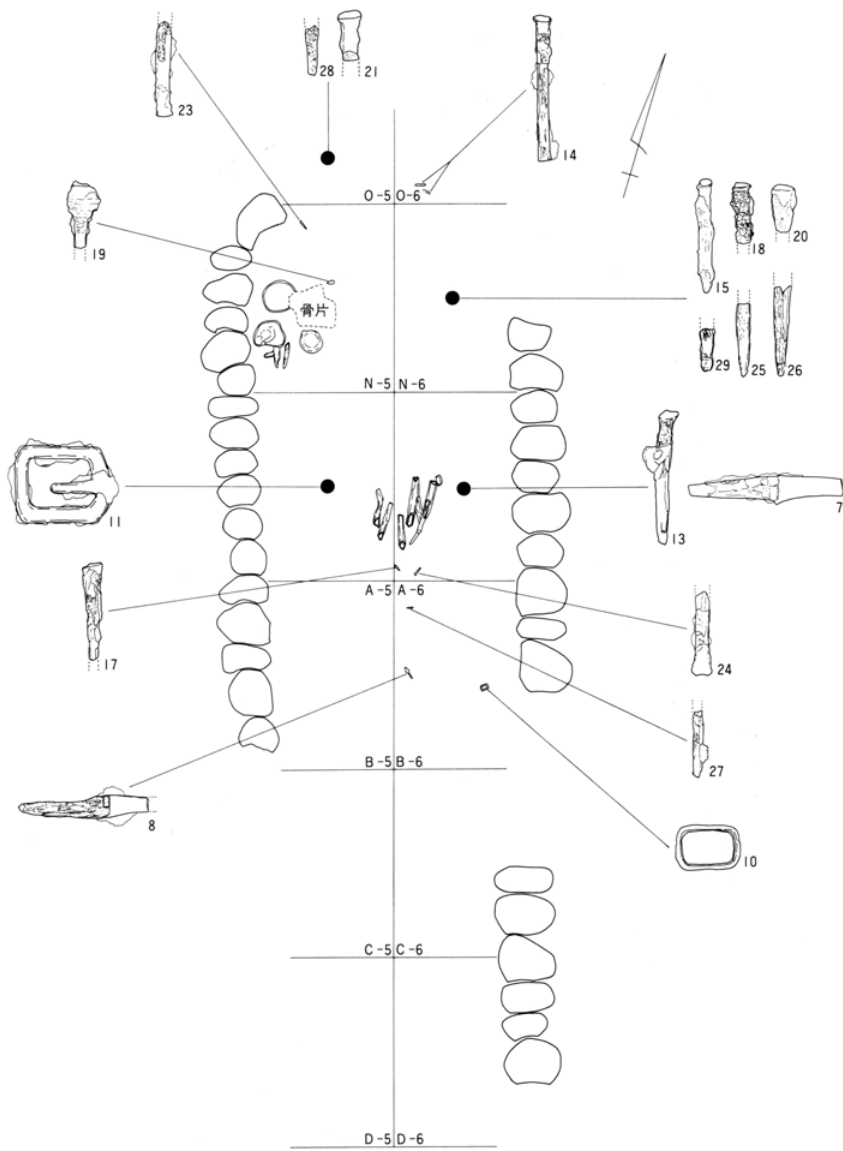
第8図 開拓1号墳横穴式石室



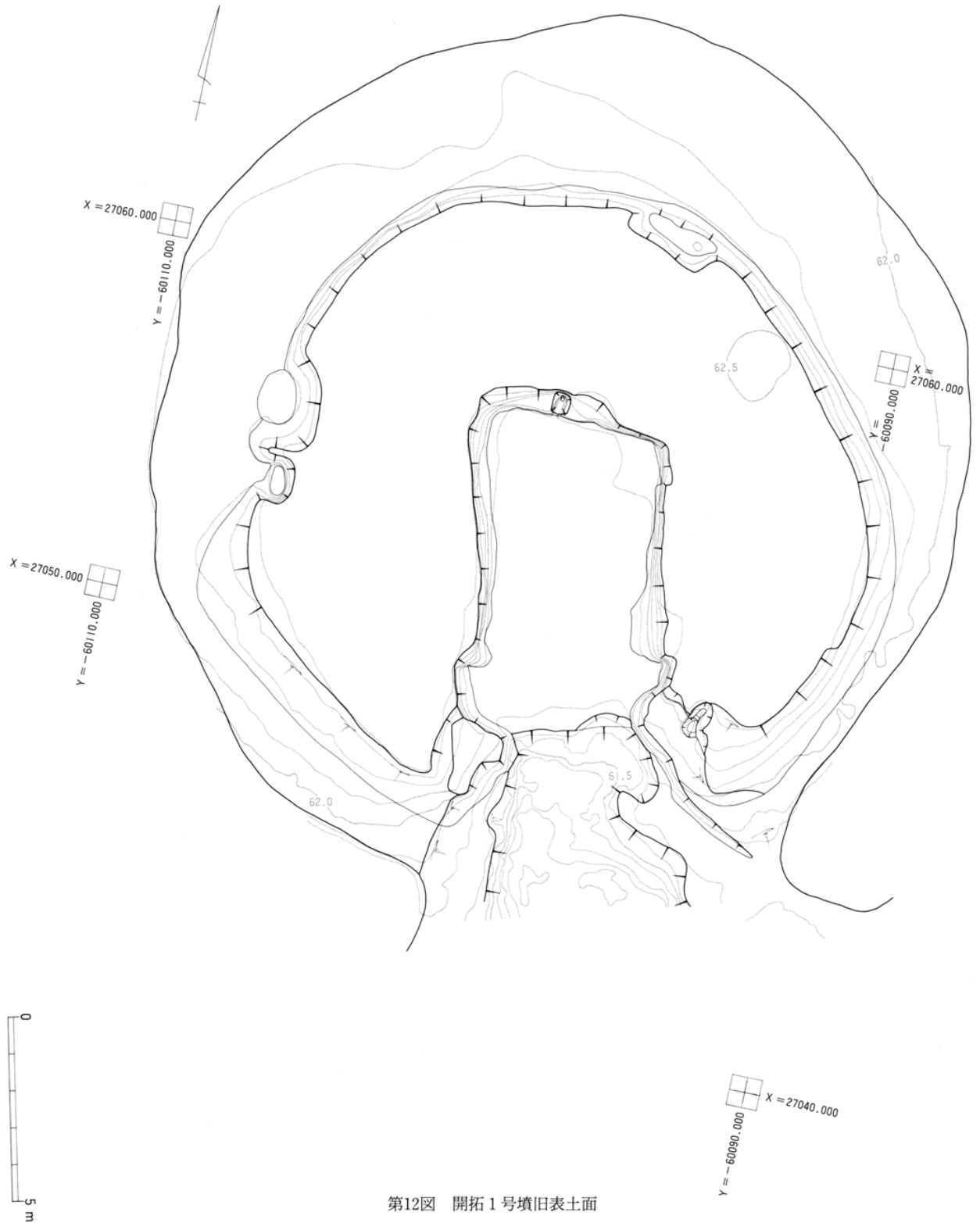
第9図 開拓1号墳横穴式石室棺床面下



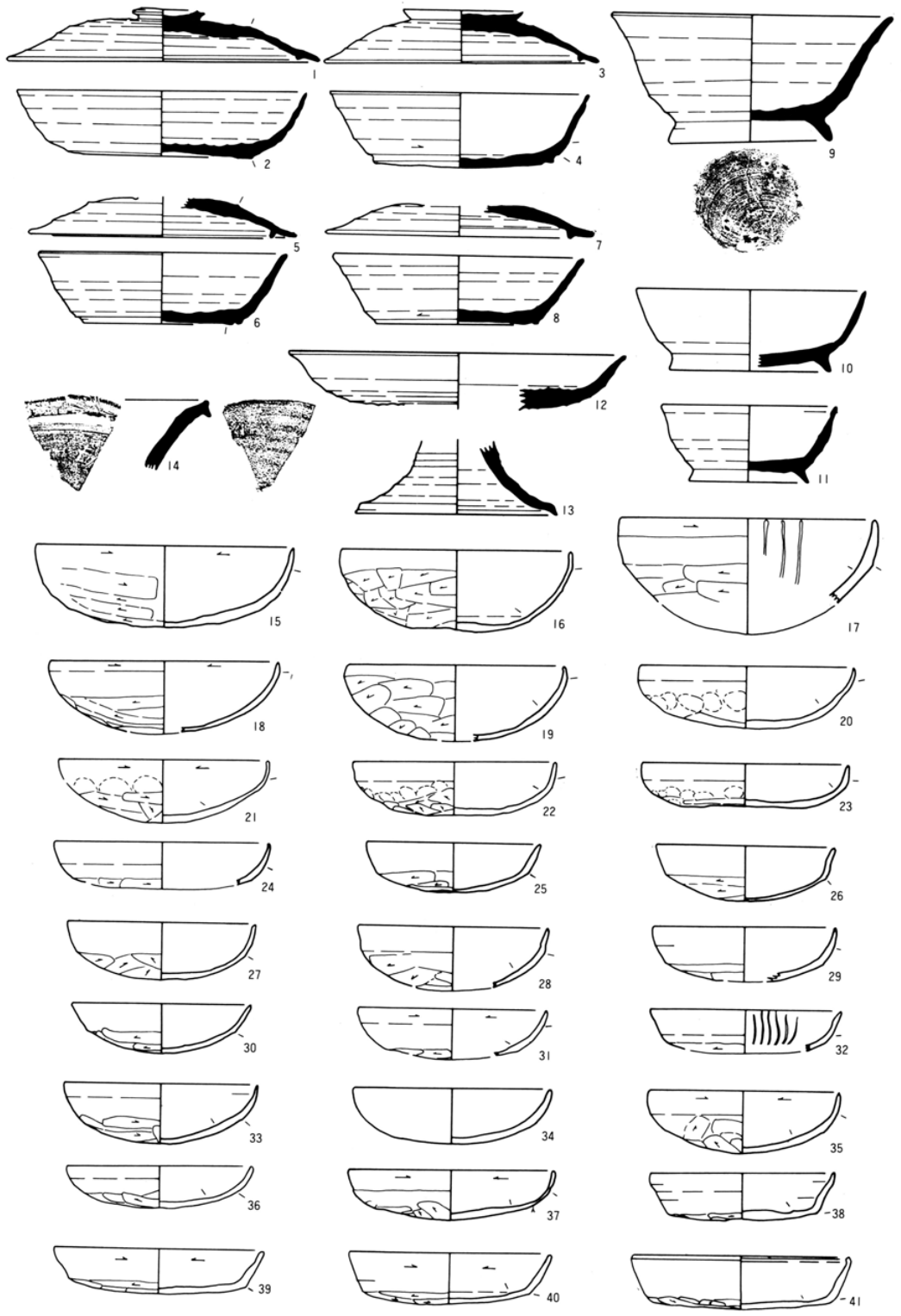
第10図 開拓1号墳横穴式石室掘方



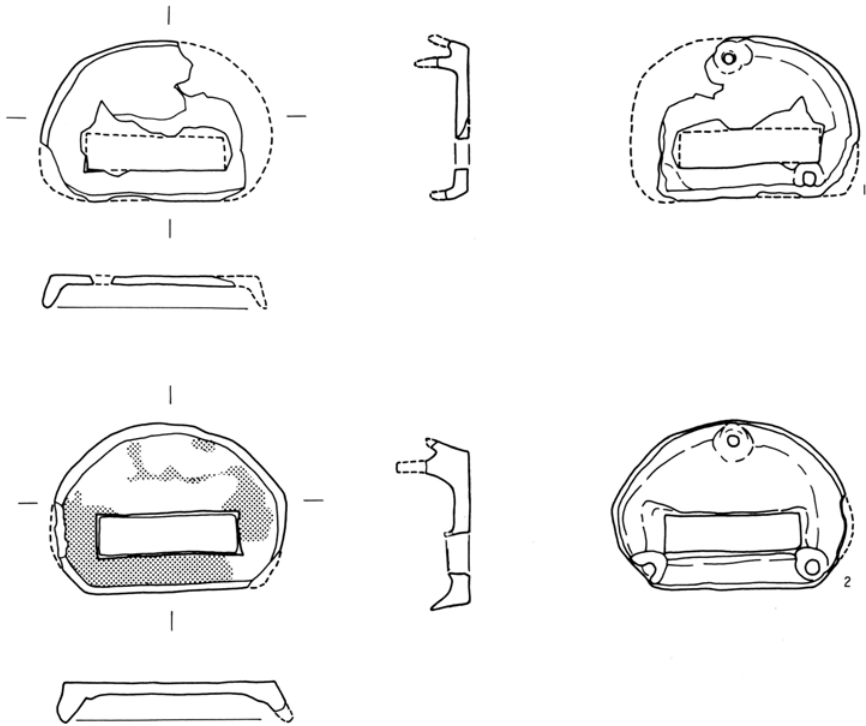
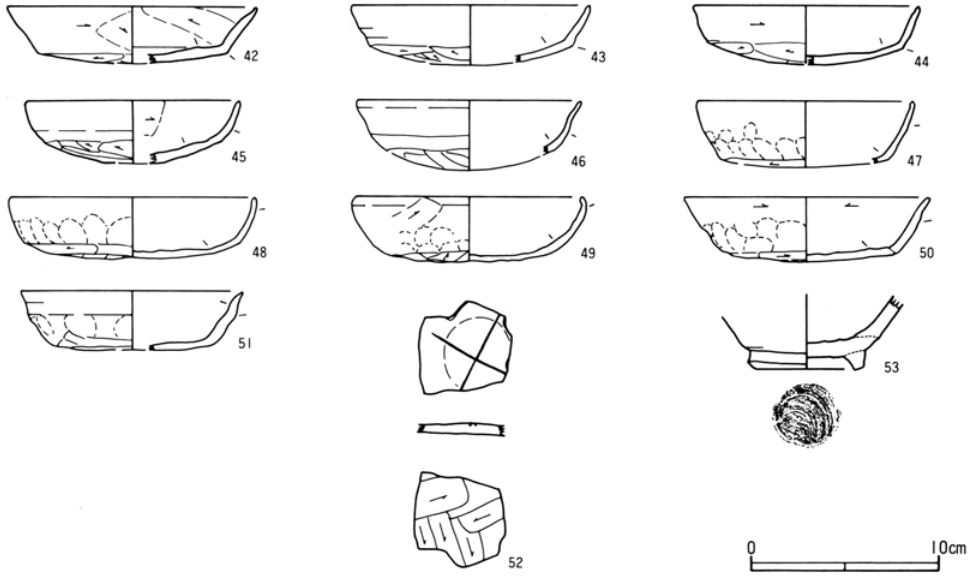
第11図 開拓1号墳横穴式石室遺物出土状況図




第12図 開拓1号墳旧表土面



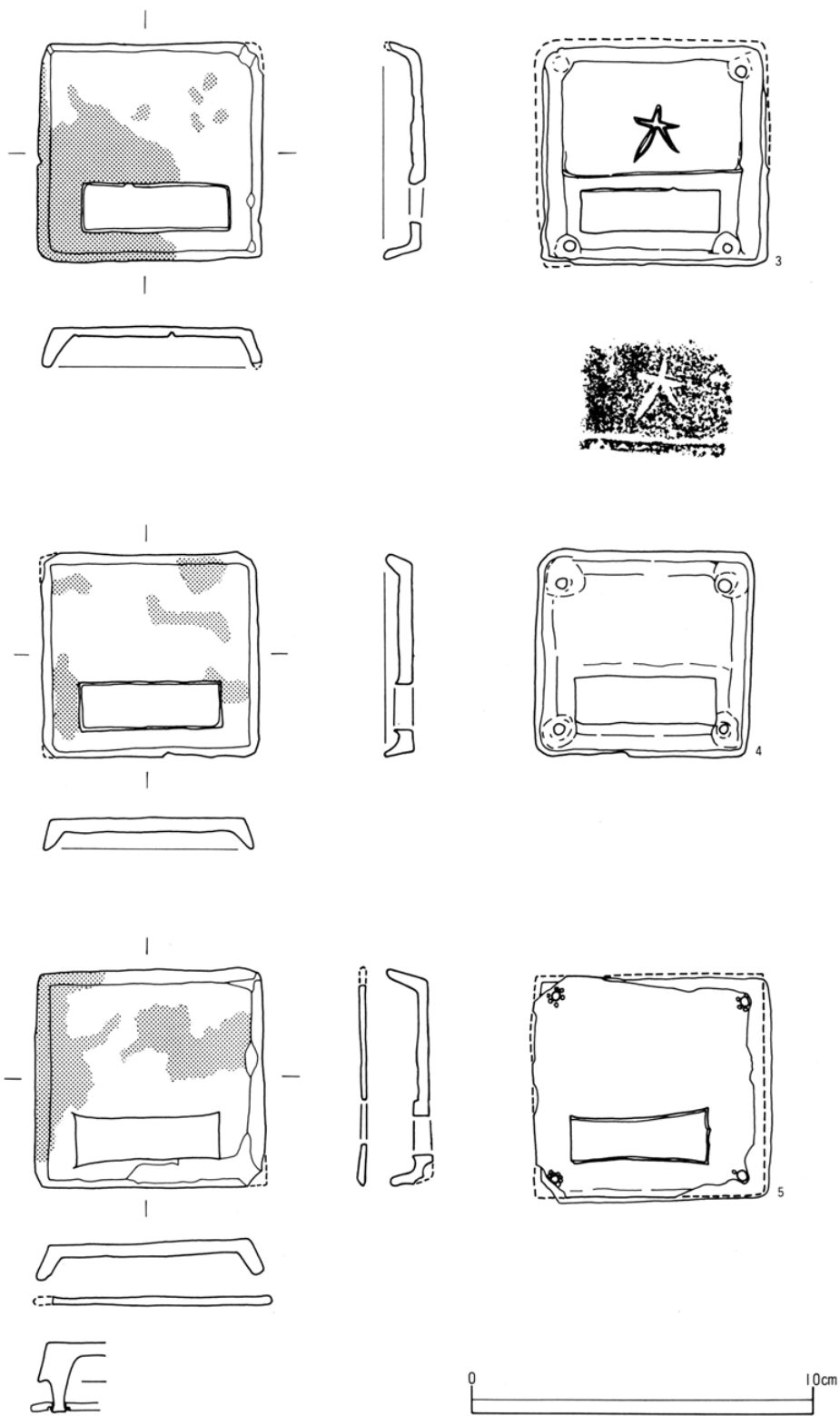
第13図 開拓1号墳出土遺物(1)



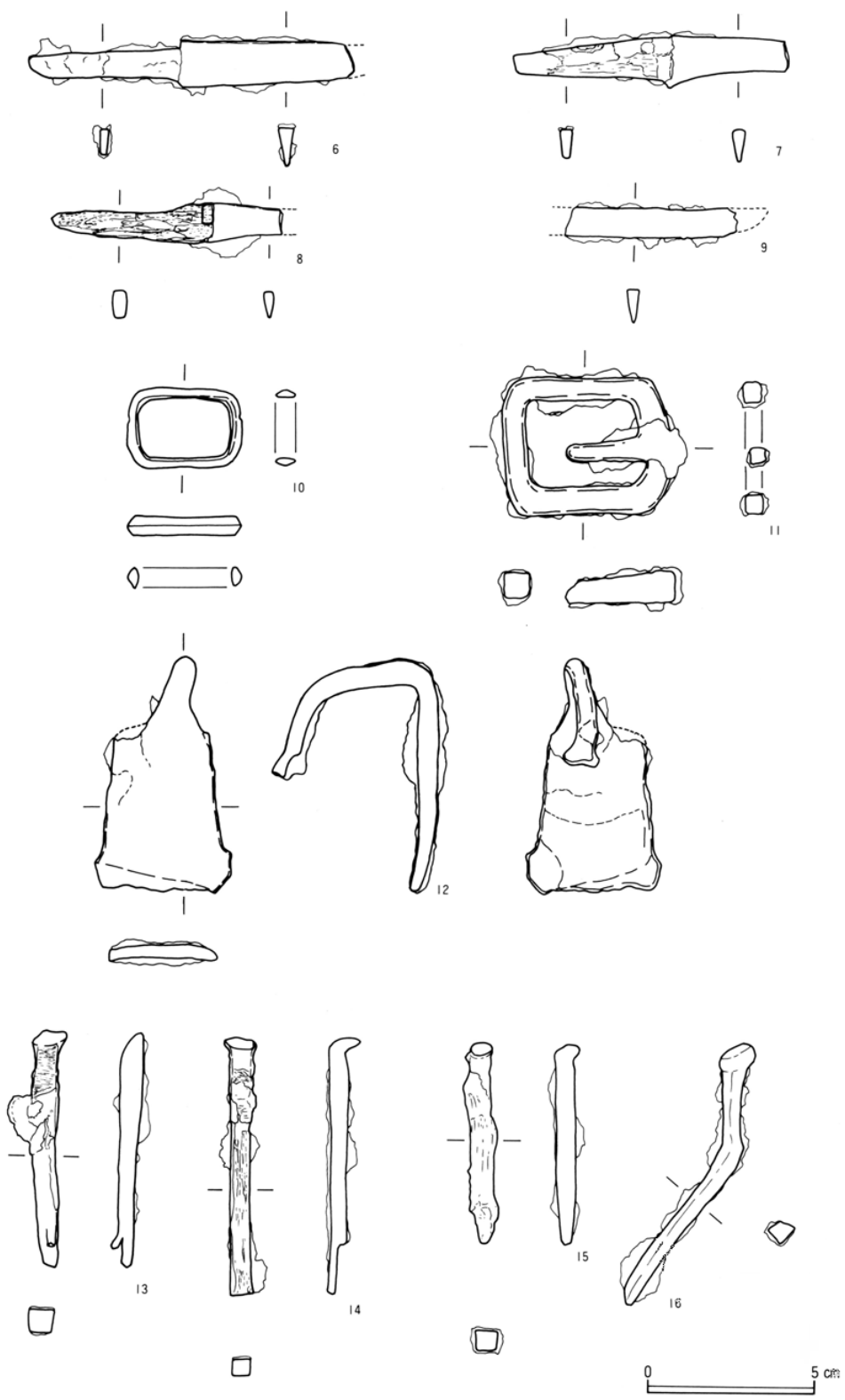

 黒色物質付着範囲

0 10cm

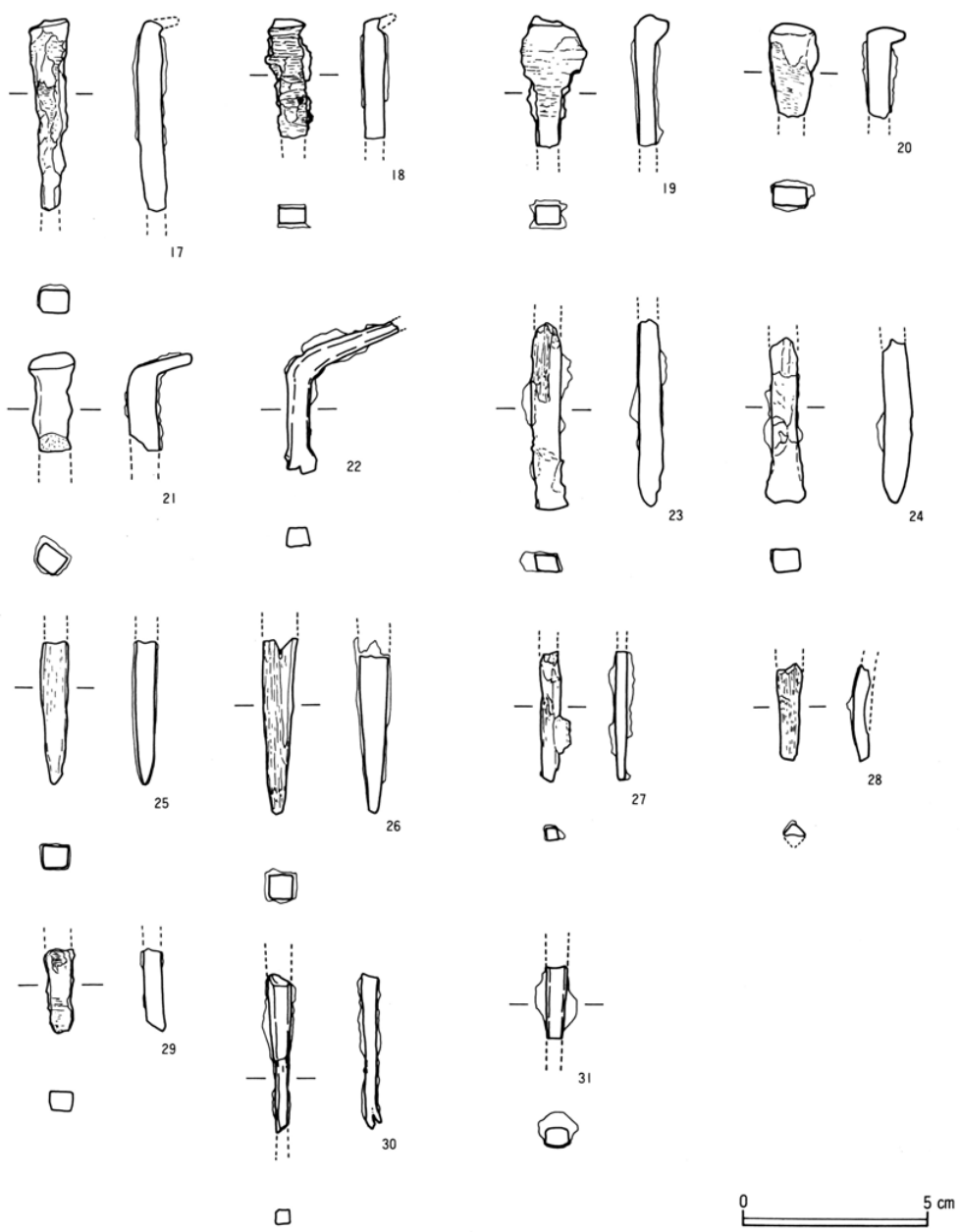
第14図 開拓1号墳出土遺物(2)



第15図 開拓1号墳出土遺物(3)



第16図 開拓1号墳出土遺物(4)



第17図 開拓1号墳出土遺物(5)

開拓1号墳出土遺物観察表(第13図～第17図)

番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	備 考
1	須恵器 坏 蓋	口径 19.4 器高 3.2 かえり径16.2 つまみ径 4.4	胎・白色粒子、砂粒多い、径5mm大礫含む 成・ロクロ成形、つまみ貼付、かえりは押し 整・内外面ロクロナデ、頂部外面回転ヘラケズリ、つまみ部ナデ 焼・普 残・ほぼ完形	暗青灰白色	
2	須恵器 坏	口径 18.4 器高 4.0 底径 11.0	胎・白色粒子、砂粒多い、径5mm大礫含む 成・ロクロ成形 整・内外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラケズリ 焼・普 残・口縁部1/4欠	暗灰白色	
3	須恵器 坏 蓋	口径 17.0 器高 3.2 かえり径14.5 つまみ径 7.4	胎・酸化鉄粒、微砂多い、緻密 成・ロクロ成形、つまみ貼付 整・内外面ロクロナデ、つまみ部ナデ 焼・普(やや軟質) 残・ほぼ完形	淡灰白色	
4	須恵器 坏	口径 15.8 器高 4.6 底径 11.1	胎・酸化鉄粒、微砂多い、径5mm大礫含む、緻密 成・ロクロ成形、高台部つまみ出し、整・内外面ロクロナデ、底部外面及び体部ヘラケズリ 焼・普(やや軟質) 残・口縁部1/3	淡灰白色	
5	須恵器 坏 蓋	口径 16.5 かえり径13.6	胎・白色粒子、黒色粒子、酸化鉄粒、砂粒多い 成・ロクロ成形、かえり貼付 整・内外面ロクロナデ、頂部外面回転ヘラケズリ 焼・普 残・図示1/3	灰白色	7と類似
6	須恵器 坏	口径 15.2 器高 4.3 底径 10.0	胎・白色粒子、黒色粒子、砂粒含む 成・ロクロ成形、高台部つまみ出し 整・内外面ロクロナデ、高台部ナデ、外面回転ヘラケズリ 焼・普 残・3/5	灰白色	8と類似
7	須恵器 坏 蓋	口径 16.5 かえり径13.5	胎・酸化鉄粒、砂粒多い 成・ロクロ成形 整・内外面ロクロナデ、頂部外面回転ヘラケズリ 焼・良好(外面一部自然釉) 残・図示2/3	淡灰白色	
8	須恵器 坏	口径 15.4 器高 4.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、砂粒多い 成・ロクロ成形、高台部つまみ出し 整・内外面ロクロナデ、高台部ナデ、底部外面回転ヘラケズリ 焼・良好 残・口縁部1/5欠	灰白色	
9	須恵器 高台塊	口径 17.3 器高 7.8 高台径 10.1	胎・白色粒子、黒色粒子、砂粒含む 成・ロクロ成形、底部静止糸切り、高台部貼付 整・内外面ロクロナデ、高台部ナデ 焼・良好 残・口縁部1/4欠	灰白色～暗灰白色	7、8と類似
10	須恵器 高台坏	口径 14.1 器高 5.0 高台径 10.0	胎・白色粒子、黒色粒子、微砂多い 成・ロクロ成形、高台部貼付 整・内外面ロクロナデ、高台部ナデ、底部外面ヘラケズリ 焼・悪 残・底部1/2、口縁部1/6	灰白色	
11	須恵器 高台坏	口径 10.7 器高 4.8	胎・白色粒子、黒色粒子、石英、砂粒多い 成・ロクロ成形、高台部貼付 整・内外面ロクロナデ、高台部ナデ、底部外面回転ヘラケズリ 焼・悪 残・口縁部1/2欠	灰白色	
12	須恵器 高 坏	口径 20.8	胎・白色粒子、黒色粒子、酸化鉄粒、砂粒多い、小石含む 成・ロクロ成形 整・ロクロナデ 焼・普 残・ほぼ完形	灰白色	13と同一
13	須恵器 高 坏	底径 12.5	胎・白色粒子、黒色粒子、石英、砂粒多い 成・ロクロ成形 整・ロクロナデ 焼・良好 残・図示1/8	明灰白色	12と同一
14	須恵器 大 甕		胎・白色粒子、石英、砂粒多い 整・内外面ヨコナデのちナデ 焼・普	暗青灰白色	
15	土師器 坏	口径 15.8 器高 5.0	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・3/5	橙褐色	
16	土師器 坏	口径 14.2 器高 5.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英含む、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・良好(外面体部黒斑有り) 残・ほぼ完形	橙褐色	
17	土師器 坏	口径 15.7 器高 7.1	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒含む 成・全体に厚手 整・外面体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ、口縁部内面棒状暗文 焼・普 残・図示1/6	橙褐色	
18	土師器 坏	口径 14.2 器高 4.5	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(外面体部黒斑有り) 残・1/4欠	淡橙褐色	

番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	備 考
19	土師器 坏	口径 13.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	淡赤褐色	
20	土師器 坏	口径 13.2 器高 3.9	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英含む、砂粒多い 整・外面体部指オサエ後ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・3/4	橙褐色	
21	土師器 坏	口径 12.8 器高 3.9	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(口縁部外面一部黒斑有り) 残・2/5	橙褐色	
22	土師器 坏	口径 12.6 器高 3.3	胎・白色粒子、角閃石、石英含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・3/4	淡赤褐色	
23	土師器 坏	口径 12.8 器高 2.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部指オサエ後ヘラケズリ、内面体部指オサエ後ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・3/5	淡橙褐色	
24	土師器 坏	口径 13.4 器高 2.9	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・図示1/3	橙褐色	
25	土師器 坏	口径 10.6 器高 3.1	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 残・ほぼ完形	淡赤褐色	
26	土師器 坏	口径 11.0 器高 3.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・図示3/4	淡赤褐色	
27	土師器 坏	口径 11.6 器高 3.5	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ、全体に風化不明瞭 焼・普 残・ほぼ完形	橙褐色	
28	土師器 坏	口径 11.8 器高 3.9	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	淡赤褐色	
29	土師器 坏	口径 11.2 器高 3.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ、全体に不明瞭 焼・悪 残・1/2	明橙褐色	
30	土師器 坏	口径 11.0 器高 3.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/4	橙褐色	
31	土師器 坏	口径 11.6 器高 3.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/6	暗橙褐色	
32	土師器 坏	口径 11.7 器高 2.7	胎・酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・良好 残・図示1/6	橙褐色	
33	土師器 坏	口径 11.9 器高 3.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・ほぼ完形	橙褐色	
34	土師器 坏	口径 12.2 器高 3.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ、全体に不明瞭 焼・普 残・ほぼ完形	橙褐色	
35	土師器 坏	口径 11.7 器高 3.8	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・3/5	暗橙褐色	
36	土師器 坏	口径 11.4 器高 2.6	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/4	明橙褐色	

番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	備 考
37	土師器 坏	口径 12.6 器高 3.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/4	暗橙褐色	
38	土師器 坏	口径 11.4 器高 2.7	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/4	橙褐色	
39	土師器 坏	口径 12.8 器高 2.8	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・ほぼ完形	橙褐色	
40	土師器 坏	口径 12.4 器高 3.2	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・ほぼ完形	橙褐色	
41	土師器 坏	口径 13.3 器高 3.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・2/5	橙褐色	
42	土師器 坏	口径 13.4 器高 3.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/6	橙褐色	
43	土師器 坏	口径 12.7 器高 3.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/6	暗橙褐色	
44	土師器 坏	口径 11.9 器高 3.1	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/3	橙褐色	
45	土師器 坏	口径 11.3 器高 3.3	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（外面底部に黒斑有り） 残・1/4	橙褐色	
46	土師器 坏	口径 11.9 器高 3.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・3/4	暗橙褐色	
47	土師器 坏	口径 11.5 器高 3.5	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部指オサエ後ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/4	明橙褐色	
48	土師器 坏	口径 13.0 器高 3.2	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部指オサエ後ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/3	橙褐色	
49	土師器 坏	口径 12.2 器高 3.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部指オサエ後ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/3	橙褐色	
50	土師器 坏	口径 13.1 器高 3.4	胎・酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 成・外面接合痕明瞭、全体に粗製 整・外面体部指オサエ後ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（口縁部外面一部黒斑有り） 残・ほぼ完形	暗橙褐色	
51	土師器 坏	口径 11.8 器高 3.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英含む、砂粒多い 整・外面体部指オサエ後ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・図示1/4	暗橙褐色	
52	土師器 坏		胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、内面底部「×」状のヘラ記号 焼・普	明橙褐色	
53	土師器 高台埴	底径 5.8	胎・石英、砂粒含む 成・ロクロ成形、高台貼付 整・内外面ロクロナデ、高台部ナデ、底部静止糸切り 焼・普（内外面黒色処理） 残・底部、胴部一部	暗灰色	

開拓1号墳金属製品遺物観察表 (第18図～第20図)

番号	名称	法量 (cm)	特 徴	備 考
1	丸 軋	最大幅 3.0 最大高 2.3 厚 0.2	全体に6片に破損し損傷・錆化著しい。内面に一部本来の面残す。足金具は3本のうち2本遺存。青銅製。	前庭部出土
2	丸 軋	最大幅 3.0 最大高 2.3 厚 0.2	表外面に黒色物質の付着認められる。足金具は3本存在するも、先端部は欠失。青銅製。	前庭部出土
3	巡 方	最大幅 3.3 最大高 3.15 厚 0.2	表外面および側面に黒色物質の付着認められる。内面縁部の損傷著しい。足金具は4本のうち3本遺存するも先端部欠失。内面中央上寄りに「大」の陰刻。タガネ状の工具によって彫り込まれる。彫り込みの順番は筆順にそって4回に分けて行われている。青銅製。	前庭部出土
4	巡 方	最大幅 3.1 最大高 3.0 厚 0.2	表外面および側面に黒色物質の付着認められる。長方形の孔部内面にはバリ状の突出残る。足金具は4本とも遺存するも先端部欠失。全体に遺存状況は良好。青銅製。	前庭部出土
5	巡 方	最大幅 3.35 最大高 3.1 厚 0.2	表外面および側面に黒色物質の付着認められる。黒色物質の剝離面及び長方形孔部面に擦痕状の研磨痕明瞭に残る。裏金具が遺存しており、4本の足金具により本体と接着。接着方法は裏金具の孔に足金具を通したうえで裏金具をポンチ状の工具でかしめる。本体と裏金具との間隔は3mm。青銅製。	前庭部出土
6	刀 子	最大長 9.7 刃部長 5.2 中茎長 4.5	切先部を欠失するが、他は完存する。全体に錆化著しく、茎部には僅かに木質を残す。	前庭部出土
7	刀 子	最大長 8.2 刃部長 3.5 中茎長 4.7	刃部の1/3を欠失する。茎部には木質がよく遺存する。	石室A6区出土
8	刀 子	最大長 6.9 刃部長 2.1 中茎長 4.8	刃部の2/3を欠失する。茎部には木質がよく遺存する。銚が僅かに遺存する。	石室内出土
9	刀 子	最大長 5.0	切先部および茎部を欠失する。全体に錆化著しい。	石室内出土
10	青銅製金具	最大長 3.45 最大幅 2.4 最大厚 0.35	平面隅丸長方形の青銅製の金具。長辺のほぼ中央が僅かに凹む形状をとる。刀装具と思われる。	石室内出土
11	鉸 具	最大長 5.1 最大幅 4.1 最大厚 1.0	平面隅丸長方形の鉄製鉸具。刺金が付く側はD字形に膨らむ。全体に錆化著しい。	石室内出土
12	不明鉄製品	最大長 6.9 最大幅 4.05	台形板状の金具に「L」字型に折曲げた断面円形の棒状の金具が取り付け形状をとる。棒状の金具の先端は剝離した痕跡があり、他の部品が取付いていたものと思われる。台形金具は棒状金具が取付かない面が他方に対し平滑に仕上げられておりこの面が表面と思われる。裏面は凹状に緩く湾曲する。	前庭部出土
13	鉄 釘	全 長 7.1 最大厚 0.8	完存する。断面方形。先端部は一部めくれあがる。横目の木質が遺存している。	石室A6区出土
14	鉄 釘	全 長 7.7 最大厚 0.6	先端部が一部剝離するが完存。断面方形。木質が付着しているが、上半は横目、下半は縦目。	石室内出土
15	鉄 釘	全 長 6.0 最大厚 0.8	完形。断面方形。全体に錆化著しいが縦目の木質の付着が認められる。	石室N6区出土
16	鉄 釘	全 長 8.2 最大厚 0.6	途中で「く」字に折れ曲がるが完形。断面方形。全体に錆化著しい。	前庭部出土
17	鉄 釘	全 長 5.1 最大厚 1.0	頭部の一部および先端部を欠失する。横目の木質が付着する。	石室内出土
18	鉄 釘	全 長 3.2 最大厚 0.65	頭部の一部および先端部を欠失する。横目の木質が遺存する。	石室N6区出土

番号	名称	法量 (cm)	特 徴	備 考
19	鉄 釘	全 長 3.55 最大厚 0.7	先端部を欠失する。ほぼ全体に横目の木質が遺存する。	石室内出土
20	鉄 釘	全 長 2.5 最大厚 0.95	頭部のみを残す。全体に僅かに横目の木質が遺存する。頭部先端には黒色物質の付着が認められる。	石室N6区出土
21	鉄 釘	全 長 2.65 最大厚 0.7	頭部のみを残す。全体に錆化著しいが、僅かに木質が遺存する。頭部先端に黒色物質の付着認められる。	石室O5区出土
22	鉄 釘	全 長 4.1 最大厚 0.6	頭部を欠失する。先端部の附近で「く」字状に折れ曲がる。全体に錆化著しい。	周溝2区出土
23	鉄 釘	全 長 5.05 最大厚 0.75	頭部を欠失する。全体に錆化著しいが僅かに縦目の木質を残す。	石室内出土
24	鉄 釘	全 長 4.45 最大厚 1.1	頭部を欠失する。先端部は凹状に僅かに凹む。全体に錆化著しい。	石室内出土
25	鉄 釘	全 長 3.85 最大厚 0.75	頭部を欠失する。僅かに縦目の木質遺存する。	石室N6区出土
26	鉄 釘	全 長 4.75 最大厚 0.75	頭部を欠失する。全体に縦目の木質がよく遺存している。	石室N6区出土
27	鉄 釘	全 長 3.45 最大厚 0.35	頭部を欠失する。他例に比し細身。全体に錆化著しい。	石室内出土
28	鉄 釘	全 長 2.65 最大厚 0.6	先端部のみ遺存。やや湾曲気味で、対角線上で半分に剥離する。全体に縦目の木質が遺存している。	石室O5区出土
29	鉄 釘	全 長 2.3 最大厚 6.5	先端部のみ遺存。全体に横目の木質遺存する。	石室N6区出土
30	鉄 釘	全 長 4.35 最大厚 0.6	頭部を欠失する。先端部は二股にめくれあがり、全体に錆化著しい。	周溝2区出土
31	鉄 釘	全 長 1.95 最大厚 0.5	頭部および先端部を欠失する。全体に錆化著しい。	周溝2区出土

4. その他の遺構

(1) 第1号住居址 (第18図、写真図版13)

周溝3区にかかり鬼高期の住居址が一軒検出されが、周溝の外端部にかかりその掘削にともない破壊されていた。北側コーナーは消失していたが東側コーナーは周溝内端部に僅かに残されており、南北4.3m、東西3.8m、確認面からの深さ0.5mを測る。床面には構造材と思われる炭化材が多く検出されており焼失によるものと推定される。竈は北壁のほぼ中央に位置し住居外に長さ1.4m程の煙道が伸びる。竈本体の遺存状況が悪いうえにほぼ右側半分が試掘調査時のテストピットで完全に破壊されていたため、詳細な構造は不明である。竈の火床面から煙道にかけては比較的良好に焼けており、左袖部からは袖甕に使われたと思われる甕2个体分の破片が出土した。また、煙道内から出土した坏破片は住居址内のものと接合した。

柱穴等のピットや貯蔵穴は竈右側に30cm四方の浅い方形ピットが検出された以外は精査したにもかかわらず検出されなかった。遺物は床面上より多量に出土したが、坏類が主体を占める。特に竈周辺からは出土量が多く、重ね合わせた状態で出土している。なお、西側コーナー附近に良質な白色粘土塊がまとまって検出されている。

(2) 墳丘下土器群

墳丘2区の旧表土中より半径1m程の範囲に土師器の集中箇所が検出された。土師器は墳丘によって保護されていた旧表土に包含される状態で存在しており、墳丘構築面から10cmほど下から集中して検出され、ほとんどが破片の状態に散乱していた。土器が一定のまとまりをもって検出されたことから、当初、平地住居等の可能性も考慮し周辺を精査したが明瞭な遺構や床状の硬化面は検出されず、遺構に伴うものではないようである。しかし、土器復原の過程で第1号住居址の土器と接合関係にあることが判明し、土器の型式学的特徴から考えても第1号住居址と同時期のものと推定される。

(3) 溝 (付図1)

溝は調査区内から3条検出されたがいずれも近世以降のものである。

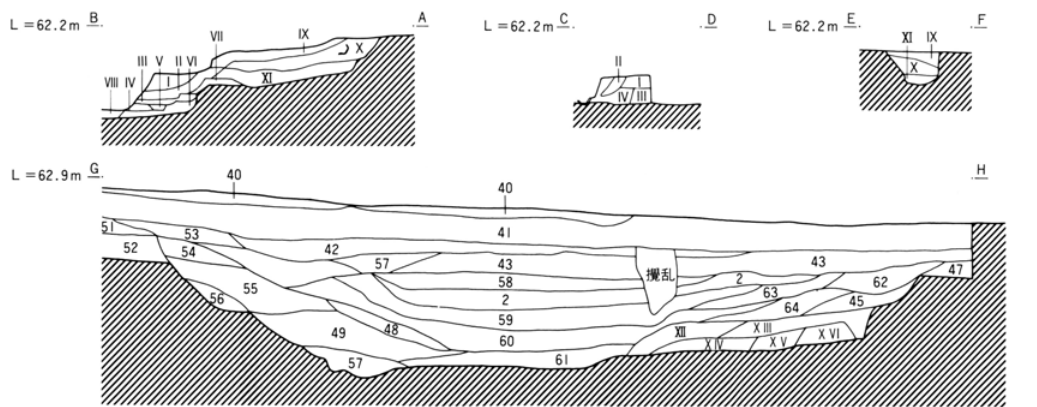
1号溝 1号溝は調査区の東側から延びてくる溝で、北側周溝の周溝内端部をかすめ直角に折れ曲がり北に向かう溝である。覆土にはAs-Aが多量に含まれており、近世以降の所産によるものである。覆土中に砂粒等の堆積は検出されず水流の痕跡は認められないことから、区割り溝と推定される。遺物はほとんど出土しなかったが土人形の足部破片が出土している。

2号溝 1号溝に並行して存在する溝で、覆土の特徴や形状は1号溝に類似することから、同時期のものと推定される。しかし北側で1号溝と並走するほかは周溝内に入り東側に延びる状況は認められなかった。あるいは周溝部分において1号溝と接続するものと推定される。遺物の出土は皆無である。

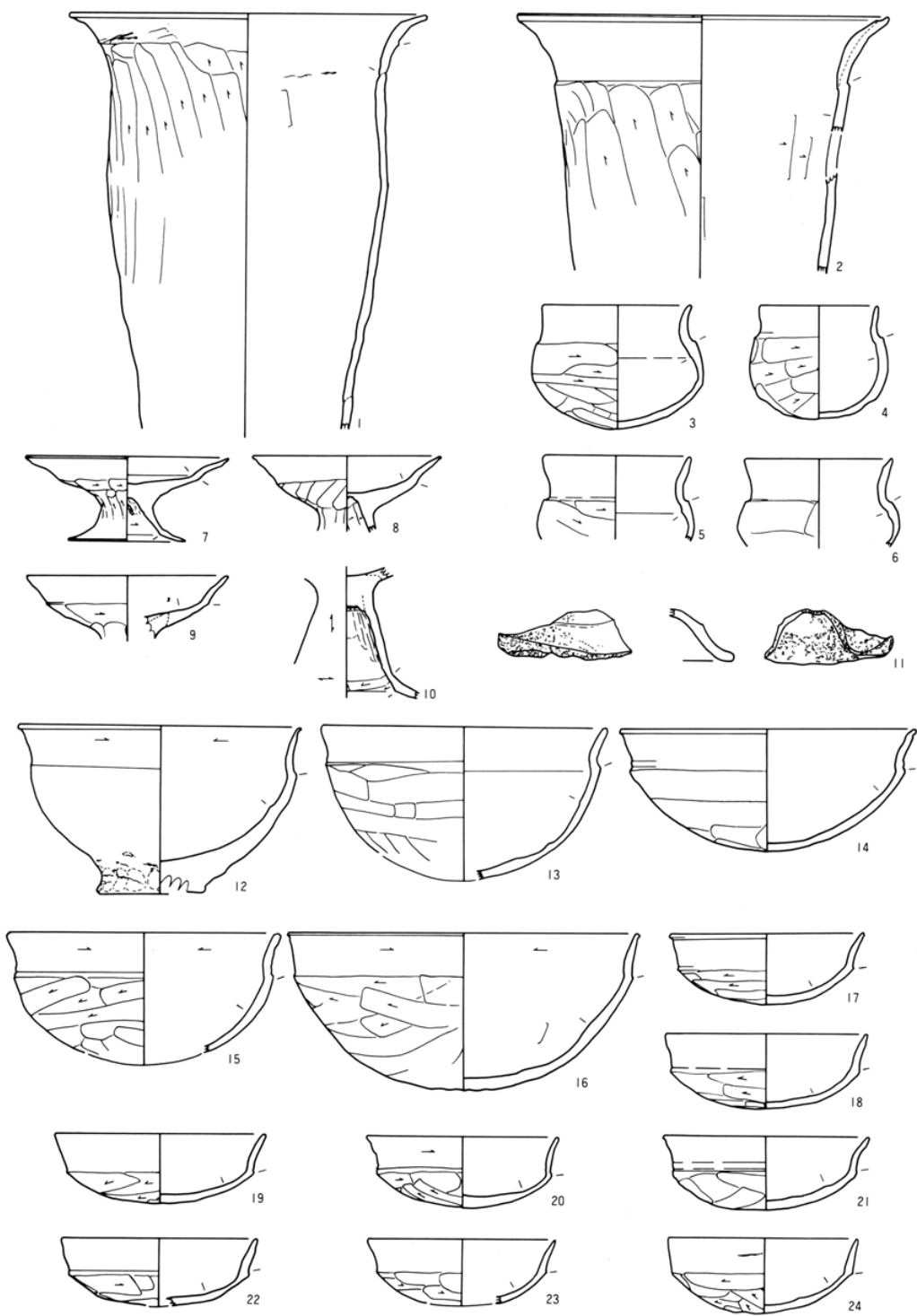
3号溝 調査区の南側に僅かに検出された溝である。1・2号溝と覆土が類似するため、同時期の所産であると推定される。遺物の出土は皆無である。

(4) 土壌 (付図1)

調査区内からは多くの土壌やピットが検出されたが、大半は覆土も軟質で古墳や住居址に伴うものや同時期のものは存在しない。

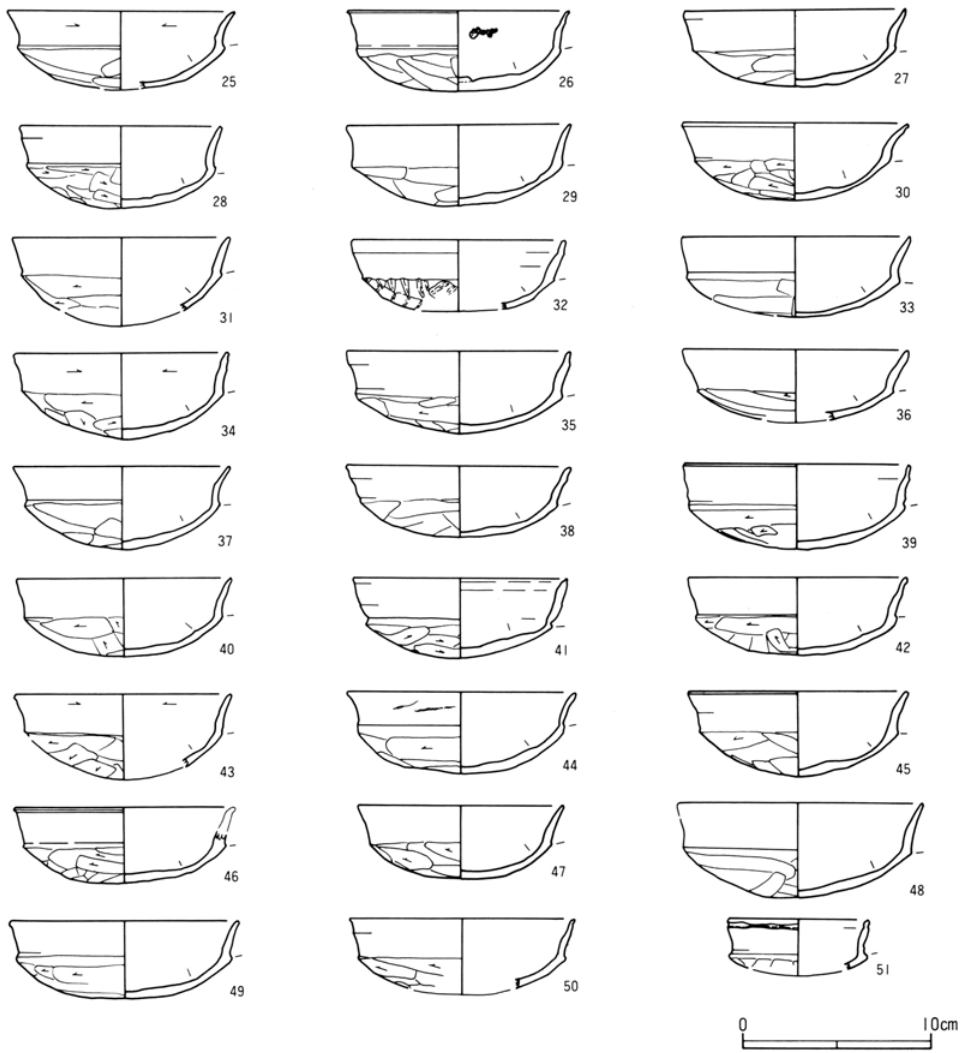


第18図 第1号住居址



第19图 第1号住居址出土遺物(1)

0 10cm



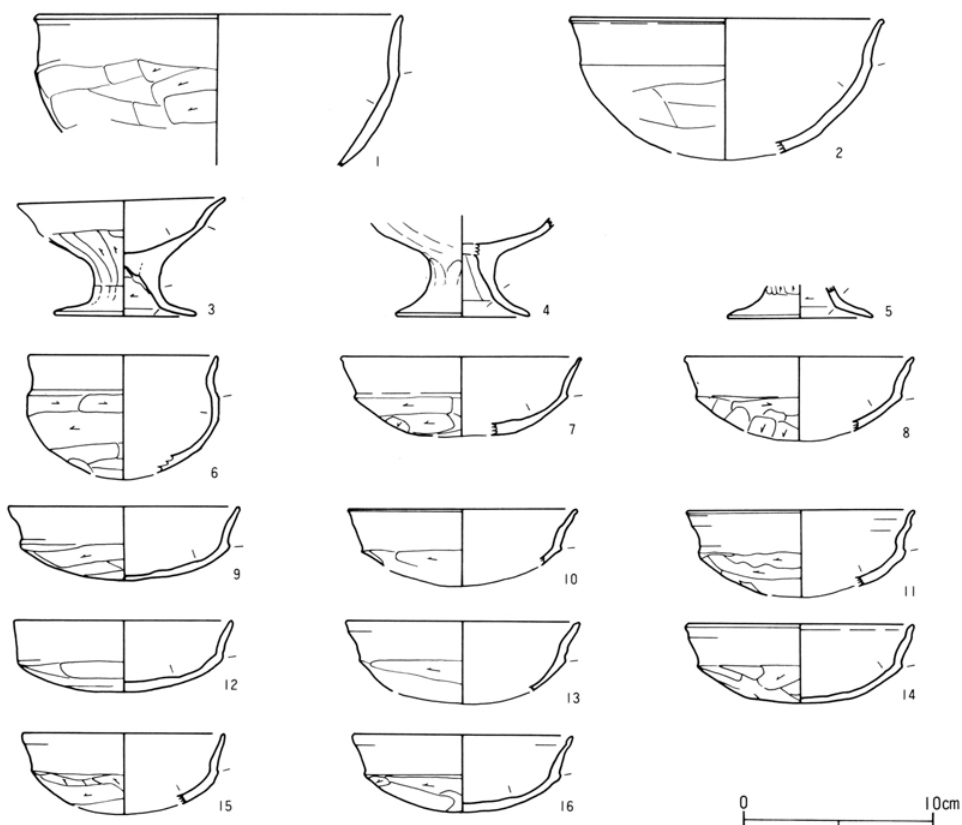
第20図 第1号住居址出土遺物(2)

第1号住居址出土遺物観察表(第19図・第20図)

番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	備 考
1	土師器 甕	口径 21.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒多い 整・外面胴部縦位ヘラケズリ、内面胴部横位ヘラナデ後下位縦位ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・外面胴部下位カマド壁体付着、胴部二次被熱受ける、内面炭化物付着 残・胴部1/4、口縁部1/3	淡橙褐色～赤褐色	
2	土師器 甕	口径 21.9	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面胴部縦位ヘラケズリ、内面胴部横位ヘラナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・破損後に二次被熱受ける 残・図示1/2	暗橙褐色～赤褐色	
3	土師器 短頸壺	口径 8.8 器高 7.4	胎・酸化鉄粒、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 (外面黒斑有り) 残・3/4	淡橙褐色	
4	土師器 短頸壺	口径 6.9 器高 6.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 (内外面黒斑有り) 残・1/3	暗橙褐色	
5	土師器 短頸壺	口径 8.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 (口縁部内外面黒斑有り) 残・図示1/2	明茶褐色	
6	土師器 短頸壺	口径 8.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・やや悪 (口縁部外面黒斑有り) 残・図示1/3	暗橙褐色	
7	土師器 高 坏	口径 12.1 器高 5.0 底径 7.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒含む 整・外面坏底部横位ヘラケズリ、脚部縦位ヘラケズリ、内面坏底部ナデ、脚部横位ヘラケズリ、坏口縁部内外面ヨコナデ、脚底部内外面ヨコナデ 焼・悪 (外面黒斑有り) 残・1/2	暗茶褐色～赤褐色	
8	土師器 高 坏	口径 11.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂多い 整・外面坏底部斜位ヘラケズリ、脚部縦位ヘラケズリ、内面坏底部ナデ、脚部ヘラケズリ、坏口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 残・図示1/2	暗赤褐色	
9	土師器 高 坏	口径 11.8	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂含む 整・外面坏底部横位ヘラケズリ、脚部縦位ヘラケズリ、内面坏底部ナデ、坏口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・図示1/4	淡橙褐色	
10	土師器 高 坏		胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒多い 整・外面坏底部及び脚部縦位ヘラナデ、脚部横位ヘラナデ、内面坏底部ヘラナデ、脚部ヘラケズリ、脚底部ヨコナデ、棒状工具による突上げ 焼・普 (外面黒色処理) 残・図示3/4	黒褐色	
11	土師器 高 坏		胎・白色粒子、酸化鉄粒、砂粒含む 使・全体に発泡する 焼・普 残・1/5	暗灰白色	羽口転用か
12	土師器 鉢	口径 16.7 器高 9.9 底径 6.1	胎・酸化鉄粒、石英、砂粒含む 成・外面底部指オサエ 整・外面胴部ナデ、底部ヘラケズリ、内面底部及び胴部ヘラナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(外面底部、胴部黒斑有り) 残・ほぼ完形	橙褐色	
13	土師器 鉢	口径 16.9 器高 9.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・底部1/2欠	明橙褐色、	
14	土師器 鉢	口径 17.7 器高 7.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ヘラナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	橙褐色	
15	土師器 鉢	口径 16.0 器高 7.8	胎・酸化鉄粒、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	淡橙褐色	
16	土師器 鉢	口径 20.6 器高 9.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ヘラナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 (体部内外面黒斑有り) 残・1/2	淡橙褐色	

番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	備 考
17	土師器 坏	口径 11.4 器高 4.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（体部内外面黒斑有り） 残・ほぼ完形	淡橙褐色	
18	土師器 坏	口径 12.0 器高 4.5	胎・酸化鉄粒、微砂含む 成・体部うず巻状の成形痕 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・4/5	橙褐色	
19	土師器 坏	口径 12.4 器高 4.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（口縁部内外面黒斑有り） 残・3/4	暗橙褐色	
20	土師器 坏	口径 11.2 器高 4.2	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒含む、酸化鉄粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（体部外面黒斑有り） 使・一部破片のみ二次被熱受ける 残・ほぼ完形	橙褐色～明赤褐色	
21	土師器 坏	口径 12.1 器高 4.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂多い 成・外面体部うず巻状の成形痕 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（体部外面黒斑有り） 残・完形	橙褐色	
22	土師器 坏	口径 11.5 器高 4.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	暗黄白色～淡茶褐色	
23	土師器 坏	口径 11.1 器高 3.9	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	明橙褐色	
24	土師器 坏	口径 11.1 器高 4.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・やや悪（体部外面黒斑有り） 残・2/3	赤褐色	
25	土師器 坏	口径 12.1 器高 4.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（体部外面及び口縁部内外面黒斑有り） 残・2/5	淡灰白色	
26	土師器 坏	口径 11.7 器高 4.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、微砂、小石若干含む 成・内面粘土粒付着 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	淡橙褐色	
27	土師器 坏	口径 11.7 器高 4.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（内外面黒斑有り） 使・内面底面に条痕状の搔痕有り 残・ほぼ完形	淡橙褐色	
28	土師器 坏	口径 10.6 器高 4.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普（内外面底部黒斑有り） 残・3/4	淡橙褐色	
29	土師器 坏	口径 11.9 器高 4.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・悪 使・全体に磨滅著しい 残・ほぼ完形	淡灰白色	
30	土師器 坏	口径 11.9 器高 4.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・二次被熱受ける 接・煙道覆土と接合 残・ほぼ完形	明橙褐色～黒褐色	
31	土師器 坏	口径 11.5 器高 4.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	淡茶褐色	
32	土師器 坏	口径 11.3 器高 3.8	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ（ノッキング痕有り）、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	淡茶褐色	
33	土師器 坏	口径 12.2 器高 4.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英含む、緻密 成・外面体部うず巻状の成形痕 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・内外面にカマド壁体付着、二次被熱受ける 残・4/5	淡橙褐色	

番号	器種	法量 (cm)		特 徴	色 調	備 考
34	土師器 坏	口径 器高	11.3 4.6	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、砂粒多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・内面斑点状の剝離 残・ほぼ完形	淡橙褐色、 内面体部黒 褐色	
35	土師器 坏	口径 器高	11.9 4.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ(ノッキング痕有り)、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(体部外面黒斑有り) 残・ほぼ完形	明橙褐色	
36	土師器 坏	口径 器高	12.0 3.8	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂含む、緻密 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・内面黒色変化 残・1/2	淡茶褐色	
37	土師器 坏	口径 器高	11.7 4.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(体部外面黒斑有り) 残・1/2	橙褐色	
38	土師器 坏	口径 器高	11.9 3.8	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・ほぼ完形	淡赤褐色	
39	土師器 坏	口径 器高	12.0 4.5	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ(ノッキング痕有り)、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(内外面黒斑有り) 残・図示1/5	淡茶褐色	
40	土師器 坏	口径 器高	11.5 4.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(体部外面黒斑有り) 残・1/2	赤褐色～明 茶褐色	
41	土師器 坏	口径 器高	11.3 4.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(黒色処理) 残・ほぼ完形	黒褐色～ 灰白色	
42	土師器 坏	口径 器高	11.7 4.2	胎・酸化鉄粒、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ(ノッキング痕有り)、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(内外面黒斑有り) 残・3/5	暗橙褐色	
43	土師器 坏	口径 器高	11.4 4.5	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(内外面黒斑有り) 残・1/2	暗灰褐色～ 淡橙褐色	
44	土師器 坏	口径 器高	12.2 4.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒多い、角閃石、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(口縁部内外面黒斑有り) 残・完形	明橙褐色	
45	土師器 坏	口径 器高	11.8 4.5	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・二次被熱受ける 残・2/3	橙褐色	
46	土師器 坏	口径 器高	11.8 4.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(内外面黒斑有り) 残・2/3	暗灰褐色～ 橙褐色	
47	土師器 坏	口径 器高	10.9 3.9	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒多い 成・外面体部うず巻状の成形痕 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・完形	明橙褐色	
48	土師器 坏	口径 器高	13.0 5.1	胎・白色粒子、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・4/5	明橙褐色	
49	土師器 坏	口径 器高	12.1 4.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・内外面斑点状に剝離 残・1/2	淡橙褐色～ 暗灰褐色	
50	土師器 坏	口径 器高 口径	12.0 3.7 7.4	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、小石含む、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・2/3	明茶褐色	
51	土師器 坏	器高	3.0	胎・酸化鉄粒、石英、微砂含む 整・外面体部ヘラケズリ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・口縁部1/3	明橙褐色	



第21図 旧表土中出土遺物

旧表土中出土遺物（第21図）

番号	器種	法量 (cm)	特 徴	色 調	備 考
1	土師器鉢	口径 19.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部横位ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(外面体部黒斑有り) 残・図示2/3	明橙褐色	
2	土師器鉢	口径 16.6 器高 7.5	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(内外面黒斑有り) 残・図示1/3	淡橙褐色	
3	土師器高 坏	口径 10.9 器高 6.1 底径 7.6	胎・白色粒子、酸化鉄粒、砂粒含む 整・外面坏部及び脚部ヘラケズリ、内面坏底部ナデ、内面脚部横位ヘラケズリ、坏口縁部及び脚底部内外面ヨコナデ 焼・普 残・2/3	明橙褐色	
4	土師器高 坏	底径 7.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、石英、微砂含む 整・外面脚部及び坏底部ヘラケズリ、内面脚部ヘラケズリ、坏底部ナデ、脚底部内外面ヨコナデ 焼・やや悪 接・第1号住居址と接合 残・図示3/4	暗橙褐色	
5	土師器高 坏	脚部底径 7.6	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂含む 整・外面脚部ヘラケズリ、内面脚部ヘラケズリのちナデ、脚底部内外面ヨコナデ 焼・普 残・図示1/4	明橙褐色	
6	土師器短頸壺	口径 10.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂多い 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/4	淡赤褐色	
7	土師器 坏	口径 12.6 器高 4.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普(外面黒斑有り) 残・1/4	淡橙褐色	
8	土師器 坏	口径 12.0 器高 4.5	胎・酸化鉄粒、角閃石、砂粒含む 整・外面体部ヘラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/4	暗橙褐色	

番号	器種	法量 (cm)		特 徴	色 調	備 考
9	土師器 坏	口径	12.2	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒多い 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・4/5	明橙褐色	
10	土師器 坏	口径	12.1	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、砂粒含む 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 使・二次被熱受ける 残・図示4/5	橙褐色	
11	土師器 坏	口径	12.0	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、砂粒含む 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・3/4	橙褐色	
12	土師器 坏	口径	11.5	胎・白色粒子、角閃石、微砂含む、酸化鉄粒多い 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・ほぼ完形	明橙褐色	
13	土師器 坏	口径	12.3	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂多い 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・図示1/4	明橙褐色	
14	土師器 坏	口径	11.8	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、微砂含む 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・1/2	暗橙褐色～ 淡灰褐色	
15	土師器 坏	口径	10.7	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂多い 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・4/5	暗橙褐色～ 淡灰褐色	
16	土師器 坏	口径	11.5	胎・白色粒子、酸化鉄粒、角閃石、石英、微砂含む 整・外面体部へラケズリ、内面体部ナデ、口縁部内外面ヨコナデ 焼・普 残・2/5	暗橙褐色	

V ま と め

1. 開拓古墳をめぐる問題

以上のように、開拓1号墳の発掘調査では当初の予想を上回る多くの成果をあげることができた。本来であれば本稿で十分な検討を加えなければならないが、遺跡調査会という極めて不安定な組織下ではそれもままならない。調査段階においても、発掘調査情報のデジタル化や遺跡のコンピュータグラフィックスなどの新しい取り組みもあり多くの報告しなければならない内容が存在するが、ここでは、調査によって明らかにされた事実をまとめ、調査中や整理作業中に気づいた問題点について列記し報告者としての最低限の責務を果たしたい。

開拓1号墳の特徴 開拓1号墳は調査の結果によれば周溝内径22.7m、同外径34mの円墳である。主体部はかなり損傷が著しいものの、榛名山二ツ岳噴出の浮石質角閃石安山岩による極緩やかな胴張型横穴式石室で、主軸をN-17°-Wにもち、石室全長5.1m、玄室長3.4m、同最大幅1.4、羨道長1.7m、同幅0.9mを測る。石室の床面は人頭大の角閃石安山岩をそのまま敷き詰めており、その上に径2cm程度の礫を敷き詰めていたものと思われる。角閃石安山岩による横穴式石室の場合根石となる部分を除けば、石室用材を壁面側及び他の石材と接する5～7面（一般的に5面取りと表現される）を削り上下左右の石材との密着を図るが（註1）、開拓1号墳においては、左右面は接する側の1面のみ、すなわち石室構築過程において先に設置された用材の側面は自然面をそのまま残し、後から設置する側の側面を加工して密着させる方法をとる。上下面及び壁面については加工しない場合がほとんどであり、極めて簡略化された構築方法といわざるを得ない。これは、床面に敷き詰められた石材においても同様である。しかし、このことからおおよその構築工程をうかがい知ることができる。根石部においては先の用材加工の方法から考えると、失われている部材が多いものの、左右壁とも羨道部方向から玄室奥壁方向に向かって順番に据え置かれているものと思われる。左右の壁との最終的な接点は奥壁部がほとんど失われていることから不明確であるものの、唯一残っていた奥壁右側コーナー部の石材が右壁側の加工の方向とは逆の面が削られていることから、あるいはこの部分が接点となっていたものと思われる。壁体は最高で3段遺存していたのみであったが、遺存していた箇所でも限りでも根石と同じ方向で積み上げられていることが確認されている。石室は不正長方形の掘方上に構築されるが、周辺で認められる角閃石安山岩積の横穴式石室が棺床面をほぼ旧表土と同レベルにおくのに対し、旧表土より66cm程下がった位置におかれており、かつて、塚本山古墳群の調査において、半地下式構造の石室を終末期の形態として位置付けられたものと同様に理解されるものと思われる（註2）。児玉郡内においても、近年同種の石室構造をもつものが報告されておりいずれも終末期に位置づけられるものである（註3）。また、砂礫や垂円礫等による裏込めも存在せず、壁体に直接版築による盛土が接している構造を取っており、最終末の石室の構築方法として理解できるものであろう。石室は墳丘のほぼ中心に奥壁の中央をおいている。石室掘方北側のほぼ中央にピットが1基確認されている。このピットと墳丘の中心とは一致しないが、掘り方と共に埋戻されていることから、設計区割りに何等かの関

連があるものと推定される。石室の遺存状態に比し、前庭部の構造は比較的好く遺存しており、葺石状に主に亜円礫を石垣状に積上げ、平面形は2段に開く構造をとる。この石垣の構造は周辺地域における葺石の積載技法と同様で、亜円礫を小口積にし裏側を低く表側を高く積上げる方法をとっている。前庭部については括れ部を境に2つに分離できるが、先端部については後の修復ないしは付設の可能性が高く、後に触れる銜帯金具の埋葬段階にあたる可能性が示唆できる。前庭部前面の亜円形土壇もその際に掘削されたものと思われる。周溝は石室開口部にブリッジをもつ他は全周するがその深さは一定ではない。概ね西側から北側にかけてが深く、東側から南側にかけてが浅くなる傾向にある。これは、基盤層であるハードローム層と礫層に関係するようで、東側から南側の周溝の浅い部分はローム層の堆積が薄く礫層がすぐに露出してしまうことから、掘削の困難な礫層を避けた結果生じたものと思われる。周溝の掘削土が墳丘盛土に全て使用されたとするならば、少なくとも調査することができた墳丘について見る限りでは、ほとんど砂礫の混入は認められず、ローム土と黒色土およびこれらの混合土による盛土であり、このことを裏付けるものと思われる。

銜帯金具について 開拓1号墳の出土遺物のうち特筆すべきものとして銜帯金具の存在があげられる。巡方3点、丸柄2点が出土したが、鉸具・鉸尾は確認されていない。丸柄については2点とも同型同大であるが、巡方については大きさにややばらつきがある。これらが腰帯を構成していた全てであったか否かは検討を要するが、裏金具が脱落したものがほとんどであり、鉸具・鉸尾を欠失することや、出土した状況などから石室内に副葬されたものが2次的に移動したものと推定されることから、本来の構成を失っているものと考えたい。銜帯金具は全て青銅製で、表面に黒色物質の付着が認められている。この黒色物質は銜帯金具表面をヤスリ状の工具で丁寧研磨した後に塗られており、科学的分析を経ていないので詳細は不明であるが、他遺跡例で指摘されているように黒色漆の可能性が極めて高い。出土した5点の銜帯金具のうち巡方の1点には裏金具が残された状態で出土した。裏金具は本体と同質の青銅板で、巡方に合わせて垂孔が開けられている。垂孔はタガネ状の工具で開けられたものと推定され、やや不整な長方形である。裏金具は巡方本体の4本の足金具に固定されており、固定された箇所を先端が1mm程度のポンチ状工具でかきしめて固定されている。裏金具と表金具との間隙は約3.5mm程であり、この厚みが帯本体の厚みを反映しているものと推定される。ところで、埼玉県内における銜帯金具の出土例は、40例程をかぞえるが、集落址よりの出土が主体で、一遺跡からの出土量も単発的な出土状態を呈する。墳墓からの出土は川越市岸町横穴墓出土例があるものの、古墳より出土した例は始めてであり、1箇所からの出土点数も最も多い。銜帯金具が養老令衣服令に規定される腰帯に比定されることに対しては異論がないと思われるが、墳墓より出土することは官位の表象として貸与されるはずの腰帯の帰属が個人にあったと考えるのか、貸与される腰帯とは別にオーダーメイドとして所有していたものかは不明確である。この点については既に指摘されているところでもあり、墳墓から出土するということは少なくとも副葬されるものについてはその帰属を個人に求めるのが妥当であろう。ただし、墳墓出土例に関しては副葬品であるという点も十分考慮する必要があり、これらが身分表象として実用されたものか、副葬用に用意されたものなのかはなお十分な議論がなされなければならない。さて、5点出土した銜帯金具のうち、巡方の1点の内面より「大」の陰刻が認められた。文字の特徴について改めて記しておく。文字は巡方の裏面の垂孔部の上部に金

具に対して正位置で陰刻されている。陰刻はタガネ状の工具によって彫込みの深さ約1mmと明瞭に行われおり、顕微鏡観察によれば筆順にそって4回に分けて陰刻されている。文字は全体に右下がりであり、逆字に見えなくもない。鍔帯金具における文字等の存在は全国において数例が報告されている。奈良県平城京右京八条一坊十一坪SD920からは鉞尾の裏金具の表面に「大井」の文字が線刻され、奈良県東大寺正倉院御物中には鉞具の裏金の表面に「東大寺」「上」と線刻された例がある。また、東京都府中市武蔵国府例では住居址より出土した石帯に文字か記号か検討を要するが「十」の墨書が認められている(註4)。また、北海道余市町大川遺跡、群馬県松井田町愛宕山遺跡、熊本県松橋町寺尾遺跡ではそれぞれ点状の刻印が認められる例が知られている。しかし、文字の認められた例は腰帯として仕上げた場合においても文字を確認できる場所にあり、その意図も所有を表すなど明確である。本例においては腰帯として仕上げた場合には見ることで見えない裏面に存在することや、「大」一字であることからその意図は明確ではない。完成時にみることができない内面にあることを重視すれば、制作段階における符丁のようなものか、部品を分類するためのものとも解釈できる。しかし、単に部品の分類や符丁による目印的なものであるとするならば、全ての部品に付ける必要があるだろうし、大川遺跡例をはじめとする点状の刻印で充分であり、タガネ状の工具で明瞭に文字を陰刻する必要もないだろう。また、個人や所属を表すものであるとするならば、東大寺例などのように腰帯として完成された状態で見える位置に記入される必要がある。ここでは、文字の性格についての判断は避けたいが、「大」の文字は墨書等にもよく認められる文字であり、吉祥句としても用いられることからそのような可能性を示唆することに留めておきたい。

開拓1号墳の年代的な位置づけ 最後に開拓1号墳の年代的な位置づけについて触れておく。本文中でも記したとおり、前庭部より鍔帯金具が5点出土したが、その形態的特徴から、鍔帯金具の比較的初期段階のものとして捉えてよいものである。鍔帯金具の初現をいつに求めるかは定かではない。しかし、少なくとも『扶桑略記』に見える慶雲4年(707年)の「天下始用革帯」の革帯に鍔帯金具が用いられていたことはほぼ確実であり、少なくとも慶雲4年を下ることはないだろう。したがって、鍔帯金具からは8世紀前半の年代観が導き出される。一方、前庭部より出土した須恵器や土師器もその形態的特徴から概ね奈良時代前半の特長を具備するものであり、鍔帯金具の年代観ともほぼ一致する。では、古墳の方はどうであろうか。少なくとも、横穴式石室の用材に角閃石安山岩を用いることから榛名山二ツ岳の噴火の時期を遡ることはない。また、横穴式石室の形態や築造方法などからも終末期の様相が窺える。前庭部の先端部が補修ないしは付加されたものであることは既に触れたとおりであるが、この際に前庭部前面に円形土壌を掘削するなど大規模な工事を行っている。兎玉地域に隣接する上野地域の鍔帯金具出土古墳をみると前庭部等が補修・付加された例があり、追葬時即ち鍔帯金具の埋葬段階に行われた可能性が指摘されている(註5)。開拓1号墳においても、鍔帯金具の副葬は追葬によるものと思われることから、同様の事例として注目される。したがって、少なくとも古墳の造営は鍔帯金具の年代観を遡るものとしてとらえておく。これらの事実は、腰帯を所有した人々が古墳時代以来の首長を中心とする身分構造から、律令制度による新しい身分秩序に再編成されながらも、古墳に埋葬されるという旧来の身分秩序の関係を脱しきれなかった結果と考えることができよう。このことは、律令国家における東国支配のあり方を考える上で重要であり、奈良時代初期における兎玉

地方の政治的位置づけを示唆するものかもしれない。

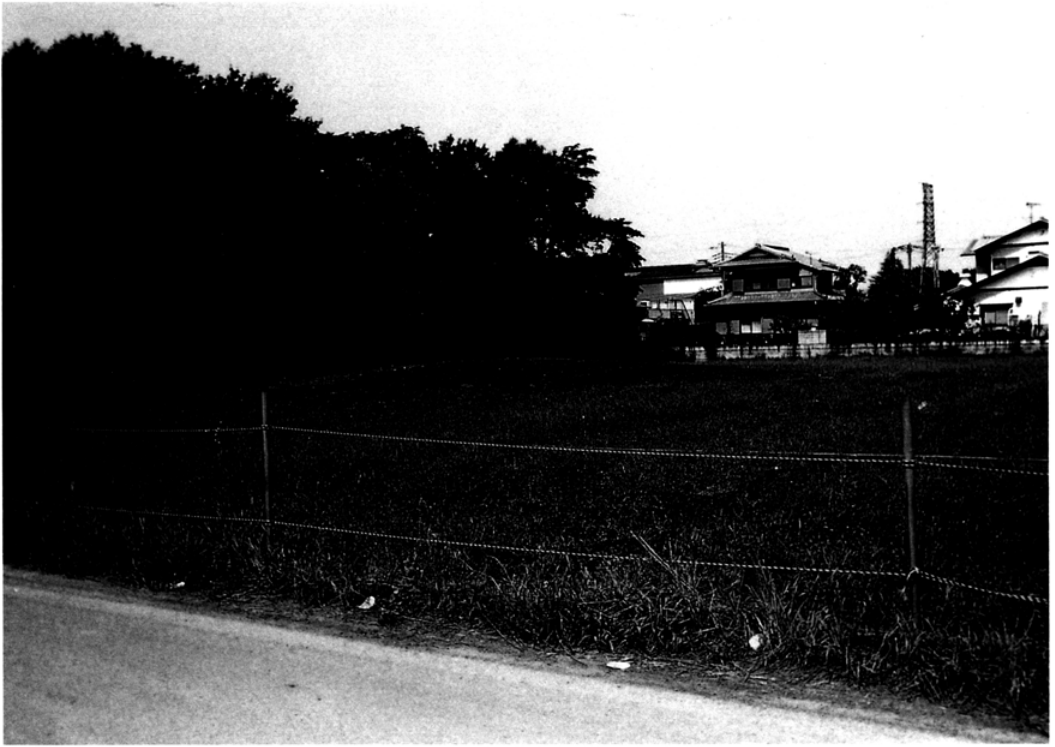
註)

- 1 一般的に上下左右の4面が他の石材と接し、それに壁面を加え計5面を削ることになるが、互目積みの横穴式石室の場合、実際に他の用材と接するのは5～7箇所であり、「5面取り、6面削り」、「5面取り、7面削り」の用語が妥当であるとの指摘がある。(長谷川1978)
- 2 終末期における低墳丘との関連でとらえているようである。(増田他1977)
- 3 神川町青柳古墳群二ノ宮14号墳例等があげられる。
- 4 本例は竪穴式住居址より出土した石帯の例であるが、開拓1号墳を除くと、唯一の内面に記された例である。石帯は全部で38点出土しており、報告者は2群に分類されるとしている。そのうちの1群の巡方と丸竈の1点づつから「十」の墨書が確認されているようである。(塚原1991)
- 5 群馬県榛名町本郷の場D号墳例などがあげられる。(大江1990)

参考文献

- 阿部義平 「銜帯と官位制について」『東北考古学の諸問題』 1976
- 伊藤玄三 「末期古墳の年代について」『古代学 14巻 3・4号』 1968
- 伊藤玄三 「八世紀の銜帯に示される授位」『法政史学 第36号』 1983
- 大江正行他 『本郷の場古墳群』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第108集 群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 大阪府教育委員会 『伽山遺跡発掘調査概要・II』 1982
- 亀田 博 「銜帯と石帯」『関西大学考古学研究室開設30周年記念 考古学論叢』 1983
- 亀田 博 「装身具にみる身分制度」『季刊考古学 第5号』 1983
- 小林敏夫 「群馬県出土の腰帯具について」『群馬の考古学』 1988
- 田中広明 「律令時代の身分表象 (I)」『土曜考古 第15号』 1990 土曜考古学会
- 田中広明 「律令時代の身分表象 (II)」『土曜考古 第16号』 1991 土曜考古学会
- 塚原二郎 「多量の石銜が出土した住居址」『東京の遺跡 No.31』 1991 東京考古談話会
- 奈良国立文化財研究所 『平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告書』 1984
- 奈良国立文化財研究所 『平城京発掘調査報告 VI』 1974
- 奈良国立博物館 『昭和59年 正倉院展』 1987
- 奈良国立博物館 『昭和62年 正倉院展』 1990
- 長谷川勇 『御手長山古墳発掘調査報告書』 本庄市埋蔵文化財調査報告第1集 1978 本庄市教育委員会
- 廣瀬 圭 「古代服制の基礎的考察」『日本歴史 1978-1 第356号』 1978
- 松村恵司 「銜帯の復元的研究」『日本考古学協会第53回総会研究発表要旨』 1987 日本考古学会
- 増田逸朗他 『塚本山古墳群』 埼玉県遺跡発掘調査報告第10集 埼玉県教育委員会 1977
- 山本 彰 「奈良時代墳墓の一形態」『横田健一先生古希記念文化史論叢 (上)』 1987
- 余市町教育委員会 『1989年度大川遺跡発掘調査概報』 1990
- 六反田遺跡調査会 『六反田』 1981

写 真 图 版



調査前の状況（東より）



調査前の状況（北より）

写真図版 2



前庭部の石材出土状況（西より）



前庭部の石材出土状況（南より）

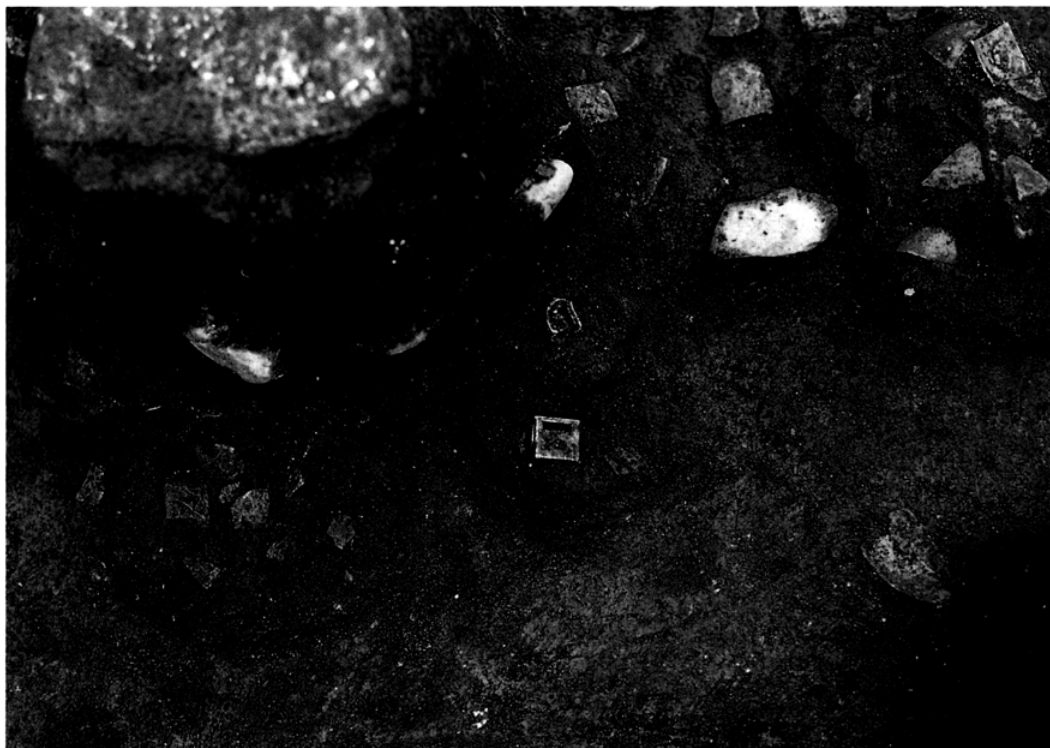


前庭部遺物出土状況（南より）

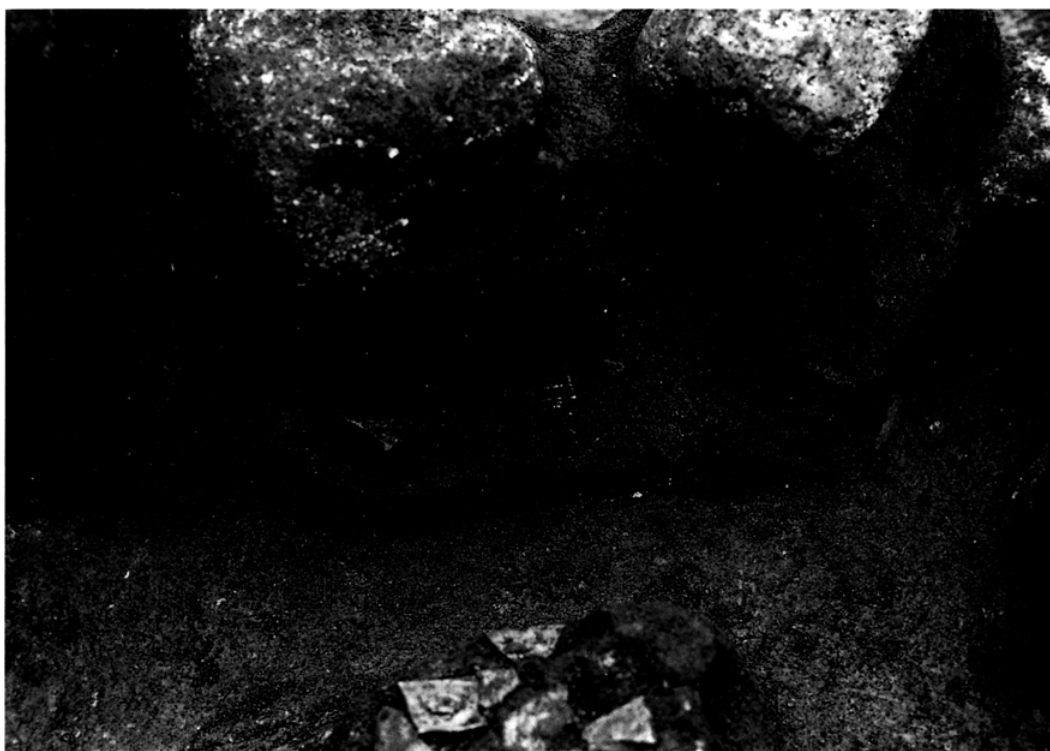


前庭部遺物状況（北より）

写真図版 4



鍔帯金具出土状況（東より）



鍔帯金具出土状況（南より）



前庭部の状況（南より）



前庭部東壁の状況（西より）

写真図版 6



前庭部西壁の状況（東より）



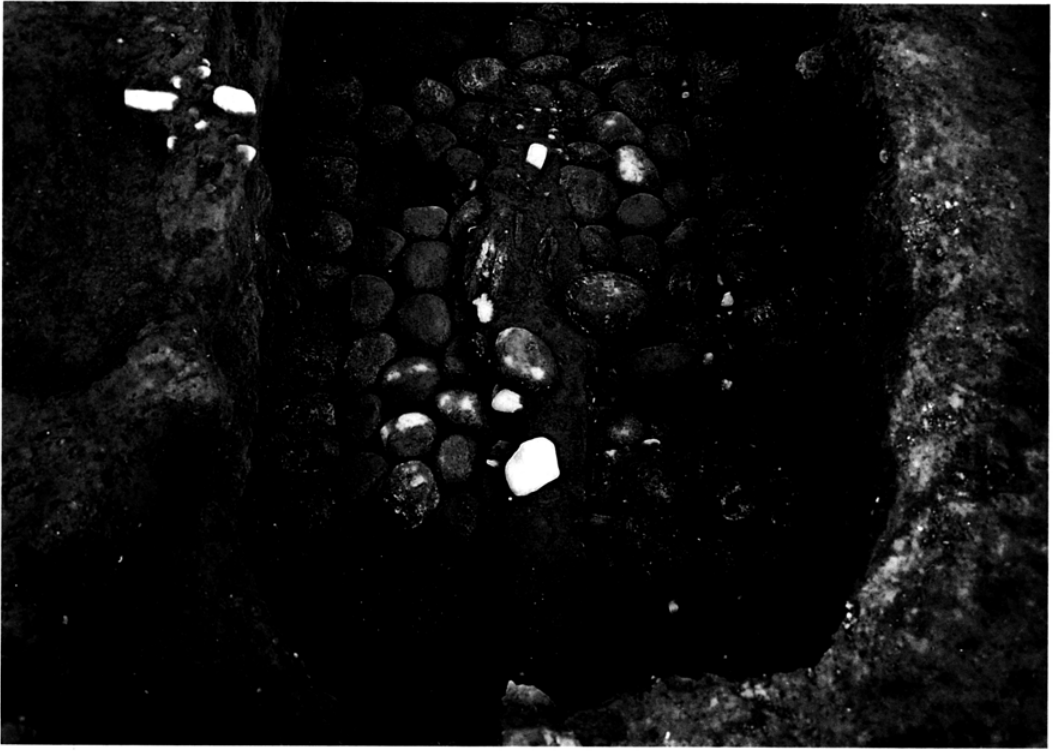
前庭部石組み断ち割状況（南より）



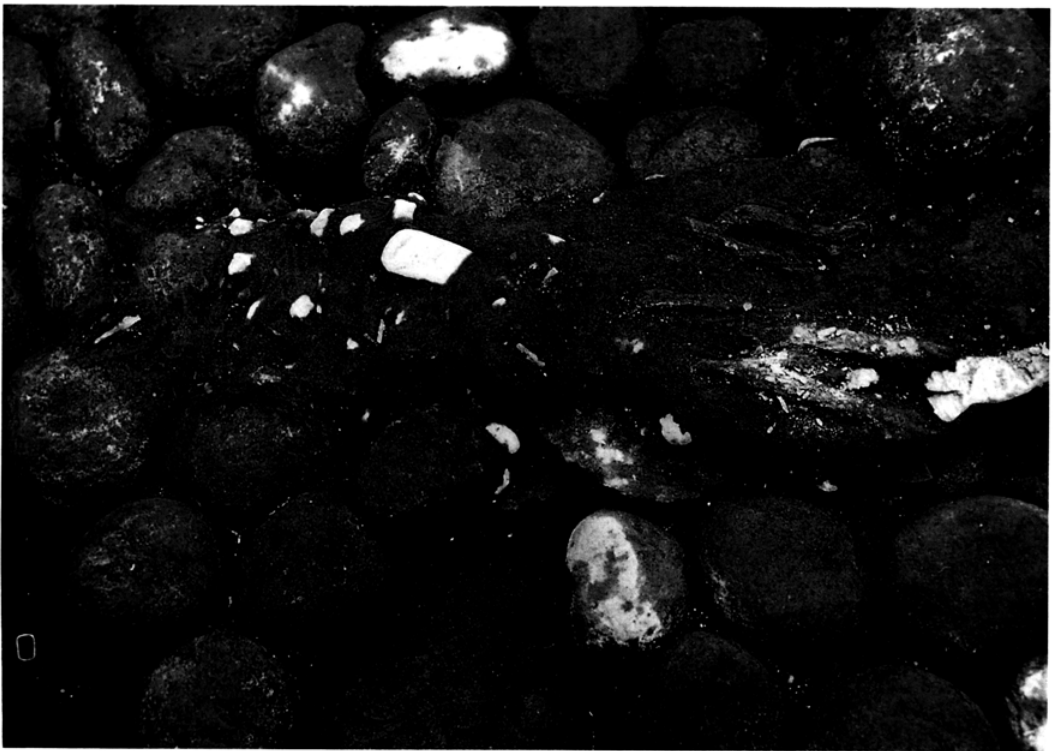
横穴式石室の状況（南より）



横穴式石室西壁の状況（東より）



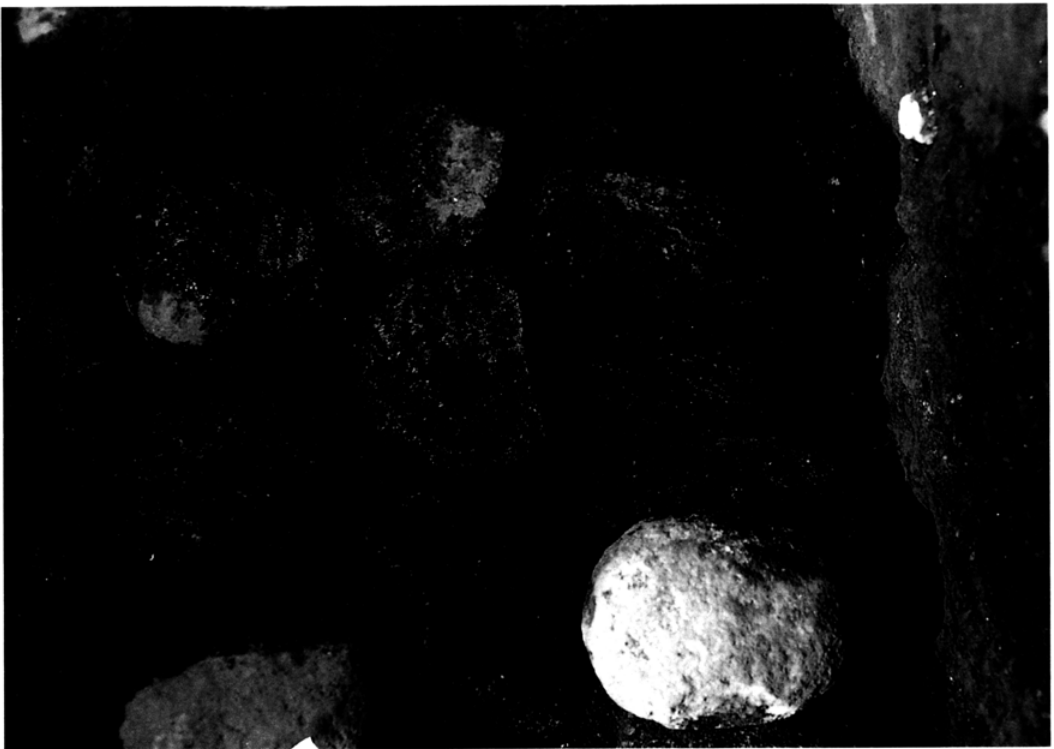
横穴式石室遺物出土状況（北より）



横穴式石室遺物出土状況（東より）



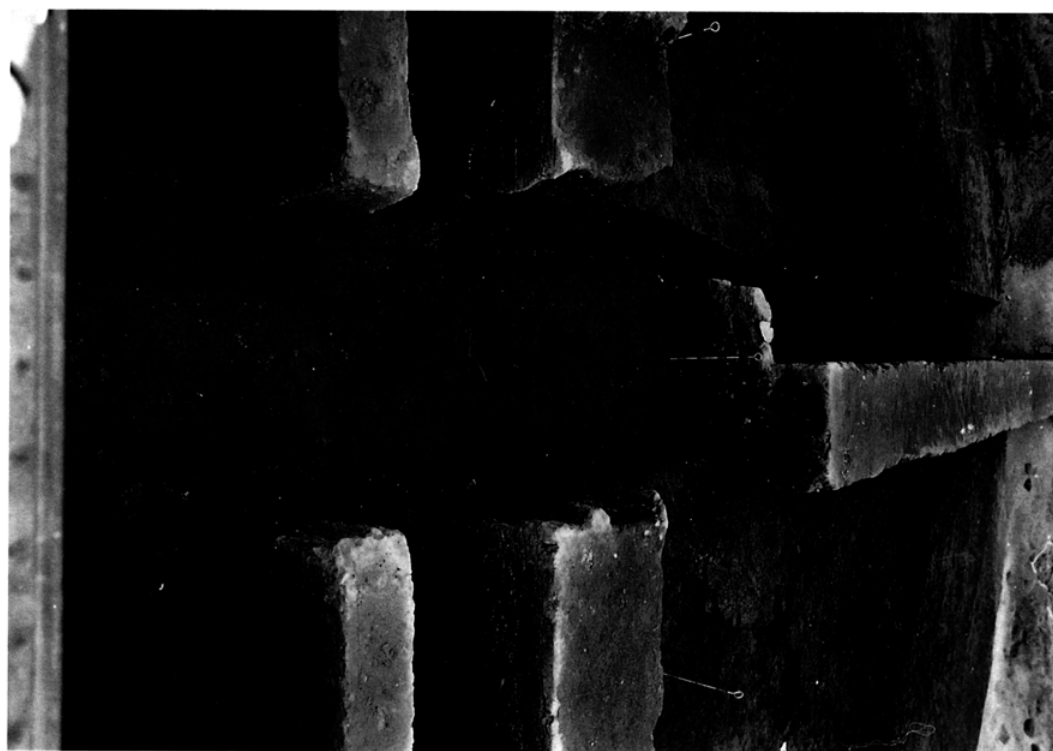
横穴式石室床面の状況（南より）



横穴式石室壁体と床面の状況（南より）



横穴式石室根石の状況（北より）



横穴式石室床面下の状況（北より）



横穴式石室掘方の状況（南より）



横穴式石室掘方の掘削具の痕跡（南より）



墳丘盛土の状況（西より）



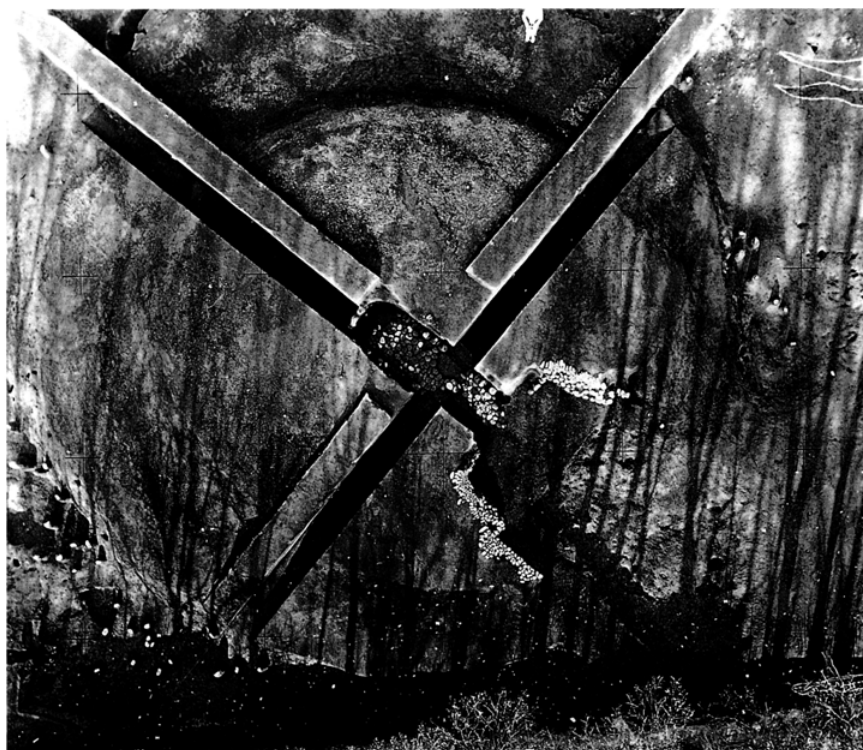
墳丘盛土の状況（南より）



第1号住居址の状況（東より）



第1号住居址の竈の状況（東より）



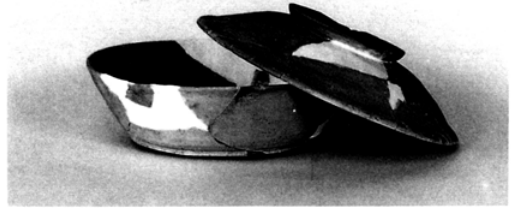
空中写真



調査風景



須恵器坏・坏盖（第13図—1、2）



須恵器坏・坏盖（第13図—3、4）



須恵器高台碗（第13図—9）



須恵器高台碗（第13図—11）



土師器坏（第13図—20）



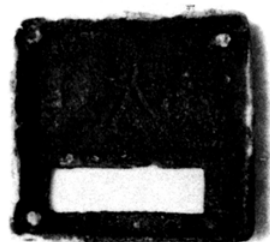
土師器坏（第14図—47）



銜帶金具



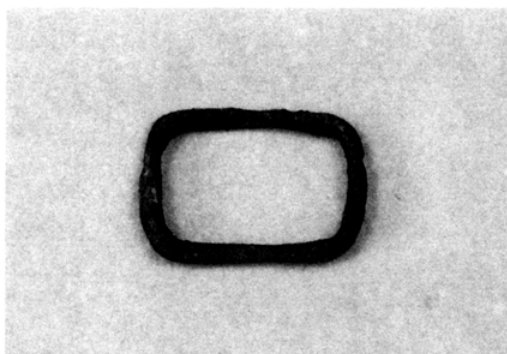
「大」字銘銜帶金具（表）（第14図-3）



「大」字銘銜帶金具（裏）



鉸具（第16図-11）



青銅製金具（第16図-10）

報告書抄録

ふりがな	あさひ・おじまこふんぐんかいたく1ごうふん							
書名	旭・小島古墳群 開拓1号墳							
副書名								
巻次								
シリーズ名	本庄市遺跡調査会報告							
シリーズ番号	第2集							
編著者名	佐藤好司							
編集機関	本庄市遺跡調査会							
所在地	〒367 埼玉県本庄市本庄3-5-3 TEL 0495-25-1111							
発行年月日	西暦 1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かいたくごうふん 開拓1号墳	さいたまけんほんじょう 埼玉県本庄 市大字下野堂 あざかいたくほん 字開拓611番 地	53	128	36°14'31"	139°9'52"	19910801) 19920331	1,600	宅地造成に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
開拓1号墳	古墳	古墳時代 飛鳥時代 奈良時代		古墳 住居址 溝 土壇	1基 1軒 3条 多数	土師器 須恵器 銚帯金具 刀子 鉄釘 青銅製金具		銚帯金具巡 方裏面に 「大」の陰 刻

旭・小島古墳群 開拓1号墳発掘調査報告書

平成9年3月20日 印刷

平成9年3月31日 発行

発行 本庄市教育委員会
埼玉県本庄市本庄3-5-3

印刷 朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67

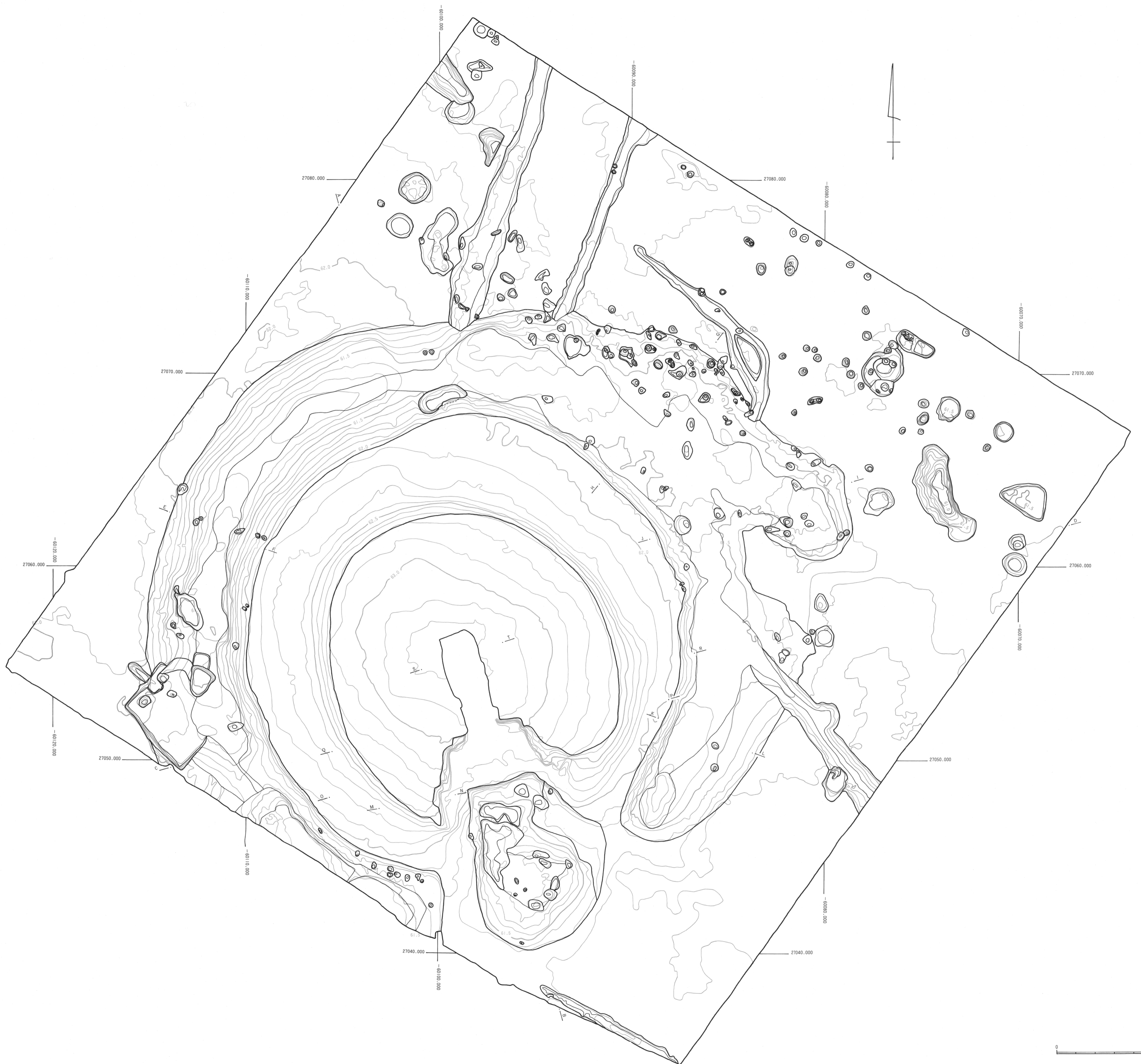
旭・小島古墳群開拓1号墳

発掘調査報告書

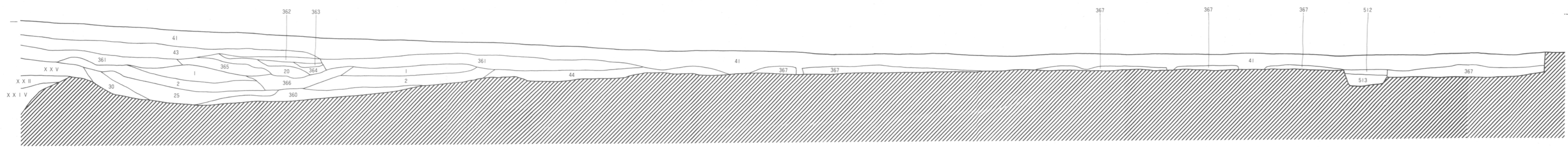
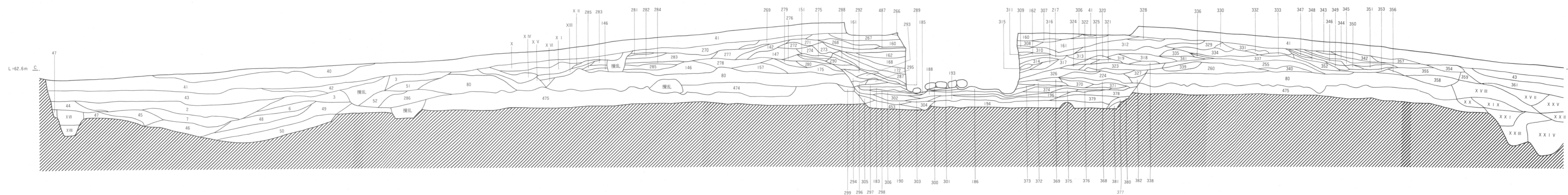
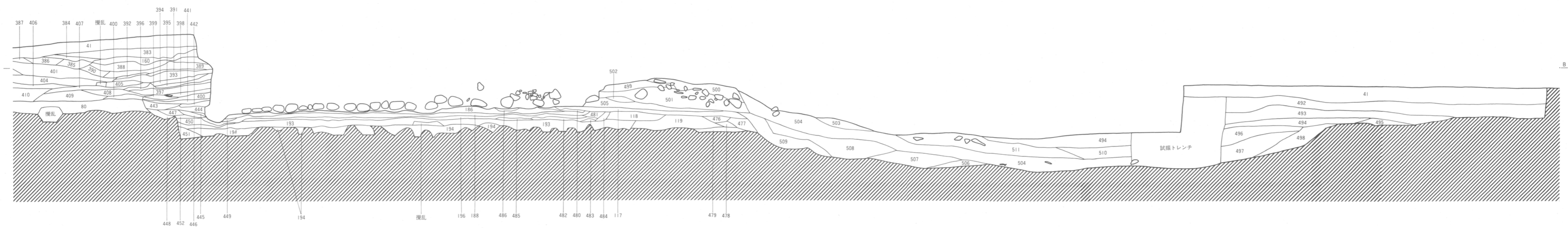
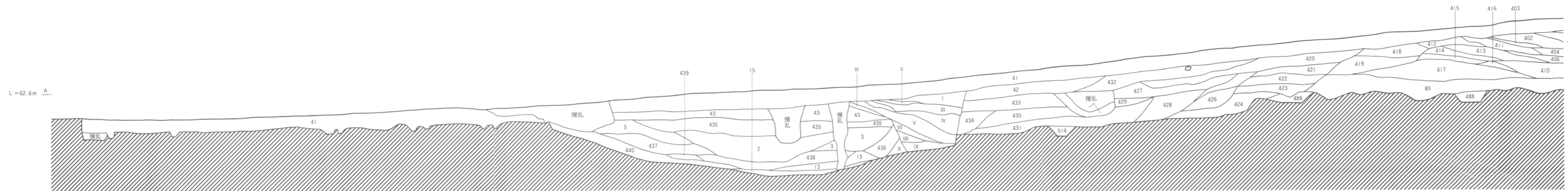
付図1 開拓1号墳全体図

付図2 開拓1号墳土層図(3)

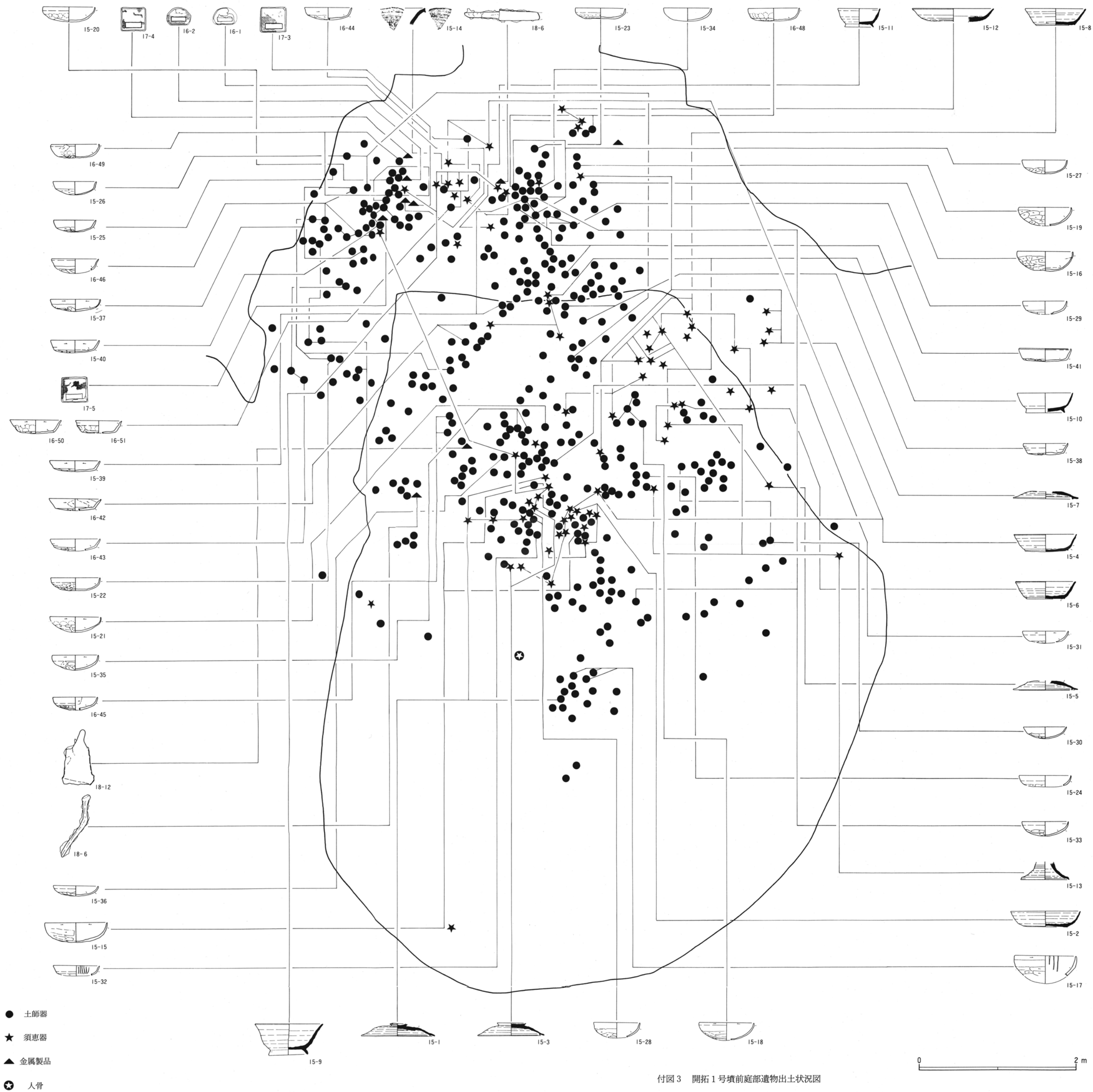
付図3 開拓1号墳前庭部遺物出土状況図



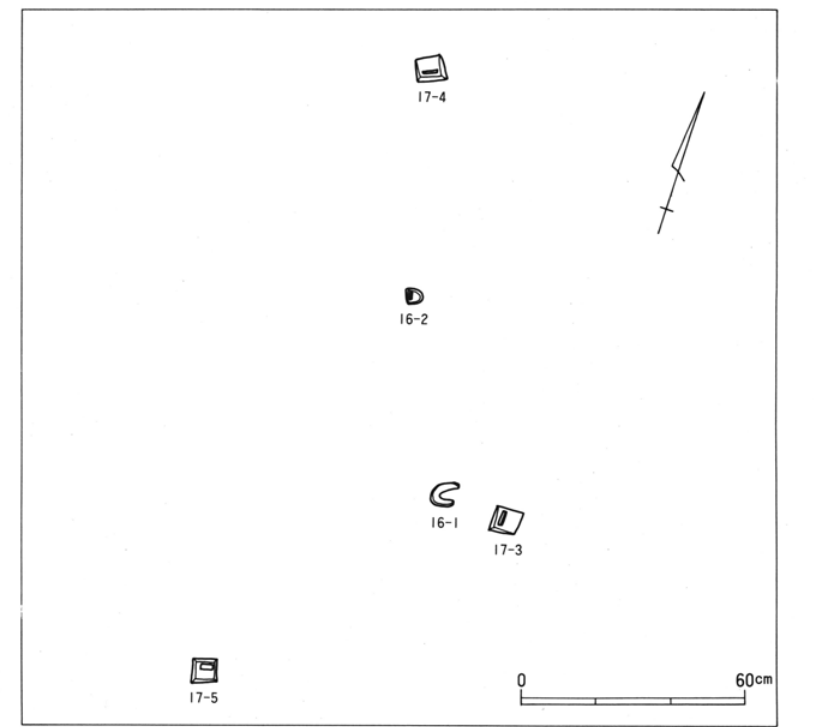
付图1 开拓1号填全体图



付図2 開拓1号墳土層図(3)



付図3 開拓1号墳前庭部遺物出土状況図



鍔帯金具出土状況

